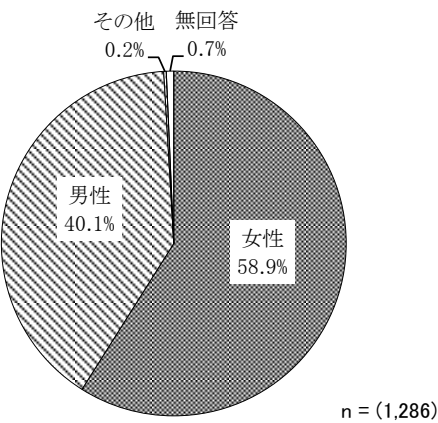


第2章 調査結果の詳細

1. ご自身のことについて

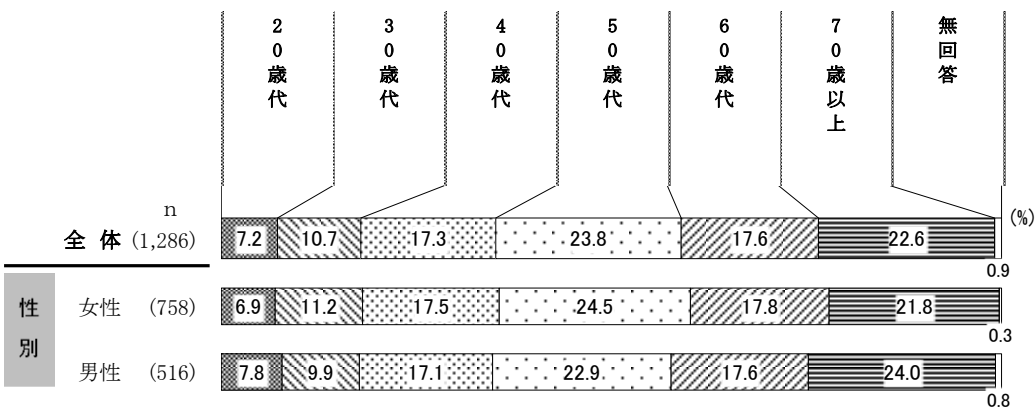
(1) 性別

性別についてみると、「女性」が58.9%で最も高く、次いで、「男性」(40.1%)、「その他」(0.2%)となっている。



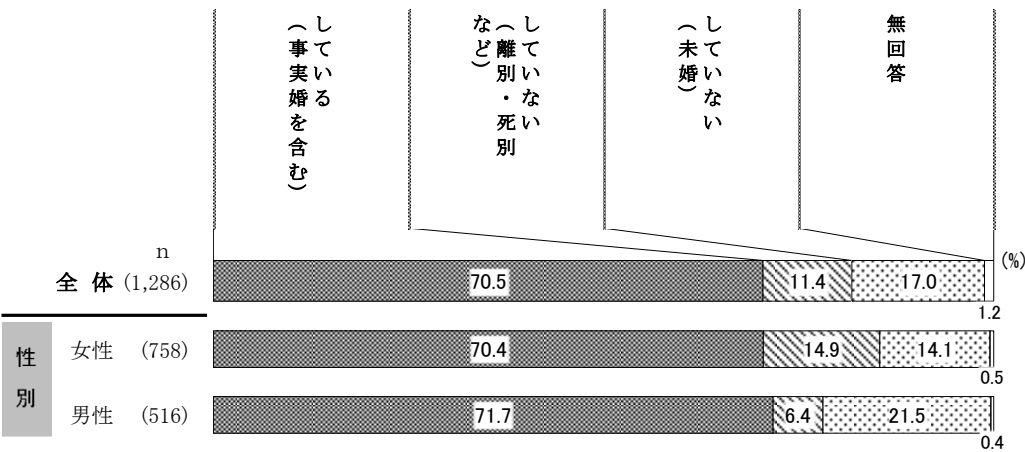
(2) 年齢

年齢についてみると、「50歳代」が23.8%で最も高く、次いで、「70歳以上」(22.6%)、「60歳代」(17.6%)、「40歳代」(17.3%)となっている。
性別にみると、男女間に大きな違いはみられない。



(3) 婚姻の有無

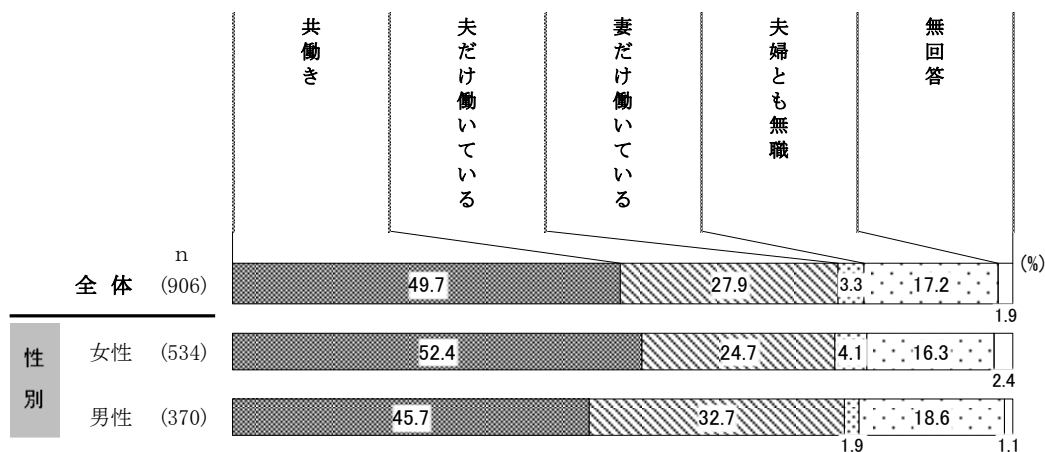
婚姻の有無についてみると、「している (事実婚を含む)」が70.5%で最も高く、次いで、「していない (未婚)」(17.0%)、「していない (離別・死別など)」(11.4%)となっている。
性別にみると、男女ともに「している (事実婚を含む)」が7割以上で最も高くなっている。女性は「していない (離別・死別など)」(14.9%)と「していない (未婚)」(14.1%)が同程度となっており、男性は次いで「していない (未婚)」(21.5%)が高くなっている。



(4) 夫婦の働き方

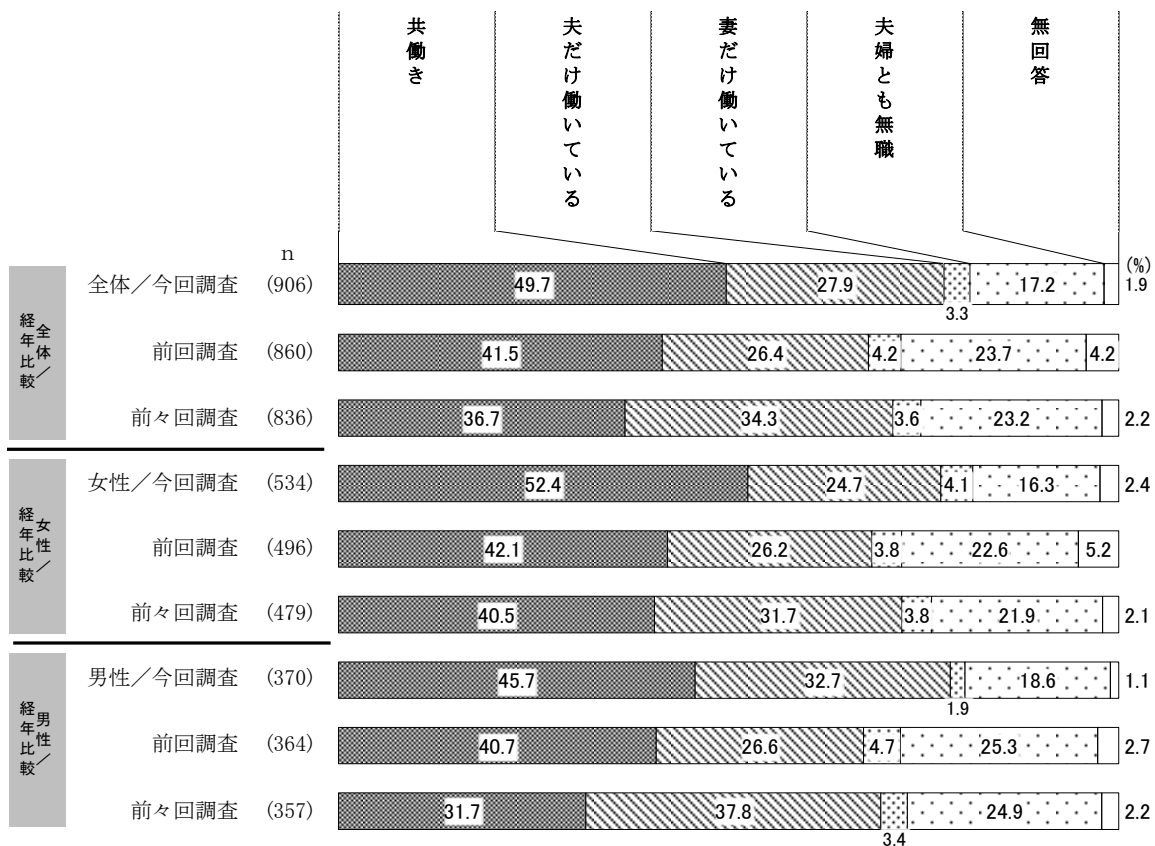
夫婦の働き方についてみると、「共働き」が49.7%で最も高く、次いで、「夫だけ働いている」(27.9%)、「夫婦とも無職」(17.2%)となっている。

性別にみると、男女ともに「共働き」が最も高くなっているが、女性(52.4%)が男性(45.7%)より6.7ポイント高くなっている。また、「夫だけ働いている」は男性(32.7%)が女性(24.7%)より8ポイント高くなっている。



■経年比較

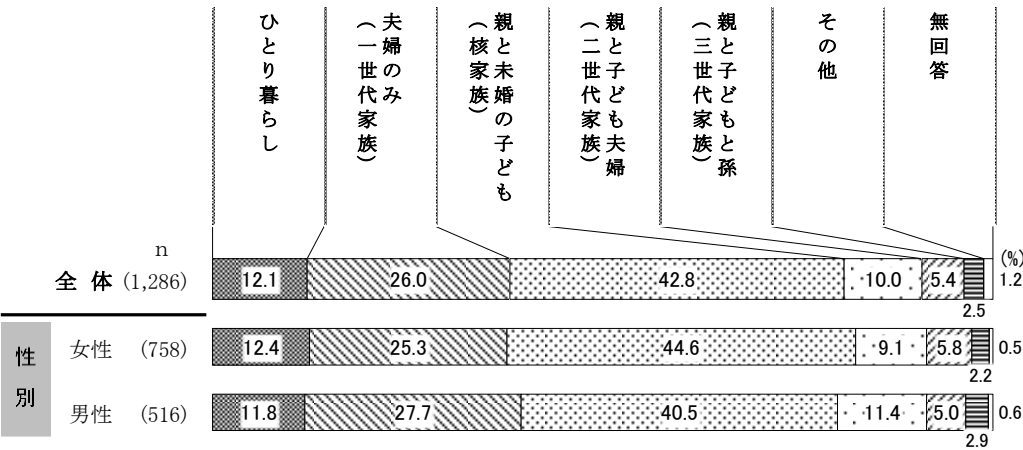
経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて「共働き」が増加しており、前回調査から8.2ポイント増加している。



(5) 世帯構成

世帯構成についてみると、「親と未婚の子ども（核家族）」が42.8%で最も高く、次いで、「夫婦のみ（一世代家族）」(26.0%)、「ひとり暮らし」(12.1%)、「親と子ども夫婦（二世代家族）」(10.0%) となっている。

性別にみると、男女間に大きな違いはみられない。



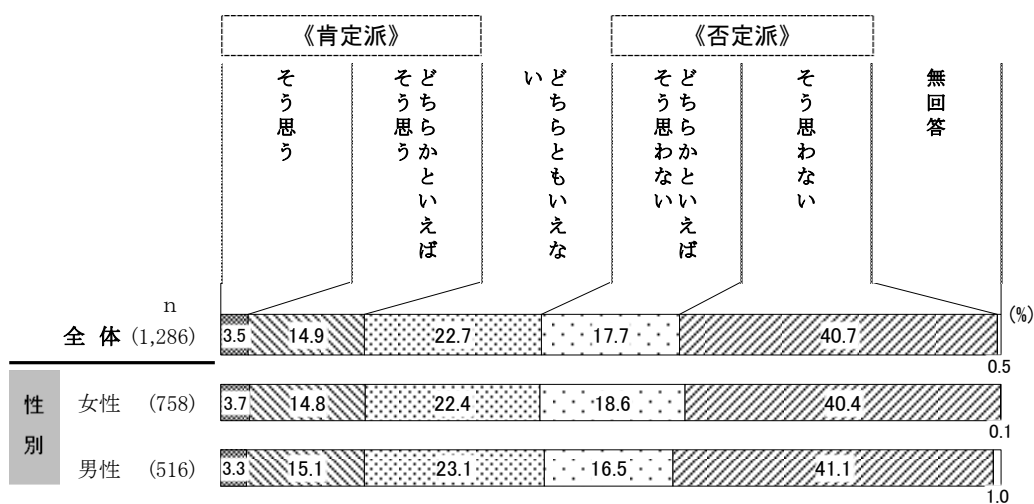
2. 家庭内の役割分担について

(1) 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についての意識

問1 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。
(○は1つ)

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についての意識についてみると、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた《否定派》が58.4%、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《肯定派》が18.4%となっており、《否定派》が《肯定派》を上回っている。

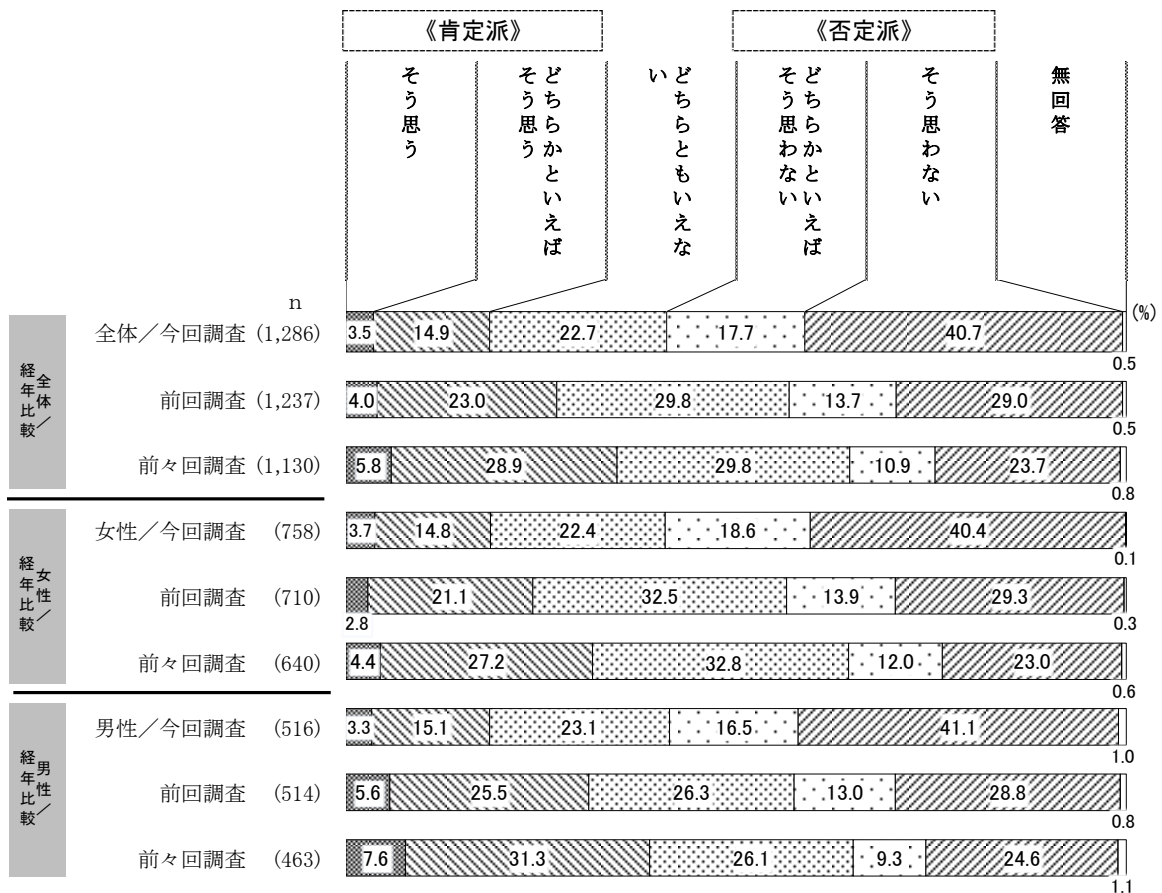
性別にみても同様の傾向がうかがえ、男女間に大きな違いはみられない。



■経年比較

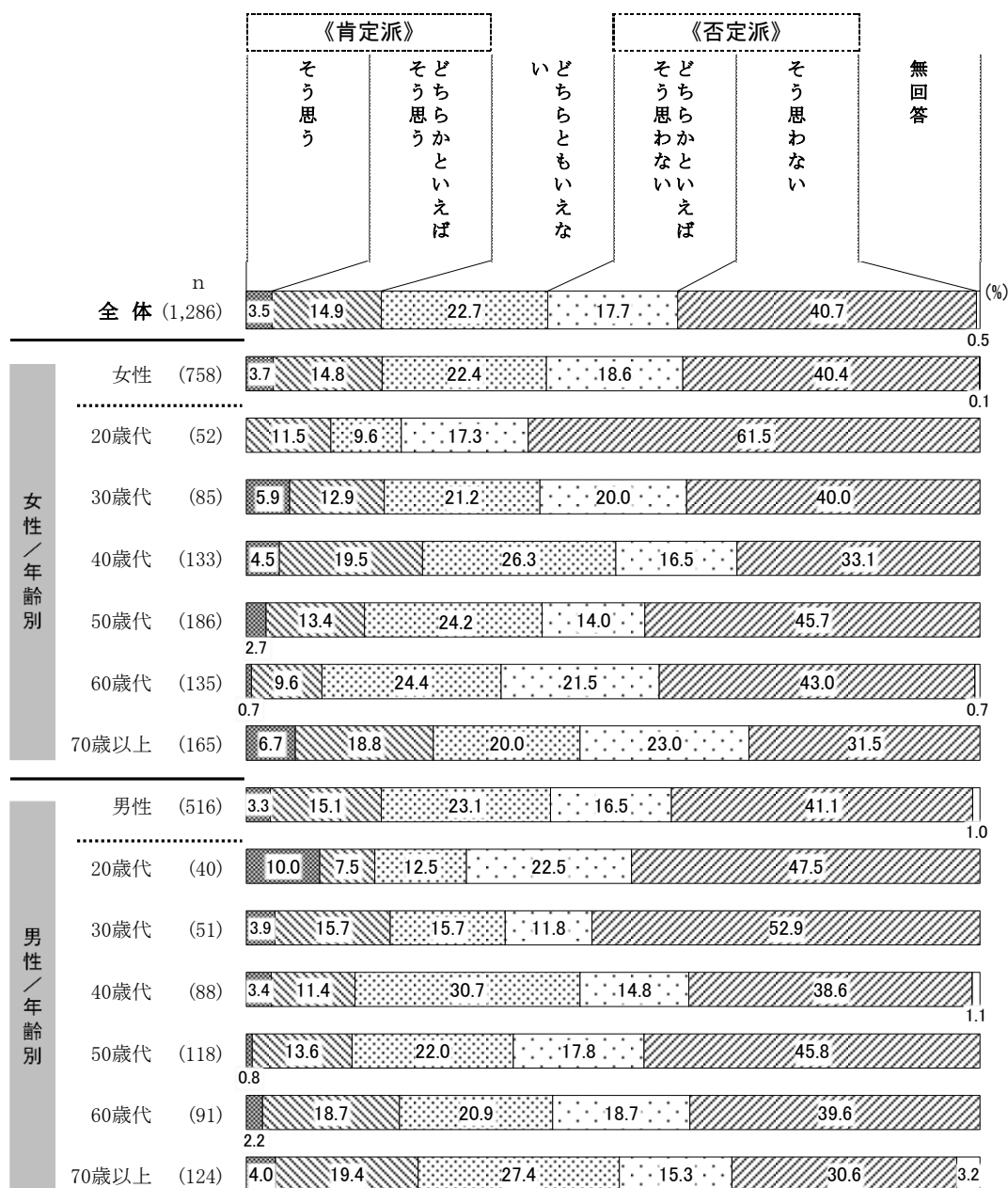
経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて《肯定派》は減少しており、前回調査から8.6ポイント減少している。また、《否定派》は増加しており、前回調査から15.7ポイント増加している。

性別にみても同様の傾向がうかがえ、前回調査から男女ともに《否定派》が15ポイント以上増加し、男性で《肯定派》が12.7ポイント減少している。



■性年齢別

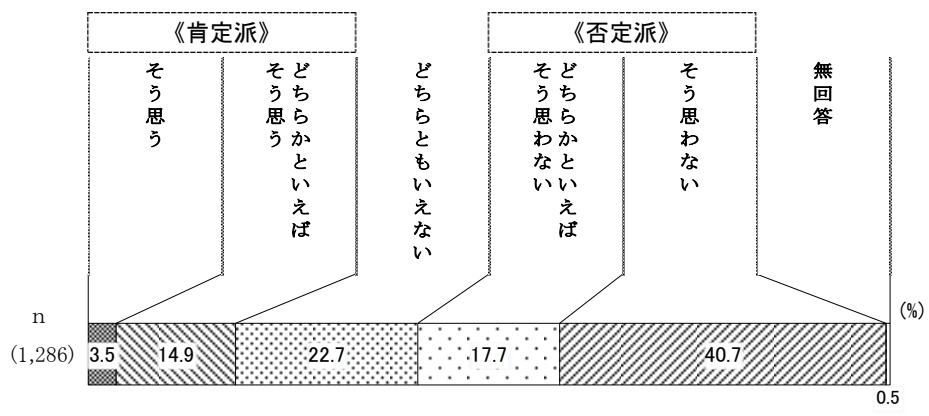
性年齢別にみると、20歳代では《否定派》が女性で約8割（78.8%）、男性で7割（70.0%）と他の年代より高くなっている。《肯定派》が男女ともに70歳以上、女性の40歳代と男性の60歳代で2割以上となっている。



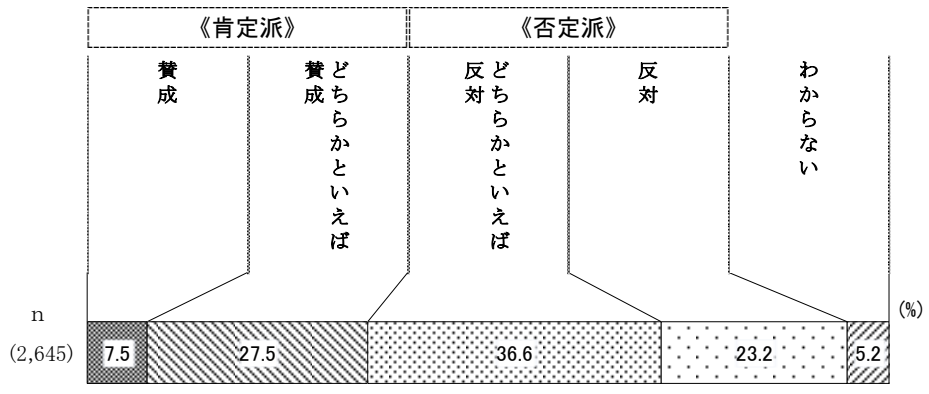
■国比較

内閣府が2019年に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」とは文章表現や選択肢が異なることを考慮する必要があるが、参考として内閣府の調査と比較すると、町田市で「そう思わない」、国で「どちらかといえば反対」が最も高くなっている。また、町田市の「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた《否定派》（58.4%）と、国の「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた《否定派》（59.8%）は、ともに過半数を占めている。

【町田市】



【国】

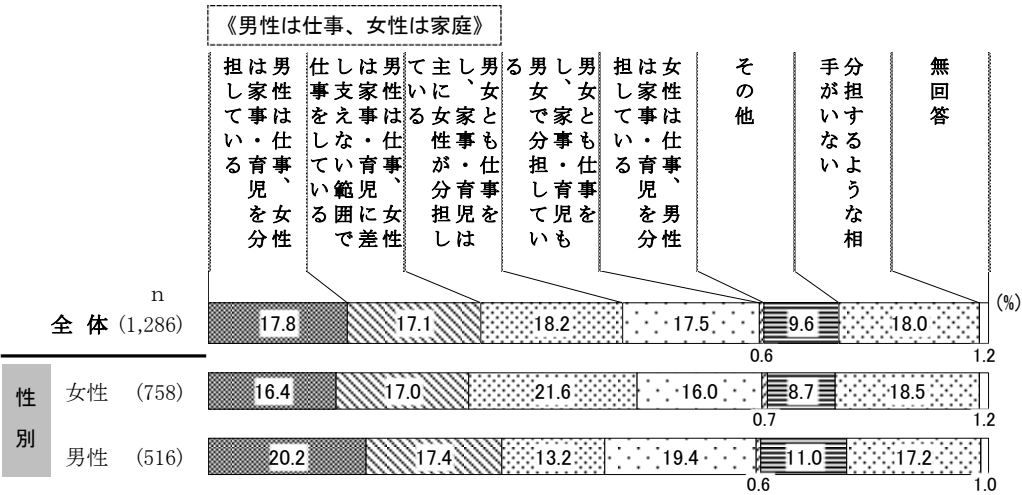


(2) 家庭での役割分担

問2 あなたのご家庭での役割分担はどうなっていますか。最も近いものを1つお選びください。(○は1つ)

家庭での役割分担についてみると、「男性は仕事、女性は家事・育児を分担している」、「男性は仕事、女性は家事・育児に差し支えのない範囲で仕事をしている」、「男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性が分担している」を合わせた《男性は仕事、女性は家庭》が53.1%となっている。また、「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している」は17.5%となっている。

性別にみると、「男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性が分担している」は女性（21.6%）が男性（13.2%）より8.4ポイント高くなっている。



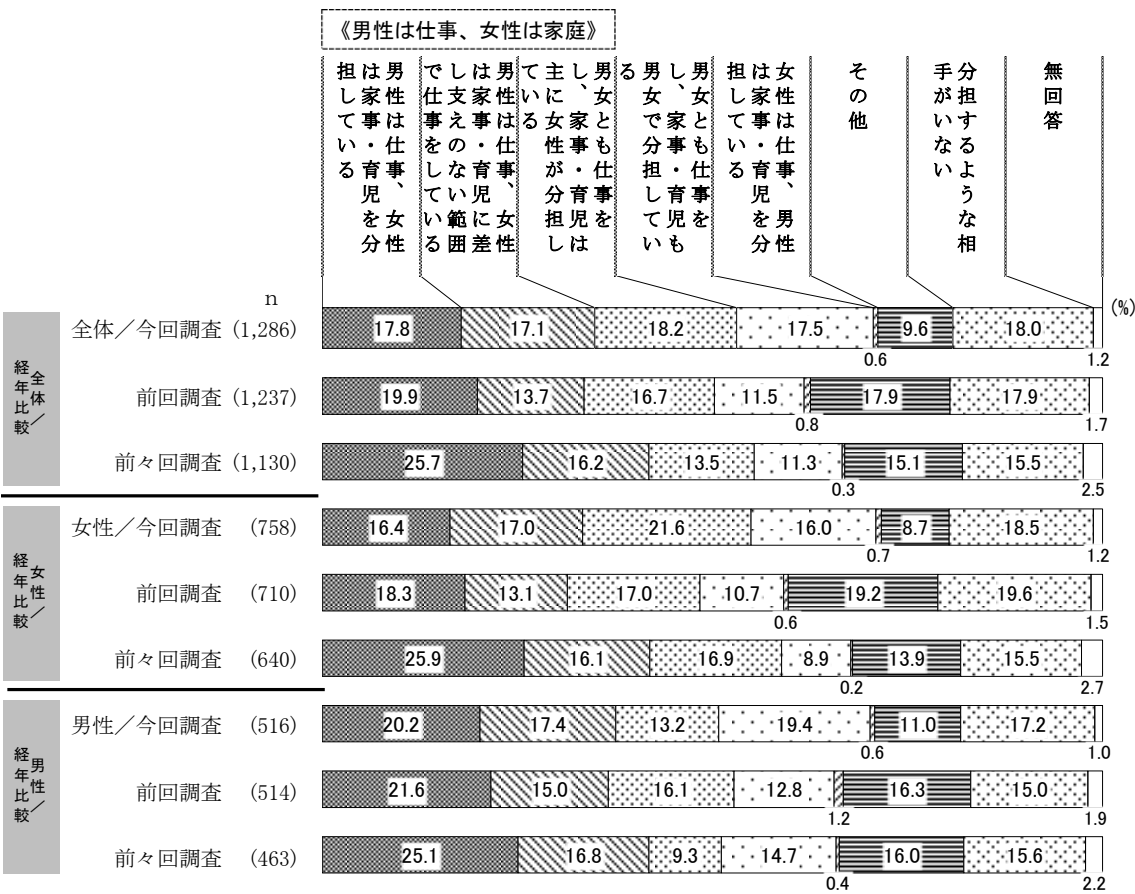
■主な「その他」の回答

現在、無職（33 件）
・ 後期高齢者なので男が家事の一部を分担。
・ 夫はリタイア後、できる範囲の家事をしている。私は、パートをしながら、夫が出来ない家事（主に食事作り）をしている。
・ 退職に依り現在は家事を分担している。
・ 男女とも仕事はもうしていないが、家事は分担している。
・ 男女共退職後の為、家事等は協力し合って行なっている
特に役割分担は決まっていない（20件）
・ 家事はできる人がやる。又、育児に男女は関係ない。
・ 役割分担はない。
・ 自営業なので、それぞれが協力しあって行っている。
・ 高齢なため、特に分担は決めていないが、協力出来る範囲で行っている。

■経年比較

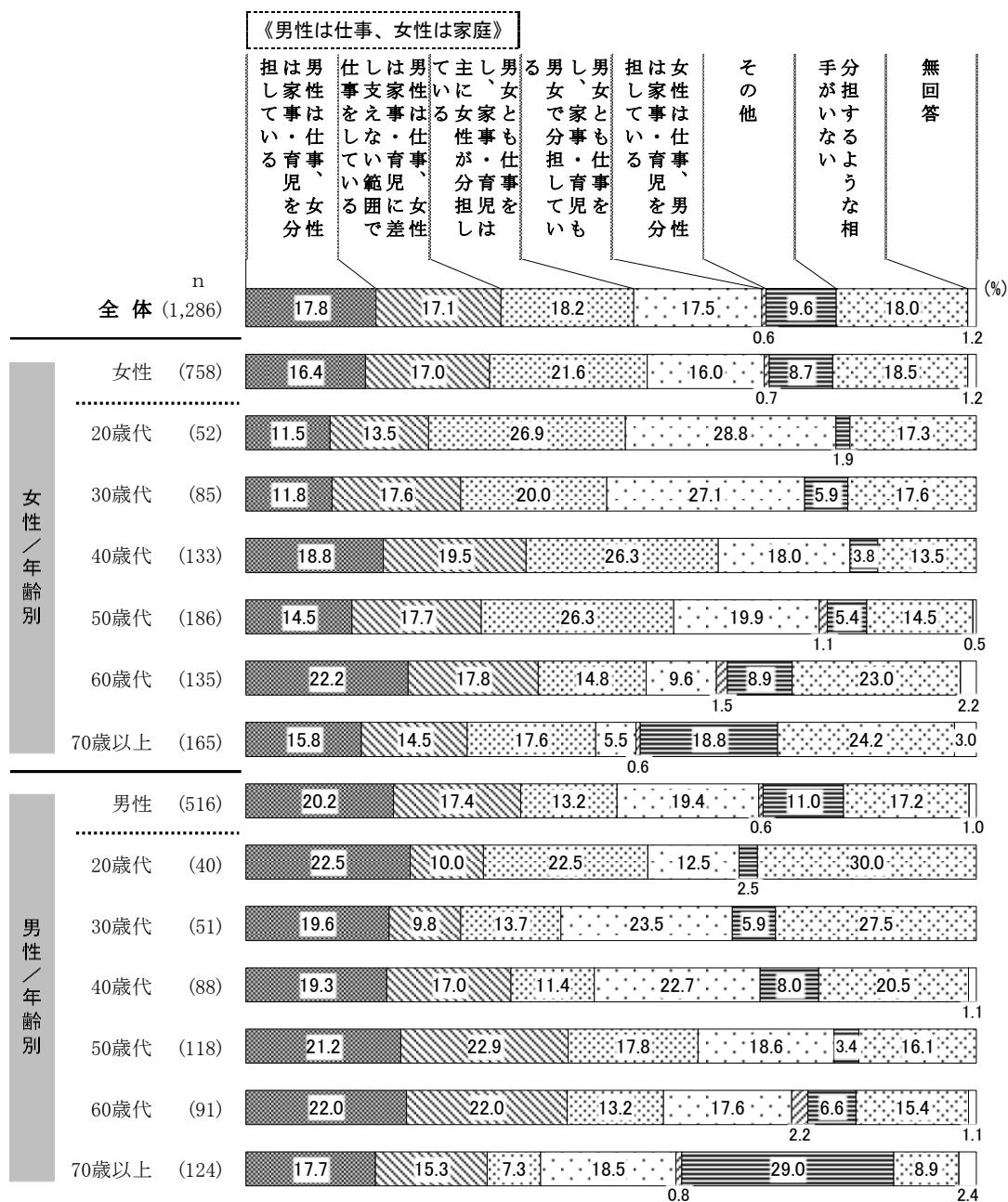
経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて「男性は仕事、女性は家事・育児を分担している」は減少していることがうかがえる。前回調査と比較すると、「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している」が6ポイント増加している。

性別にみると、男女ともに「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している」が増加している。一方で、女性で《男性は仕事、女性は家庭》が6.6ポイント増加している。



■性年齢別

性年齢別にみると、「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している」が女性の20歳代、30歳代で約3割、男性の30歳代、40歳代で2割以上と、他の年代より高くなっている。女性では、「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している」が20歳代、30歳代で約3割、40歳代、50歳代で約2割、60歳代、70歳以上で1割未満と、年代が上がるほど低くなる傾向がうかがえる。《男性は仕事、女性は家庭》が女性の40歳代、男性の50歳代で6割以上、女性の50歳代、60歳代で約6割と、他の年代より高くなっている。



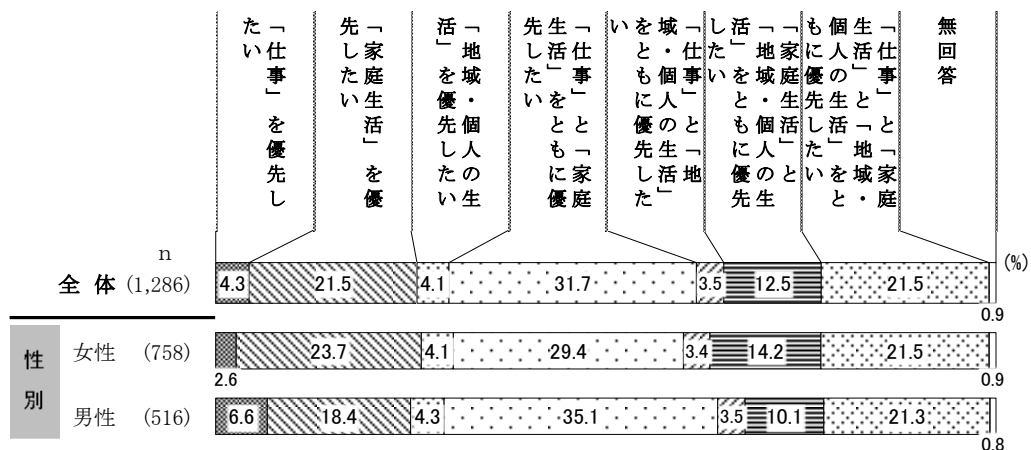
3. 家庭生活と社会生活の両立について

(1) 生活の中での優先度（希望）

問3 あなたの生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度についておたずねします。あなたの希望に最も近いものを1つだけお選びください。(〇は1つ)

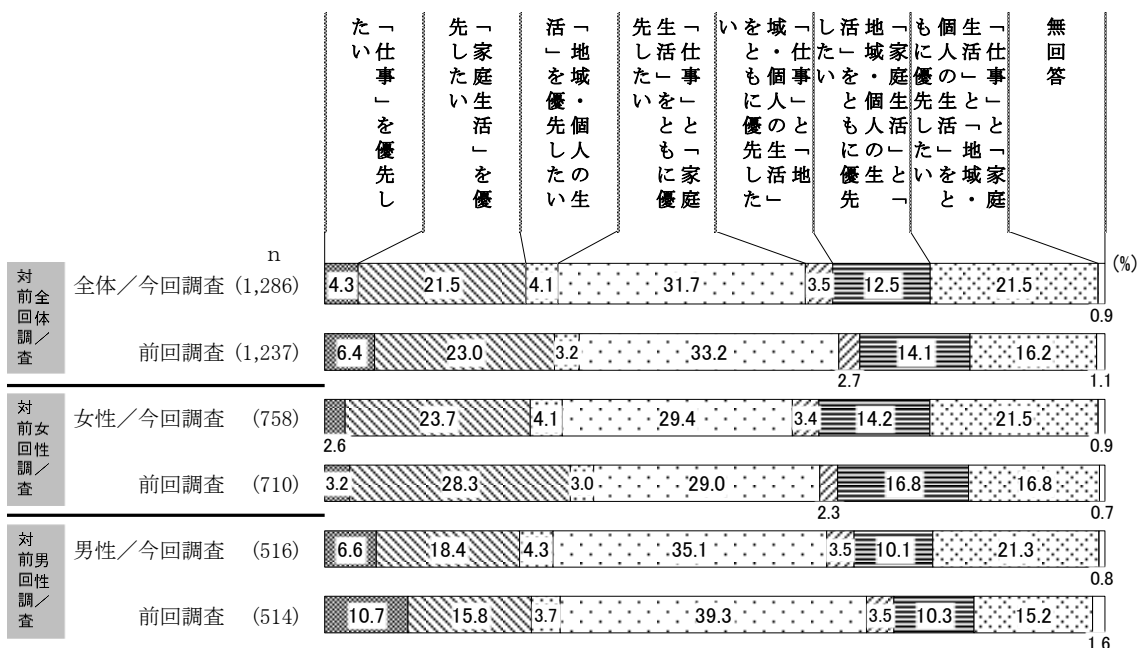
生活の中での優先度（希望）についてみると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが31.7%で最も高く、次いで、『家庭生活』を優先したい、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したいが同値（21.5%）となっている。

性別にみると、男女ともに『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが最も高くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいは男性（35.1%）が女性（29.4%）より5.7ポイント高くなっている。一方で、『家庭生活』を優先したいは女性（23.7%）が男性（18.4%）より5.3ポイント高くなっている。



■経年比較

前回調査と比較すると、男女ともに『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したいが増加している。

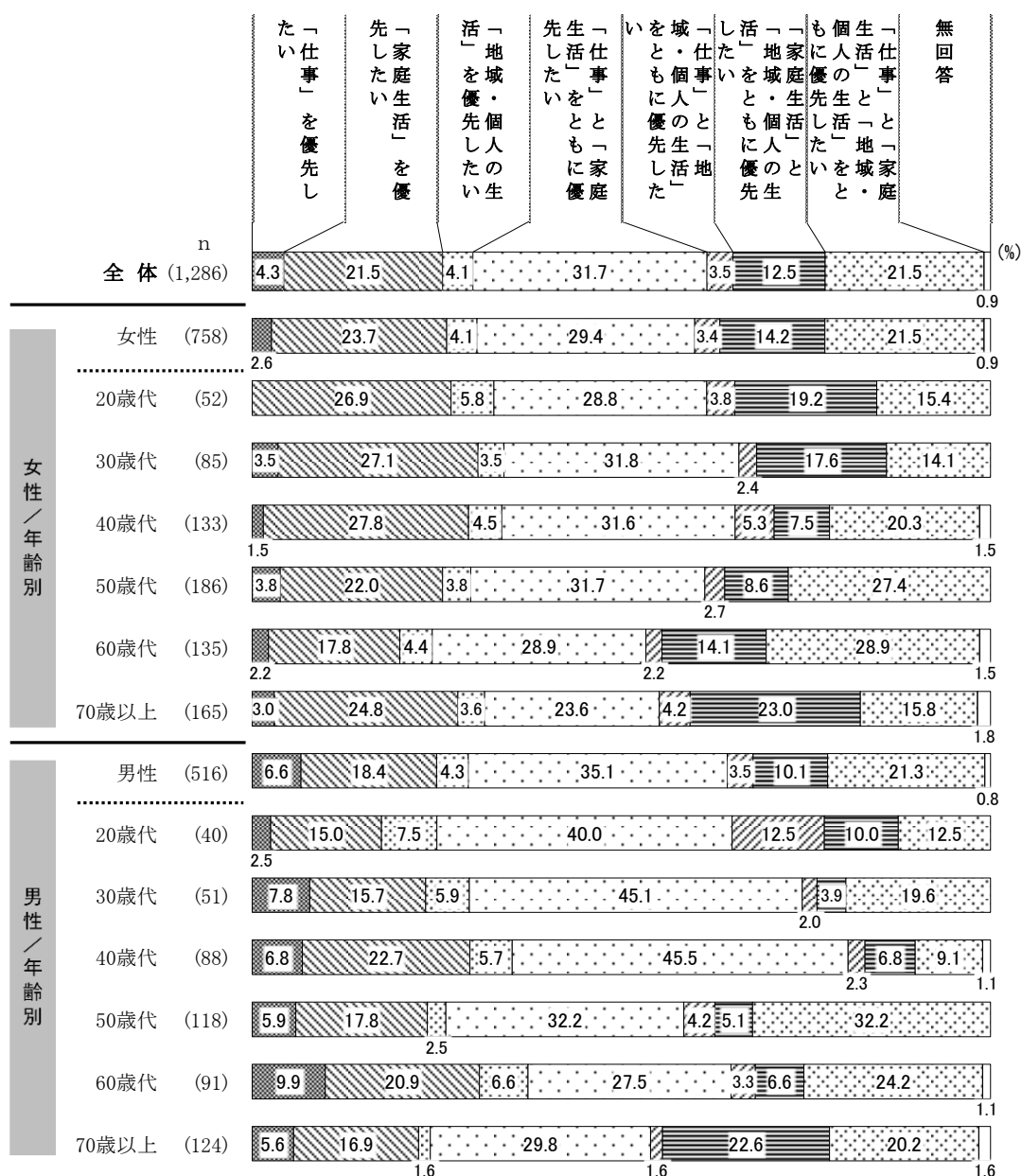


■性年齢別

性年齢別にみると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が男性の20歳代～40歳代で4割以上と、他の年代より高くなっている。

また、『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が男女ともに70歳以上で2割以上を占めているが、女性の20歳代、30歳代でも約2割と、他の年代よりも高くなっている。

女性は70歳以上を除くすべての年代で『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が最も高くなっているが、20歳代～40歳代で『家庭生活』を優先したい」が約3割と次いで高くなっている。

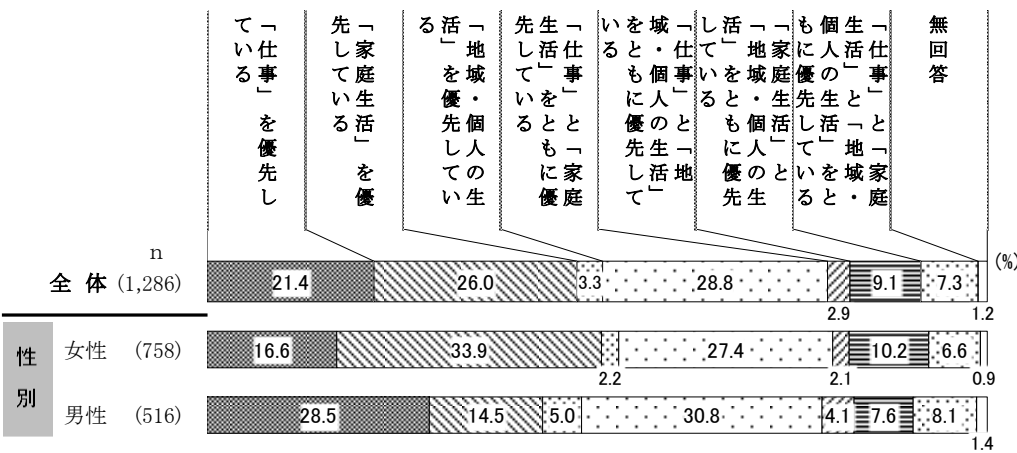


(2) 生活の中での優先度（現実）

問4 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」について、あなたの現実（現状）に最も近いものを1つだけお選びください。（○は1つ）

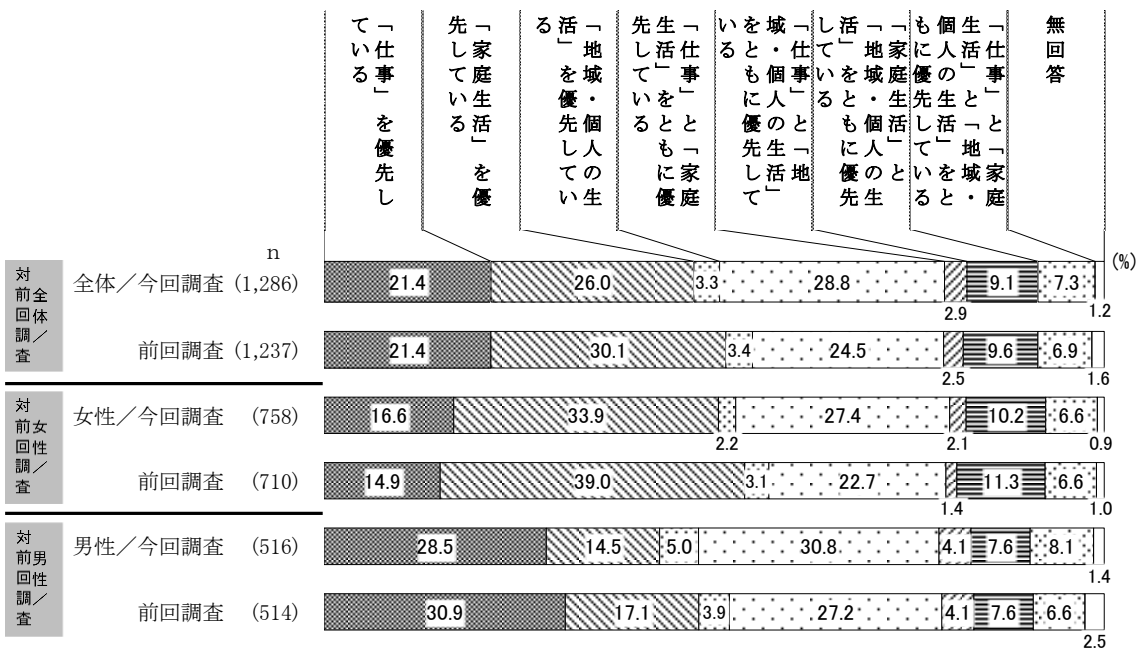
生活の中での優先度（現実）についてみると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が28.8%で最も高く、次いで、『家庭生活』を優先している」（26.0%）、『仕事』を優先している」（21.4%）となっている。

性別にみると、女性で『家庭生活』を優先している」が33.9%と最も高く、男性（14.5%）より19.4ポイント高くなっている。一方、男性で『仕事』を優先している」が28.5%と最も高く、女性（16.6%）より11.9ポイント高くなっている。



■経年比較

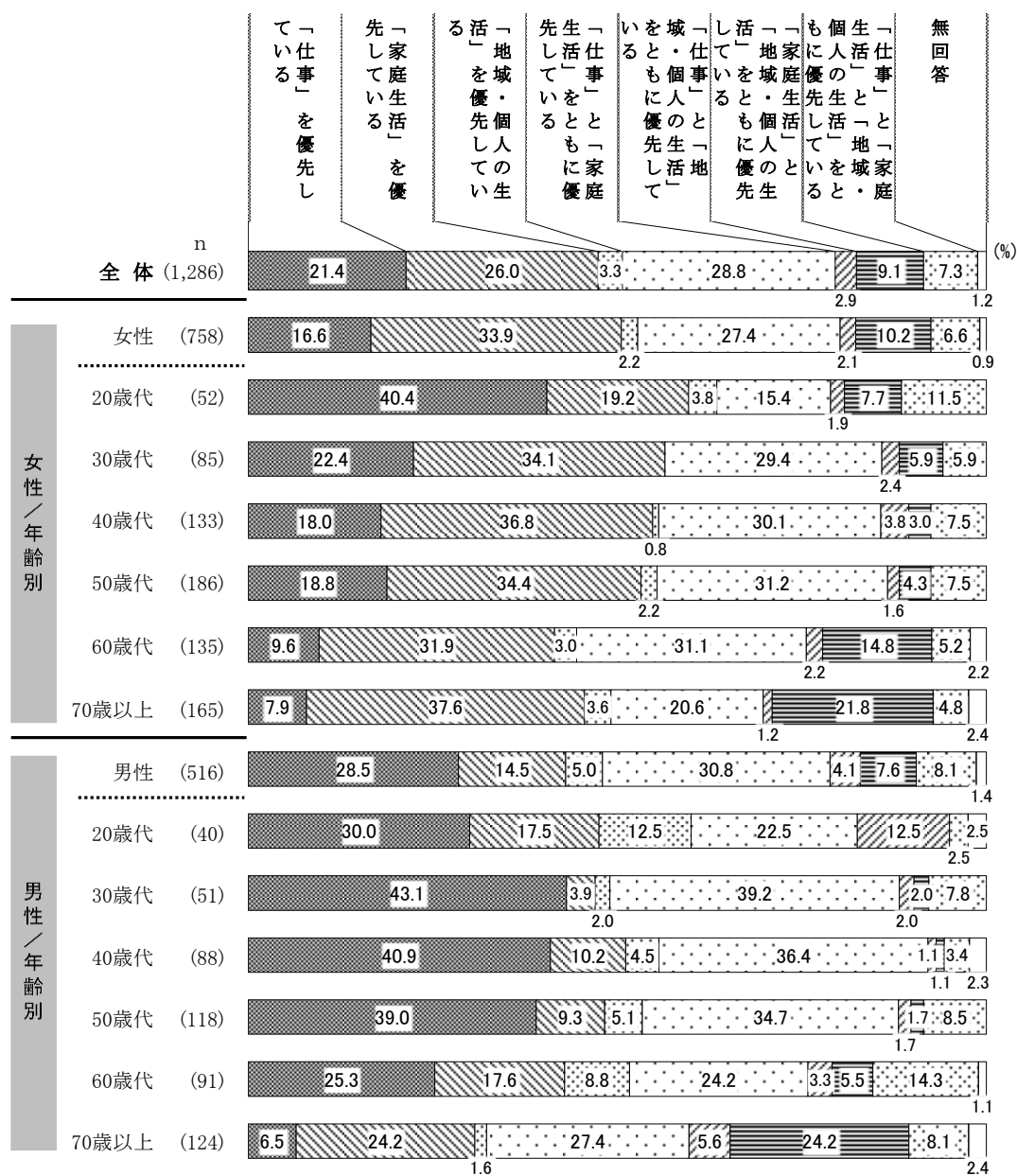
前回調査と比較すると、女性で『家庭生活』を優先している」が5.1ポイント減少し、『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が4.7ポイント増加している。



■性年齢別

性年齢別にみると、『仕事』を優先している」は女性の20歳代、男性の30歳代～50歳代で4割前後と、他の年代より高くなっている。また、女性は20歳代を除くすべての年代で『家庭生活』を優先している」が最も高くなっているが、30歳代～60歳代で『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が3割前後と高くなっている。

男性は『仕事』を優先している」が70歳以上を除くすべての年代で最も高くなっているが、30歳代、40歳代で『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が約4割と高くなっている。



■現状の生活優先度（問4）ごとにみる、希望の生活優先度（問3）

希望の生活優先度を、現状の生活優先度別にみると、現状で『家庭生活』を優先している」や『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している」では、現状と希望の生活優先度が一致している人は半数を超えているものの、現状で『仕事』を優先している」と回答した人の希望の生活優先度は、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が約4割となっている。また、現状で『仕事』と『地域・個人の生活』をともに優先している」と回答した人は、希望の生活優先度で『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」も3割以上と同程度となっている。

		調査数	希望の生活優先度（問3）							無回答
			「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	優先したい「地域・個人の生活」を	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	優先したい「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい「家庭生活」を	
現状の生活優先度（問4）	「仕事」を優先している	275	12.4	14.2	4.0	38.9	6.5	5.5	18.2	0.4
	「家庭生活」を優先している	334	2.1	50.9	3.3	19.5	0.6	14.1	9.0	0.6
	「地域・個人の生活」を優先している	43	2.3	7.0	34.9	18.6	11.6	11.6	14.0	-
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	371	1.3	14.0	1.6	56.6	1.1	3.5	21.8	-
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	37	8.1	-	5.4	10.8	35.1	8.1	32.4	-
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	117	1.7	6.0	6.0	4.3	0.9	59.8	21.4	-
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	94	2.1	4.3	-	7.4	2.1	7.4	76.6	-

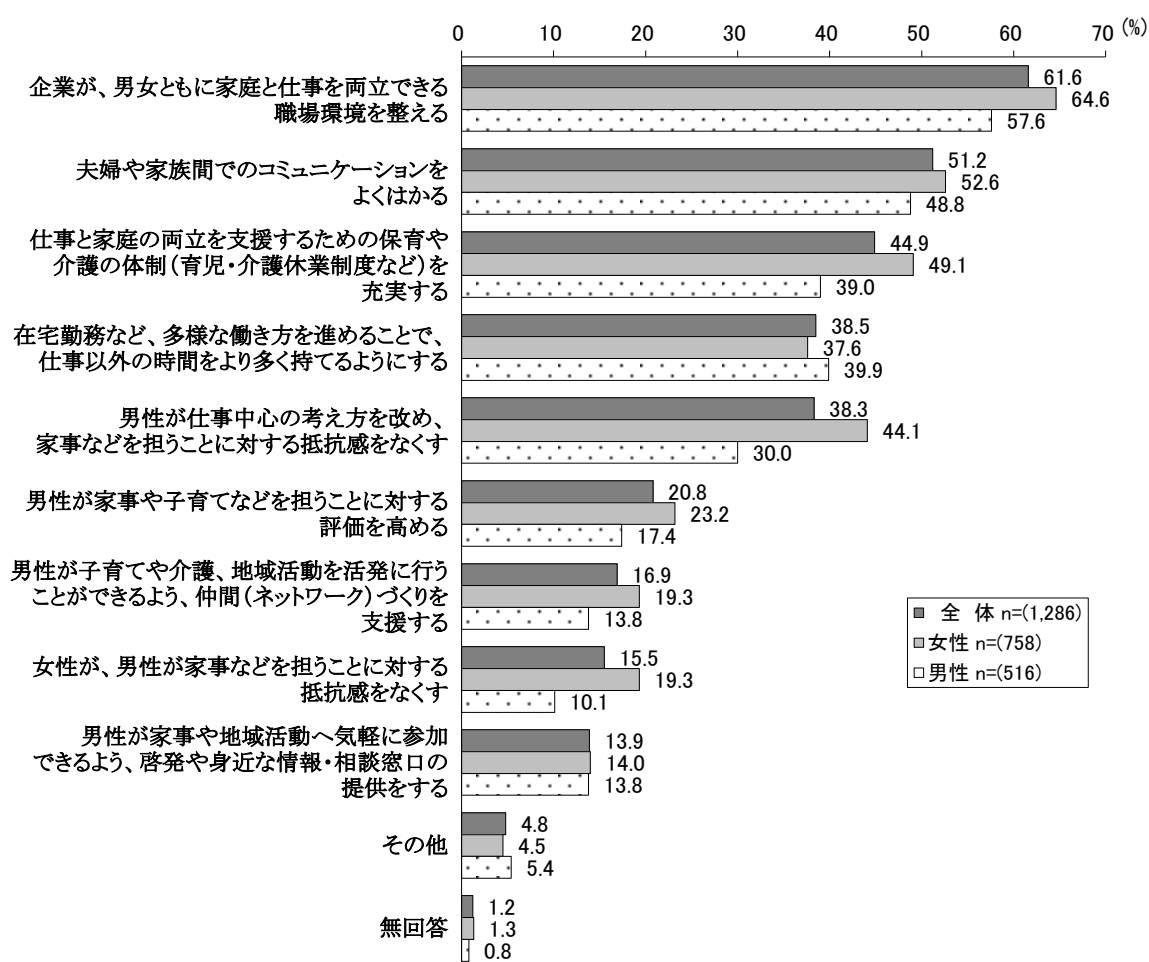
現状と希望の優先度が一致

(3) 男女が家事等を積極的に担うために必要なこと

問5 男性と女性がともに家事、子育て、介護、地域活動を積極的に担うためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

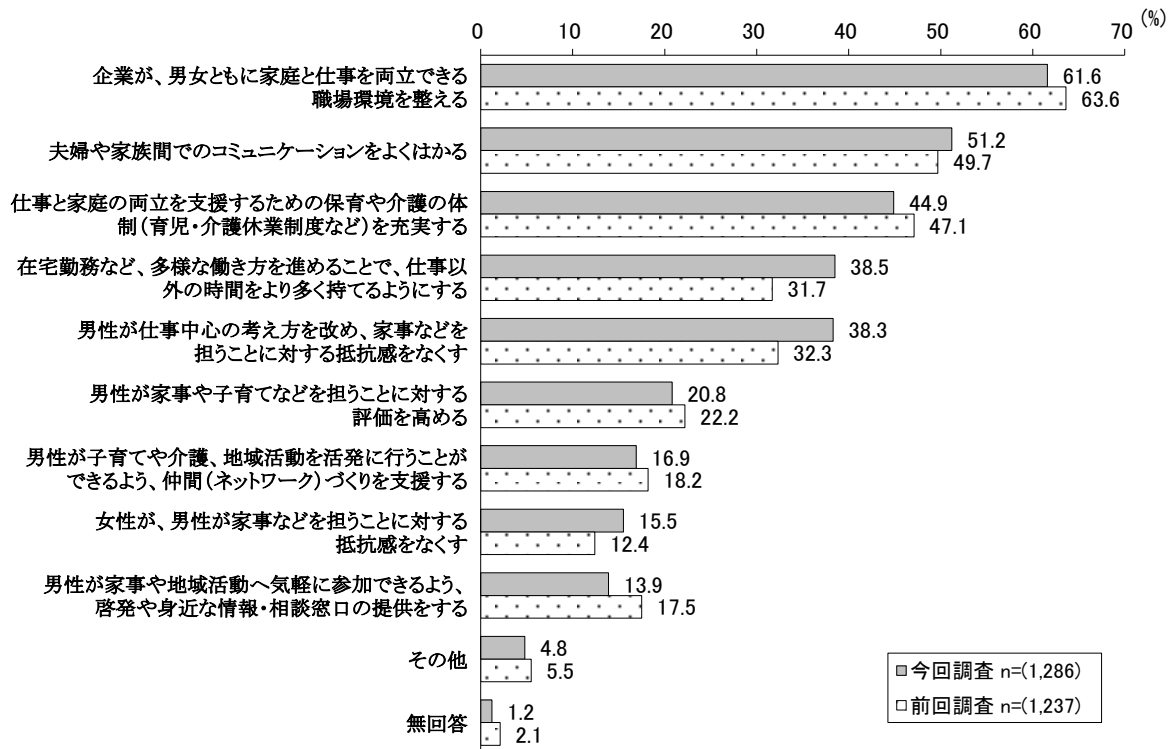
男女が家事等を積極的に担うために必要なことについてみると、「企業が、男女ともに家庭と仕事を両立できる職場環境を整える」が61.6%で最も高く、次いで、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」(51.2%)、「仕事と家庭の両立を支援するための保育や介護の体制(育児・介護休業制度など)を充実する」(44.9%)となっている。

性別にみると、「男性が仕事中心の考え方を改め、家事などを担うことに対する抵抗感をなくす」は女性(44.1%)が男性(30.0%)より14.1ポイント、「仕事と家庭の両立を支援するための保育や介護の体制(育児・介護休業制度など)を充実する」は女性(49.1%)が男性(39.0%)より10.1ポイント高くなっている。



■経年比較

前回調査と比較すると、「在宅勤務など、多様な働き方を進めることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が6.8ポイント、「男性が仕事中心の考え方を改め、家事などを担うことに対する抵抗感をなくす」が6ポイント増加している。



4. 子育てや教育について

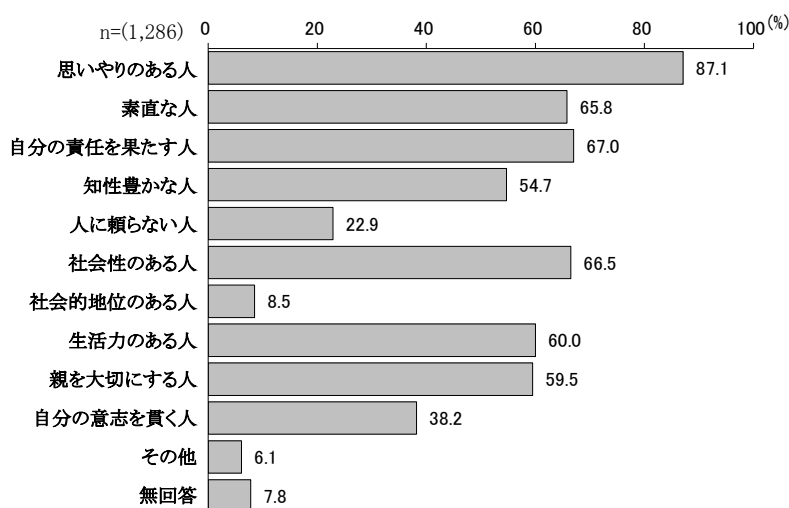
(1) 女の子・男の子にどのように育ってほしいか

問6 あなたは、子どもにはどのように育って欲しいと思いますか。以下の（ア）～（サ）について女の子・男の子それぞれあてはまるものすべてをお選びください。（〇はそれぞれいくつでも）

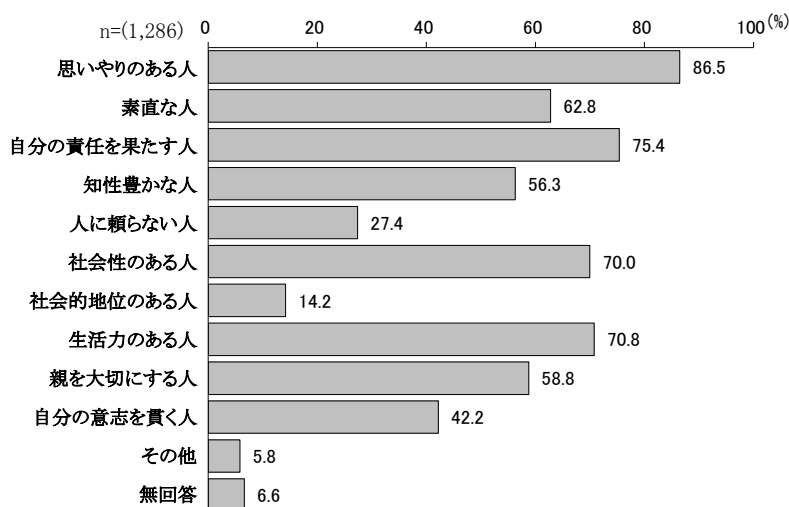
女の子にどのように育ってほしいかについてみると、「思いやりのある人」が87.1%で最も高く、次いで、「自分の責任を果たす人」（67.0%）、「社会性のある人」（66.5%）となっている。

男の子にどのように育ってほしいかについてみると、「思いやりのある人」が86.5%で最も高く、次いで、「自分の責任を果たす人」（75.4%）、「生活力のある人」（70.8%）となっている。

【女の子にどのように育ってほしいか】



【男の子にどのように育ってほしいか】

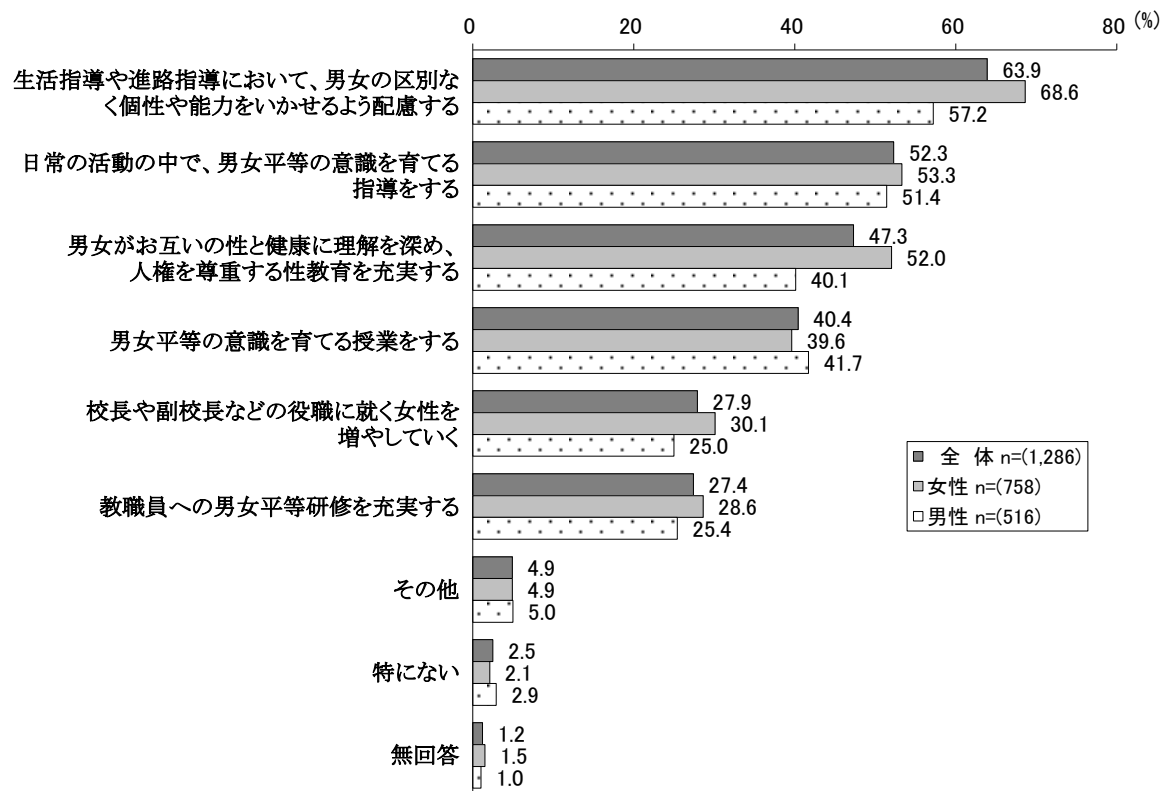


(2) 学校教育で特に力を入れるべきこと

問7 あなたは、男女が対等に互いに助け合っていく社会をつくっていくために、学校教育の場では特にどのようなことに力を入れれば良いと思いますか。(〇はいくつでも)

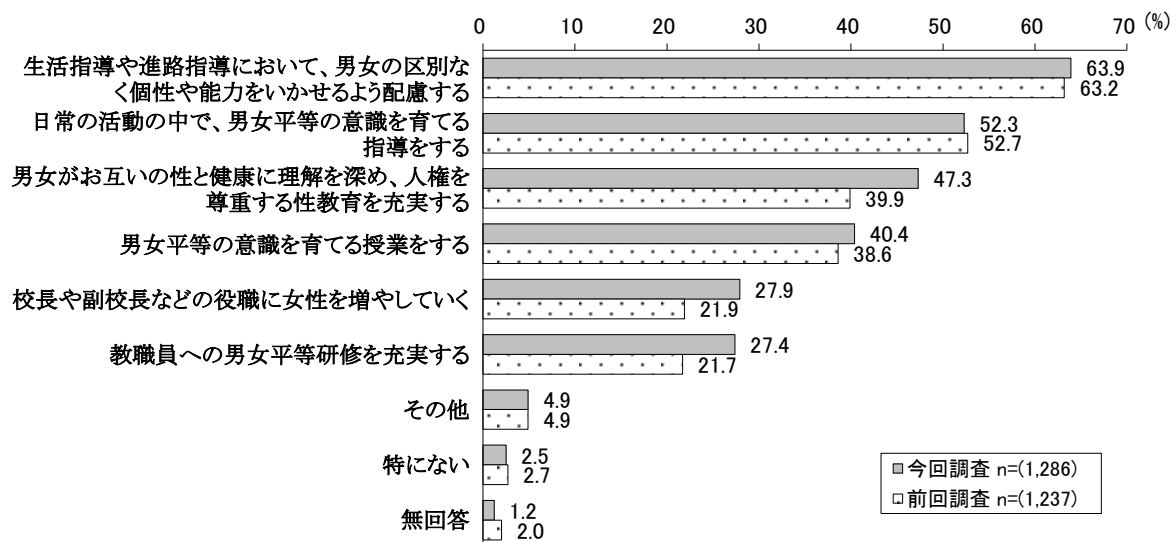
学校教育で特に力を入れるべきことについてみると、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく個性や能力をいかせるよう配慮する」が63.9%で最も高く、次いで、「日常の活動の中で、男女平等の意識を育てる指導をする」(52.3%)、「男女がお互いの性と健康に理解を深め、人権を尊重する性教育を充実する」(47.3%)となっている。

性別にみると、「男女がお互いの性と健康に理解を深め、人権を尊重する性教育を充実する」は女性(52.0%)が男性(40.1%)より11.9ポイント、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく個性や能力をいかせるよう配慮する」は女性(68.6%)が男性(57.2%)より11.4ポイント高くなっている。



■経年比較

前回調査と比較すると、「男女がお互いの性と健康に理解を深め、人権を尊重する性教育を充実する」が7.4ポイント、「校長や副校長などの役職に女性を増やしていく」が6ポイント、「教職員への男女平等研修を充実する」が5.7ポイント増加している。

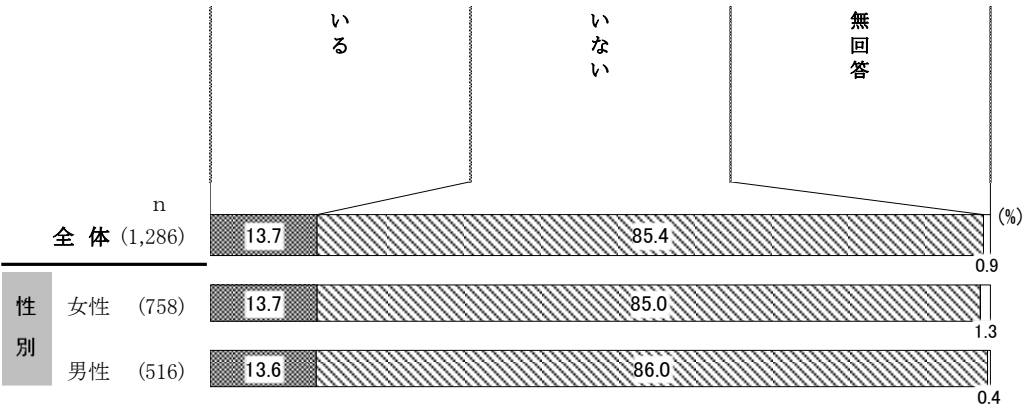


5. 介護について

(1) 介護が必要な家族の有無

問8 あなたの家庭では、介護が必要な家族の方がいらっしゃいますか。(○は1つ)

介護が必要な家族の有無についてみると、「いない」が85.4%、「いる」が13.7%となっている。性別にみると、男女間に大きな違いはみられない。



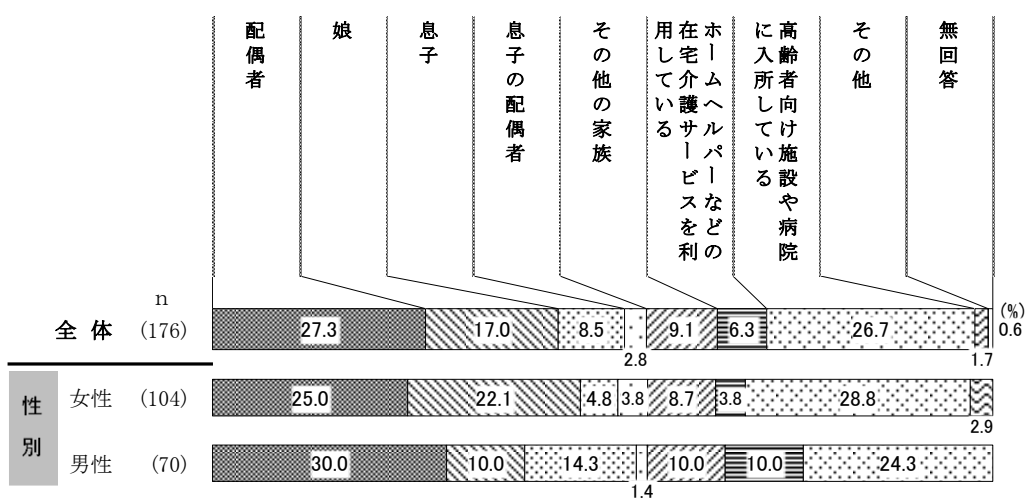
(2) 家庭内で主に介護を行っている人

(問8で「1. いる」とお答えの方に)

問8-1 あなたの家庭では、その方の介護は、主にどなたが行っていますか。(介護される方から見た続き柄をお選びください)(○は1つ)

家庭内で主に介護を行っている人についてみると、「配偶者」が27.3%で最も高く、次いで、「高齢者向け施設や病院に入所している」(26.7%)、「娘」(17.0%)となっている。

性別にみると、女性では「高齢者向け施設や病院に入所している」が28.8%と最も高く、次いで、「配偶者」(25.0%)となっている。男性では「配偶者」が30.0%と最も高く、次いで、「高齢者向け施設や病院に入所している」(24.3%)となっている。

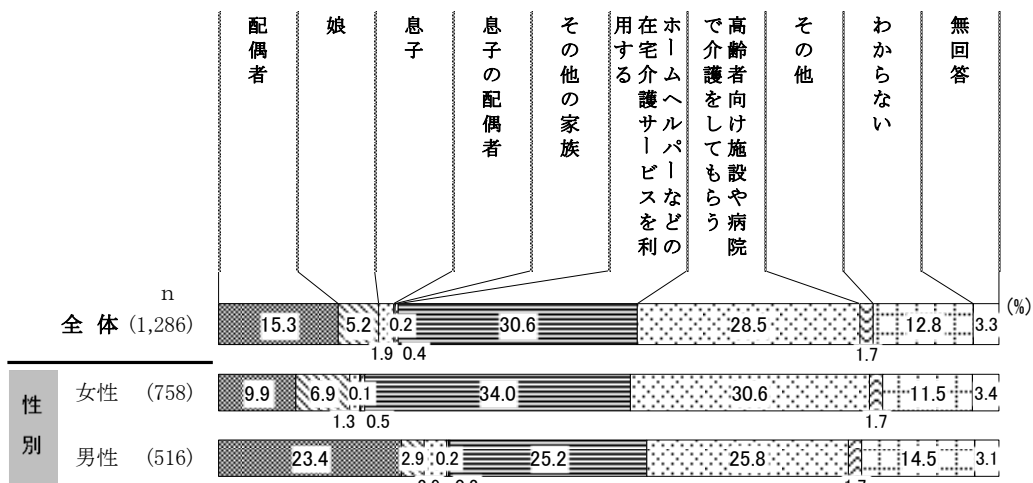


(3) 自身が高齢になった時に介護をしてほしい人

問9 あなたご自身が高齢になって介護が必要になったときは、主にどなたに介護をしてほしいと思いますか。または、どうしたいと思いますか。(○は1つ)

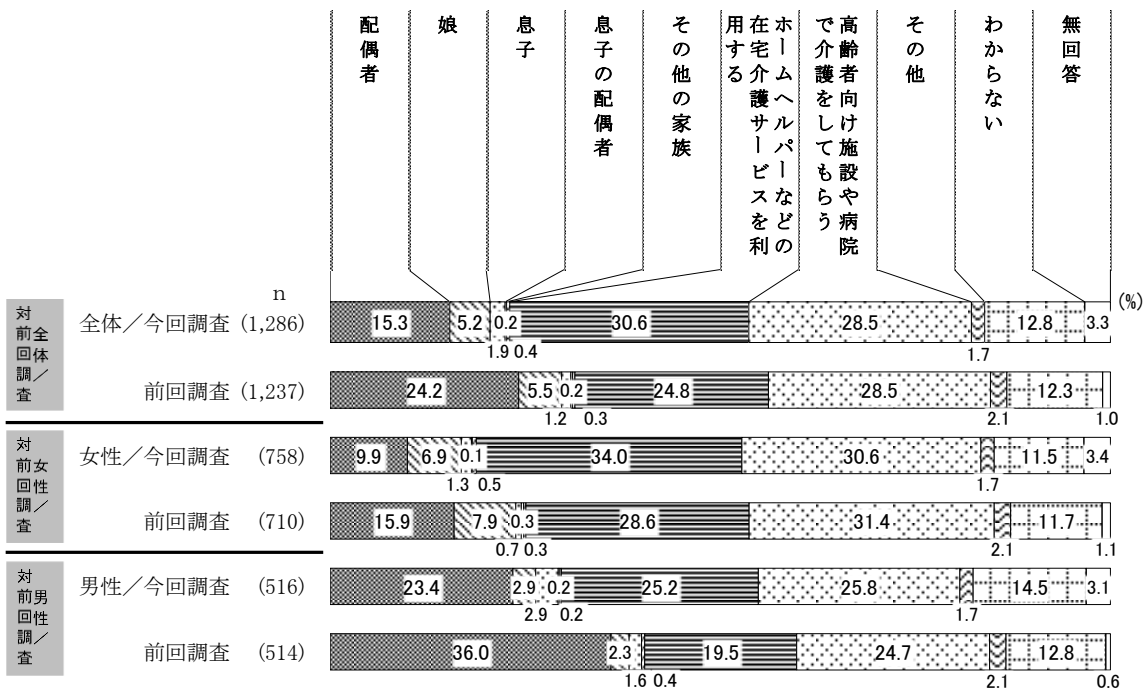
自身が高齢になった時に介護をしてほしい人についてみると、「ホームヘルパーなどの在宅介護サービスを利用する」が30.6%で最も高く、次いで、「高齢者向け施設や病院で介護をしてもらう」(28.5%)、「配偶者」(15.3%)、「娘」(5.2%)となっている。

性別にみると、女性では「ホームヘルパーなどの在宅介護サービスを利用する」(34.0%)が最も高く、男性(25.2%)より8.8ポイント高くなっている。また、男性では「高齢者向け施設や病院で介護をしてもらう」(25.8%)が最も高くなっているが、「ホームヘルパーなどの在宅介護サービスを利用する」(25.2%)も同程度となっている。「配偶者」は男性(23.4%)が女性(9.9%)より13.5ポイント高くなっている。



■経年比較

前回調査と比較すると、男女ともに「配偶者」が減少し、「ホームヘルパーなどの在宅介護サービスを利用する」が増加している。



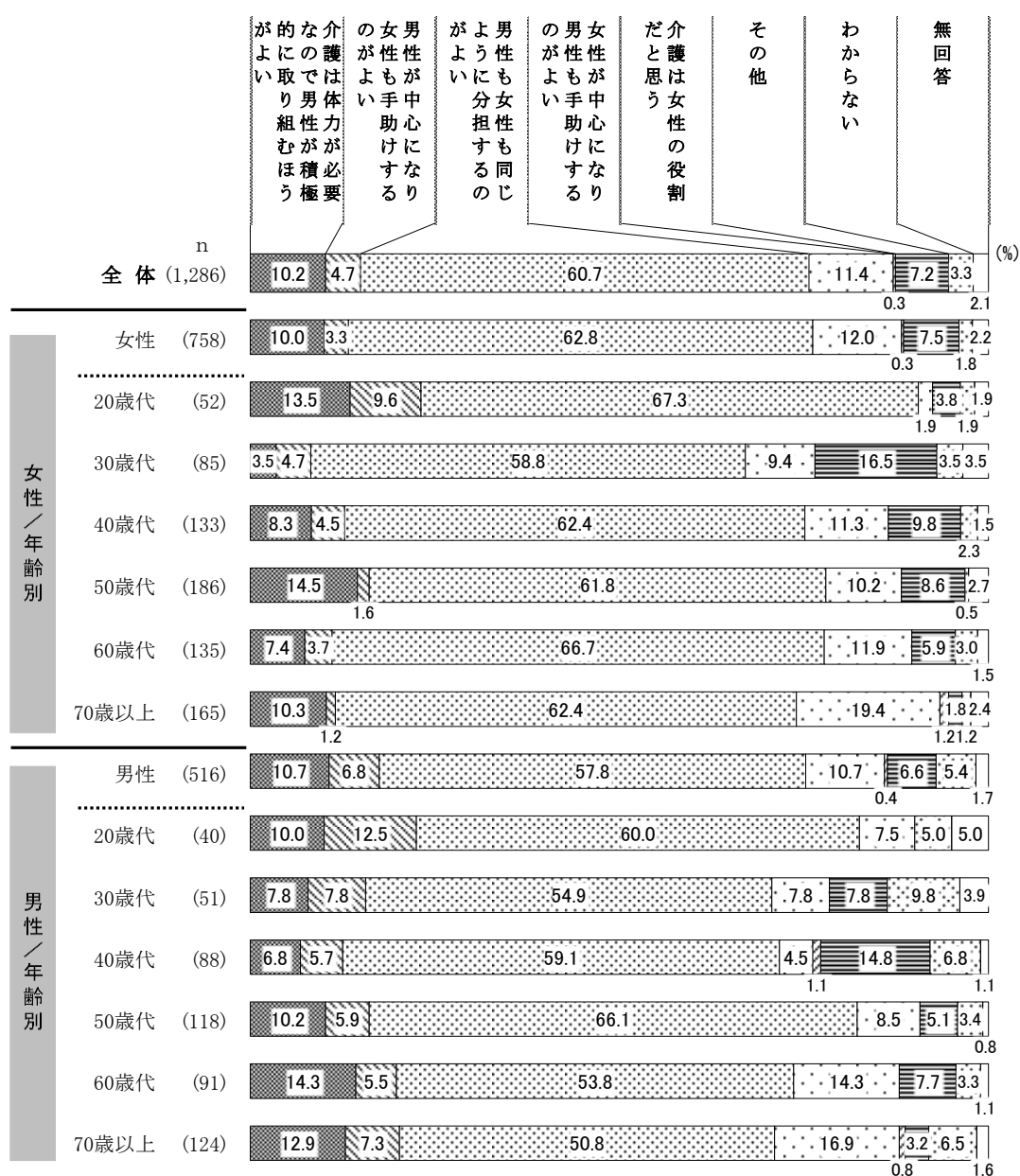
(4) 家庭内での介護は女性が担いがちであることに対する考え

問10 家庭での高齢者や病人の介護は、現実には女性が担いがちですが、あなたはごどう思いますか。(○は1つ)

家庭内での介護は女性が担いがちであることに対する考えについてみると、「男性も女性も同じように分担するのがよい」が60.7%で最も高く、次いで、「女性が中心になり男性も手助けするのがよい」(11.4%)、「介護は体力が必要なので男性が積極的に取り組むほうがよい」(10.2%)となっている。

性別にみると、「男性も女性も同じように分担するのがよい」は女性(62.8%)が男性(57.8%)より5ポイント高くなっている。

性年齢別にみると、「女性が中心になり男性も手助けするのがよい」が女性の70歳以上、男性の60歳代、70歳以上で他の年代より高くなっており、20歳代と60歳代を除く年代で女性が男性を上回り、特に40歳代で6.8ポイント高くなっている。

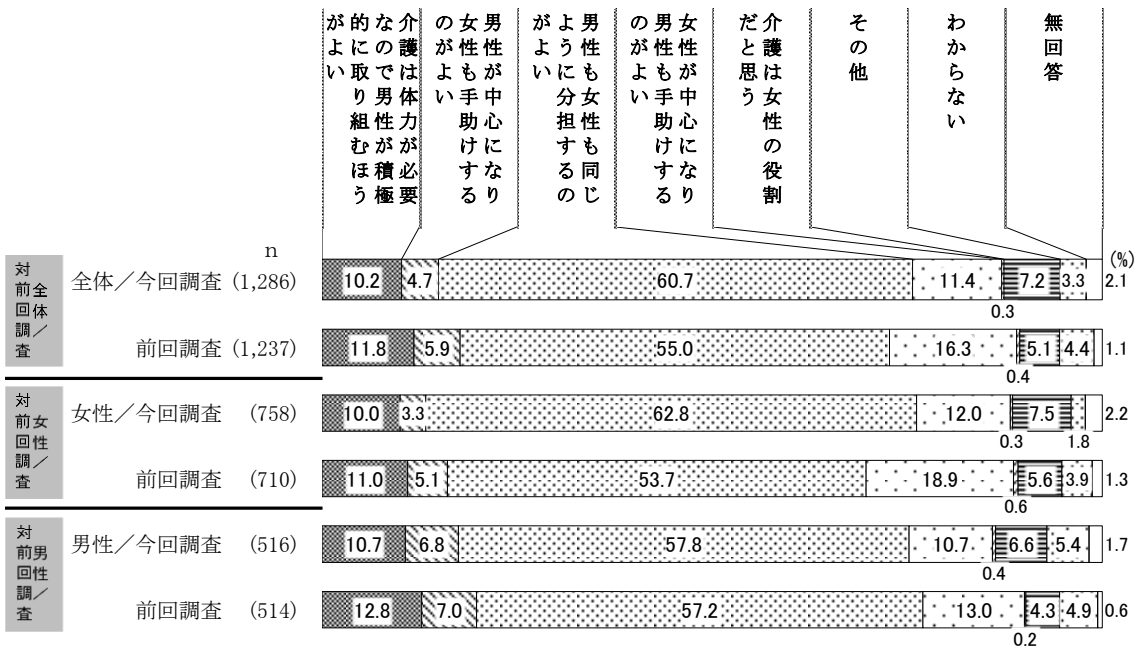


■主な「その他」の回答

男女に関わらず、適任（時間、力量）者がするのがよい（28件）	
・性別の問題でなく、時間のある方。	
・男女に関わらず、その時に出来る状況にある者が担えば良いのでは。	
・能力に応じて性別とわず担った方が良い。	
・性別に関わらず、適任者がすればいいと思います。	
・男性女性に関係ない。その状況になった時にその家庭関係において、誰がキーパーソンになれば良いのかその適任者が分かるはず。	
福祉サービスによる支援、利用（21件）	
・介護への家族の負担が大きすぎる。介護を家族内の問題として閉じ込めていることが問題である。	
・男女問わず公的サービス等を有効に使うべき。	
・どちらも負担にならないように何らかの介護サービスを利用するのが良いと思う。	
・家族が介護するという考えを改め、国で介護施設やスタッフを増やすと、家族ももっと仕事が出来ると思います。	
・外部（専門家）に委託すべきだと思う。家庭任せにすべきではない。	
夫婦や家族で協力するのがよい（15件）	
・特に性別分担ではなく家族（社会構成員）として必要な事を分担すべき。	
・家庭の状況によりことなると思うが、皆で協力すべきだと思う。専門家の力を借りる。	
・全員の仕事です。	

■経年比較

前回調査と比較すると、女性で「男性も女性も同じように分担するのがよい」が9.1ポイント増加、「女性が中心になり男性も手助けするのがよい」が6.9ポイント減少している。男性で大きな変化はみられない。



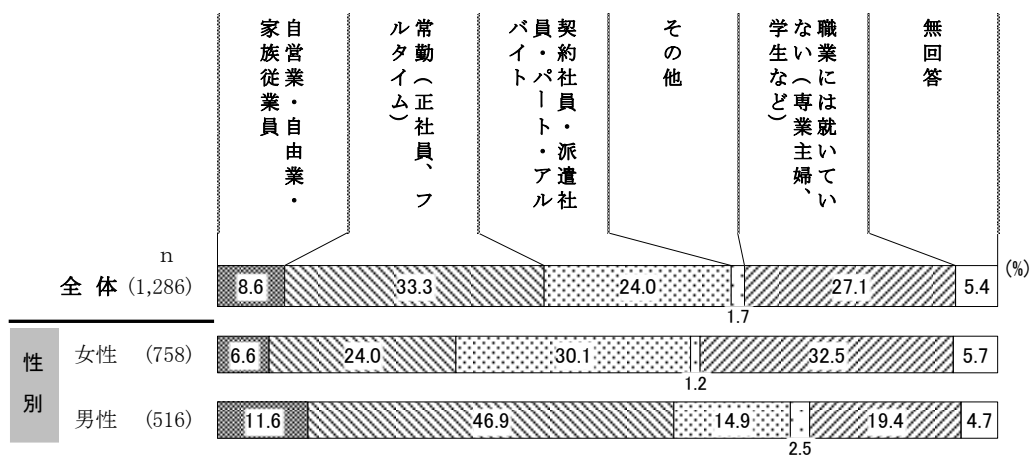
6. 就労・職場について

(1) 現在の職業

問11 あなたは現在、収入のある職業に就いていますか。2つ以上の仕事に就いている方は、主なものを1つだけお選びください。（出産休暇や育児・介護休暇中の方も働いているとお考えください。）（○は1つ）

現在の職業についてみると、「常勤（正社員、フルタイム）」が33.3%で最も高く、次いで、「職業には就いていない（専業主婦、学生など）」（27.1%）、「契約社員・派遣社員・パート・アルバイト」（24.0%）となっている。

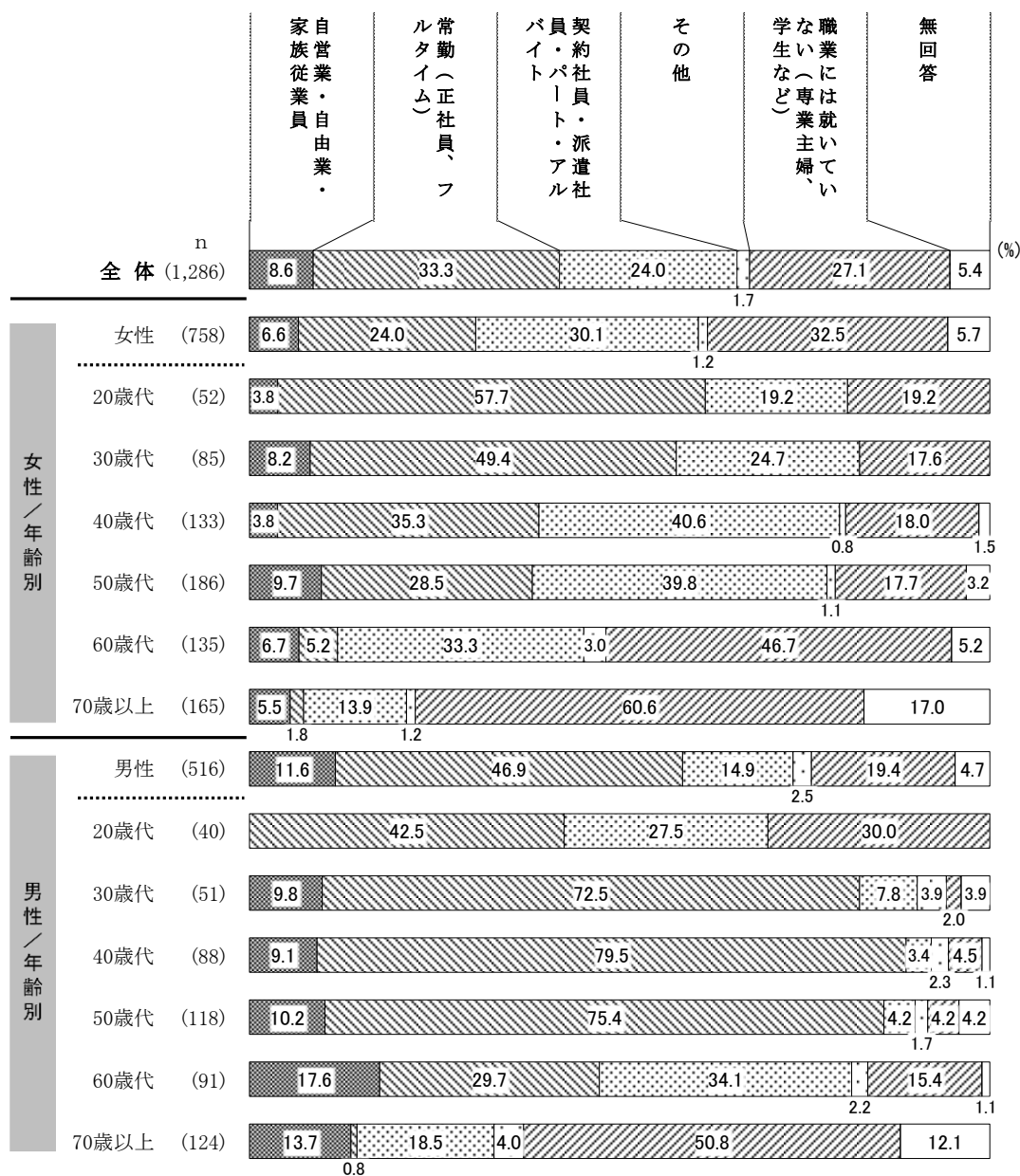
性別にみると、女性では「職業には就いていない（専業主婦、学生など）」が32.5%、男性では「常勤（正社員、フルタイム）」が46.9%と最も高くなっている。



■性年齢別

性年齢別にみると、女性の20歳代、30歳代で「常勤（正社員、フルタイム）」、40歳代、50歳代で「契約社員・派遣社員・パート・アルバイト」、60歳代、70歳以上で「職業にはついていない（専業主婦、学生など）」が最も高くなっている。40歳代、50歳代で「契約社員・派遣社員・パート・アルバイト」が4割前後と高くなっているが、「常勤（正社員、フルタイム）」も40歳代で約4割、50歳代で約3割と次いで高くなっている。

男性では、20歳代～50歳代までで「常勤（正社員、フルタイム）」が最も高く、特に40歳代、50歳代で約8割、30歳代で7割以上となっている。60歳代で「契約社員・派遣社員・パート・アルバイト」、70歳以上で「職業にはついていない（専業主婦、学生など）」が最も高くなっている。



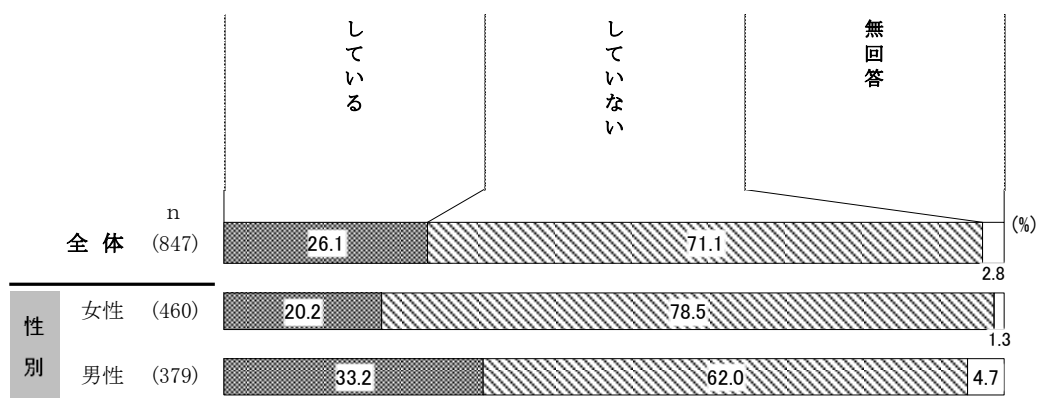
(2) 在宅ワークの有無

(問11で「1. 自営業・自由業・家族従業員」「2. 常勤(正社員、フルタイム)」「3. 契約社員・派遣社員・パート・アルバイト」とお答えの方に)

問11-1 在宅ワークをしていますか。(○は1つ)

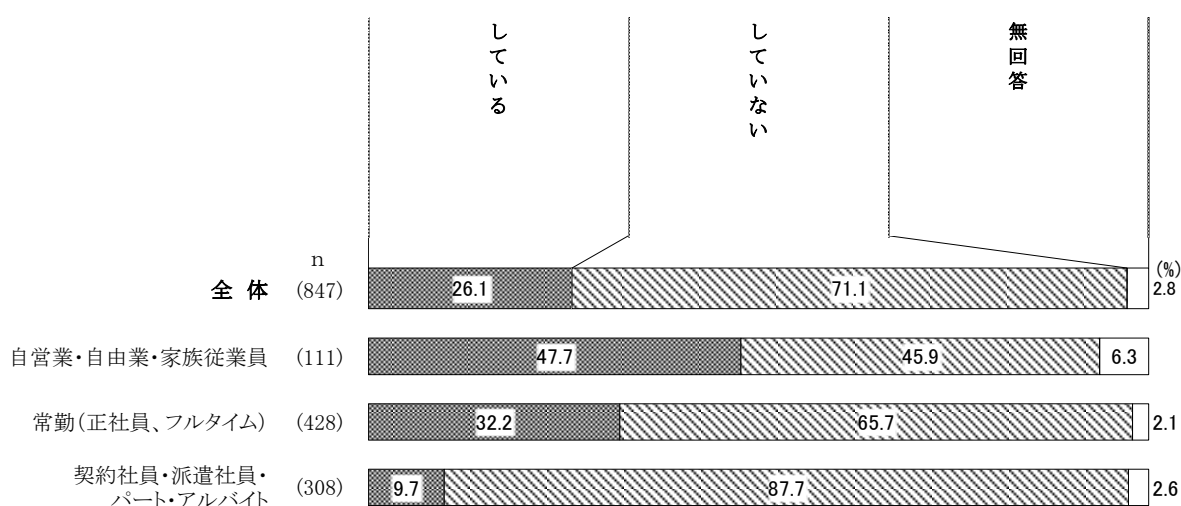
在宅ワークの有無についてみると、「していない」が71.1%、「している」が26.1%となっている。

性別にみると、「している」は女性(20.2%)で2割以上、男性(33.2%)で3割以上となっている。



■職業別

職業別にみると、「自営業・自由業・家族従業員」で「している」(47.7%)が約5割と最も高くなっているが、「常勤(正社員・フルタイム)」(32.2%)では3割以上、「契約社員・派遣社員・パート・アルバイト」(9.7%)では1割未満となっている。



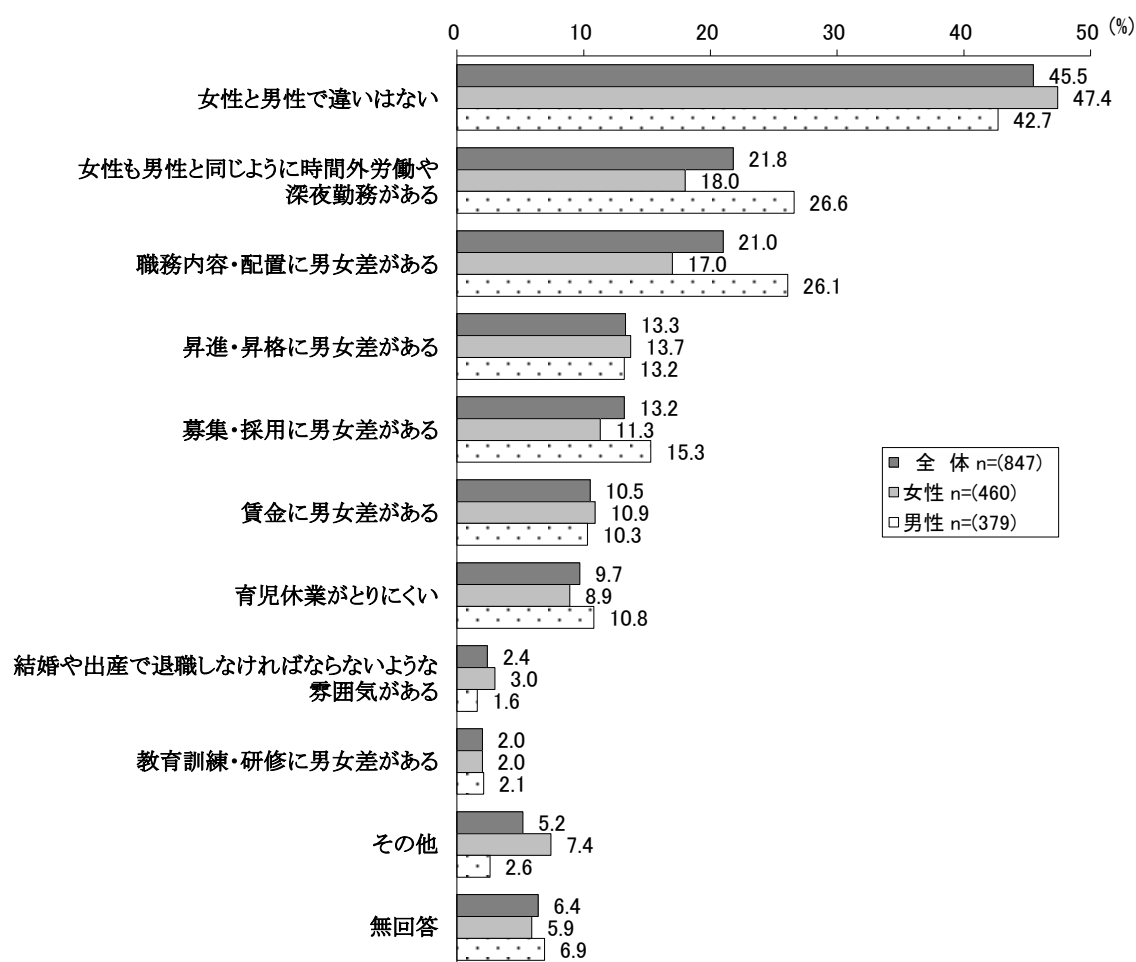
(3) 職場での男女差

(問11で「1. 自営業・自由業・家族従業員」「2. 常勤(正社員、フルタイム)」「3. 契約社員・派遣社員・パート・アルバイト」とお答えの方に)

問11-2 あなたの職場では、次のようなことがありますか。(〇はいくつでも)

職場での男女差についてみると、「女性と男性で違いはない」が45.5%で最も高くなっている。職場で感じる男女差としては、「女性も男性と同じように時間外労働や深夜勤務がある」(21.8%)が最も高く、次いで、「職務内容・配置に男女差がある」(21.0%)、「昇進・昇格に男女差がある」(13.3%)となっている。

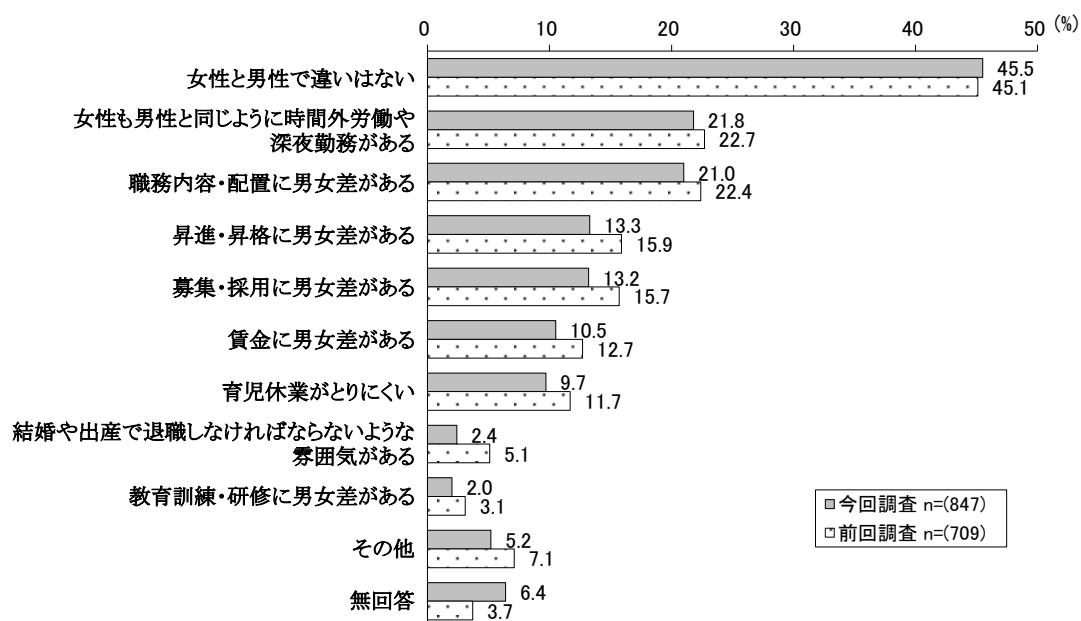
性別にみると、「職務内容・配置に男女差がある」は男性(26.1%)が女性(17.0%)より9.1ポイント、「女性も男性と同じように時間外労働や深夜勤務がある」は男性(26.6%)が女性(18.0%)より8.6ポイント高くなっている。



第2章 調査結果の詳細

■経年比較

前回調査と比較すると、大きな変化はみられない。

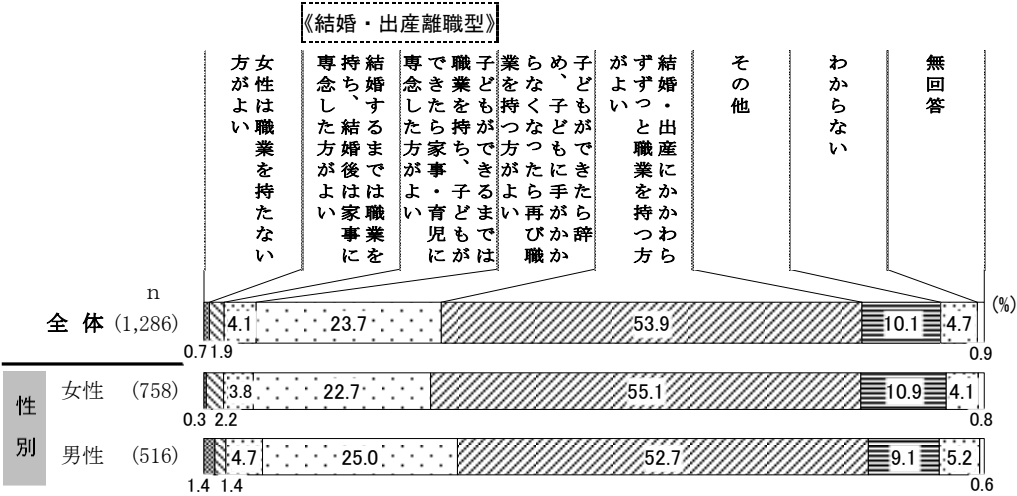


(4) 女性が職業を持つことについての考え方

問12 あなたは、女性が職業を持つことについてどうお考えですか。(〇は1つ)

女性が職業を持つことについての考え方についてみると、「結婚・出産にかかわらずずっと職業を持つ方がよい」が53.9%で最も高く、次いで、「子どもができれば辞め、子どもに手がかけられなくなったら再び職業を持つ方がよい」(23.7%)となっている。「結婚するまでは職業を持ち、結婚後は家事に専念した方がよい」と「子どもができるまでは職業を持ち、子どもができれば家事・育児に専念した方がよい」を合わせた《結婚・出産離職型》は6.0%となっている。

性別にみても同様の傾向がうかがえ、男女間に大きな違いはみられない。



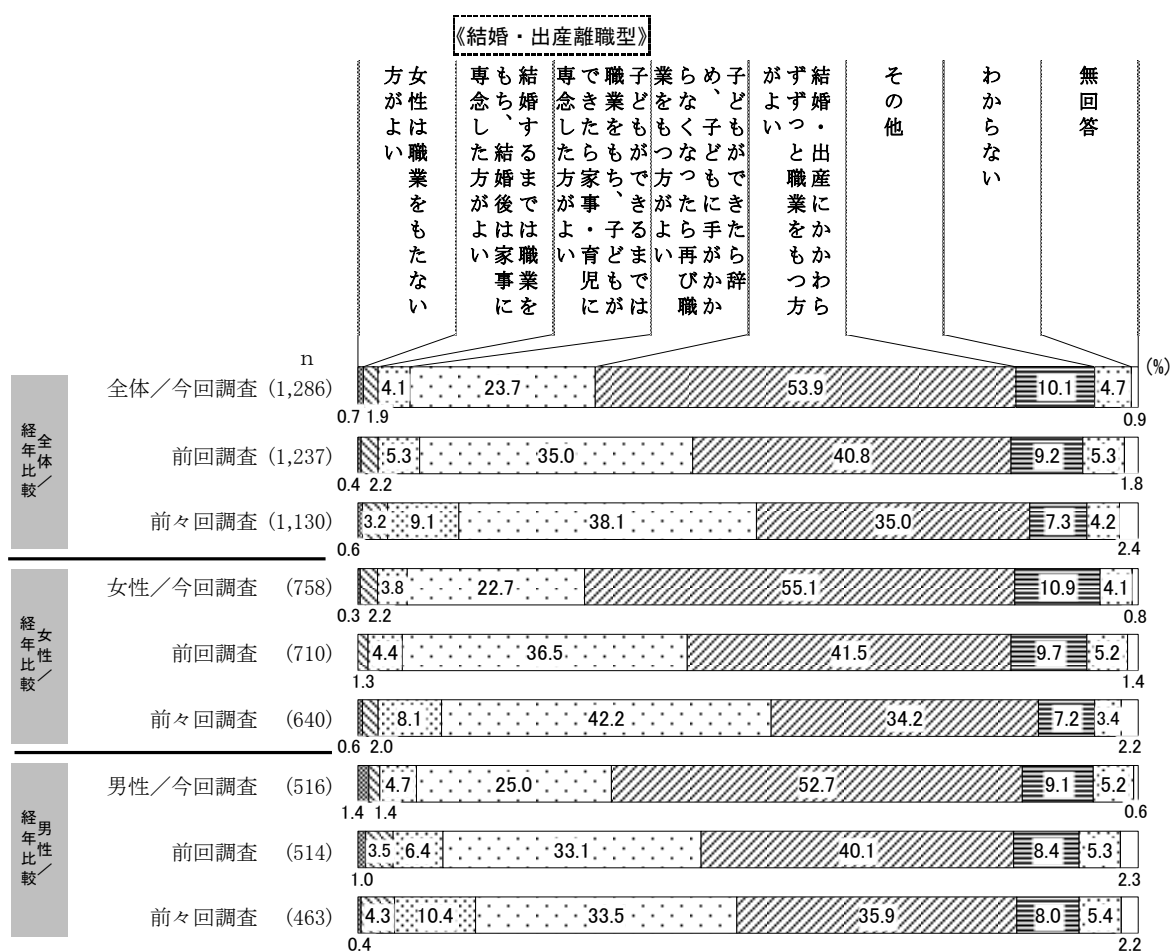
■主な「その他」の回答

本人の意思を尊重／本人の自由（70件）
・ 結婚・出産にかかわらず、職業を持つ持たないは自由でよい
・ その人の考えでいいと思うので、どちらがいいと決めつけることではないと思う。
・ 職業を持つことは良いと思う。結婚、出産後続けるかどうかは本人の意志。
・ 性別にかかわらず、その人がやりたいようにできれば良いと思います。
・ 女性かどうかでなく、どうしても続けたいものがあるのなら状況に関係なく続ければ良いと思う。
・ その女性の希望が叶うのが良い。
・ その女性が選択した答えを尊重するのが良い。
家庭の状況や生活環境に応じて（29件）
・ 家庭や仕事の事情に応じて選択すれば良い。
・ その家庭に合った働き方、家庭のあり方を作れば良い。
・ 配偶者の収入や就労状況による。
・ 家族で話し合いおのおのの家庭に合う方針がよい。

■経年比較

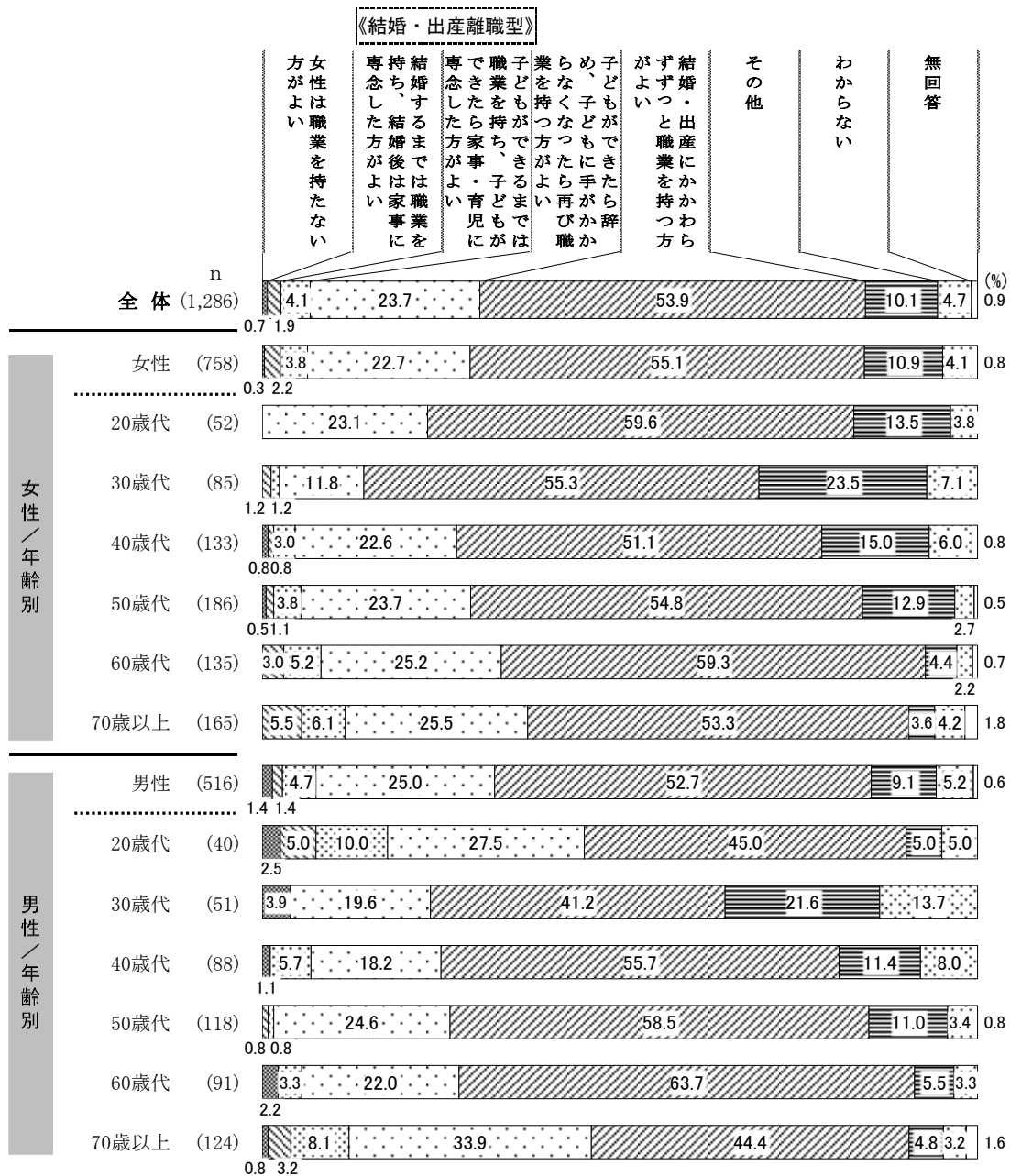
経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて「結婚・出産にかかわらずずっと職業をもつ方がよい」が増加しており、前回調査から13.1ポイント増加している。また、「子どもができたなら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び職業をもつ方がよい」は減少しており、前回調査から11.3ポイント減少している。

性別にみると、男女ともに「結婚・出産にかかわらずずっと職業をもつ方がよい」が10ポイント以上増加している。また、男女ともに「子どもができたなら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び職業をもつ方がよい」が減少しており、特に女性で13.8ポイント減少している。



■性年齢別

性年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「結婚・出産にかかわらずずっと職業を持つ方がよい」が最も高くなっており、女性ではすべての年代で、男性では40歳代～60歳代で過半数を占めている。一方で、男性の20歳代、30歳代、70歳以上で5割以下と他の年代より低くなっている。また、「結婚・出産離職型」が、女性の70歳以上、男性の20歳代、70歳以上で1割以上を占めている。

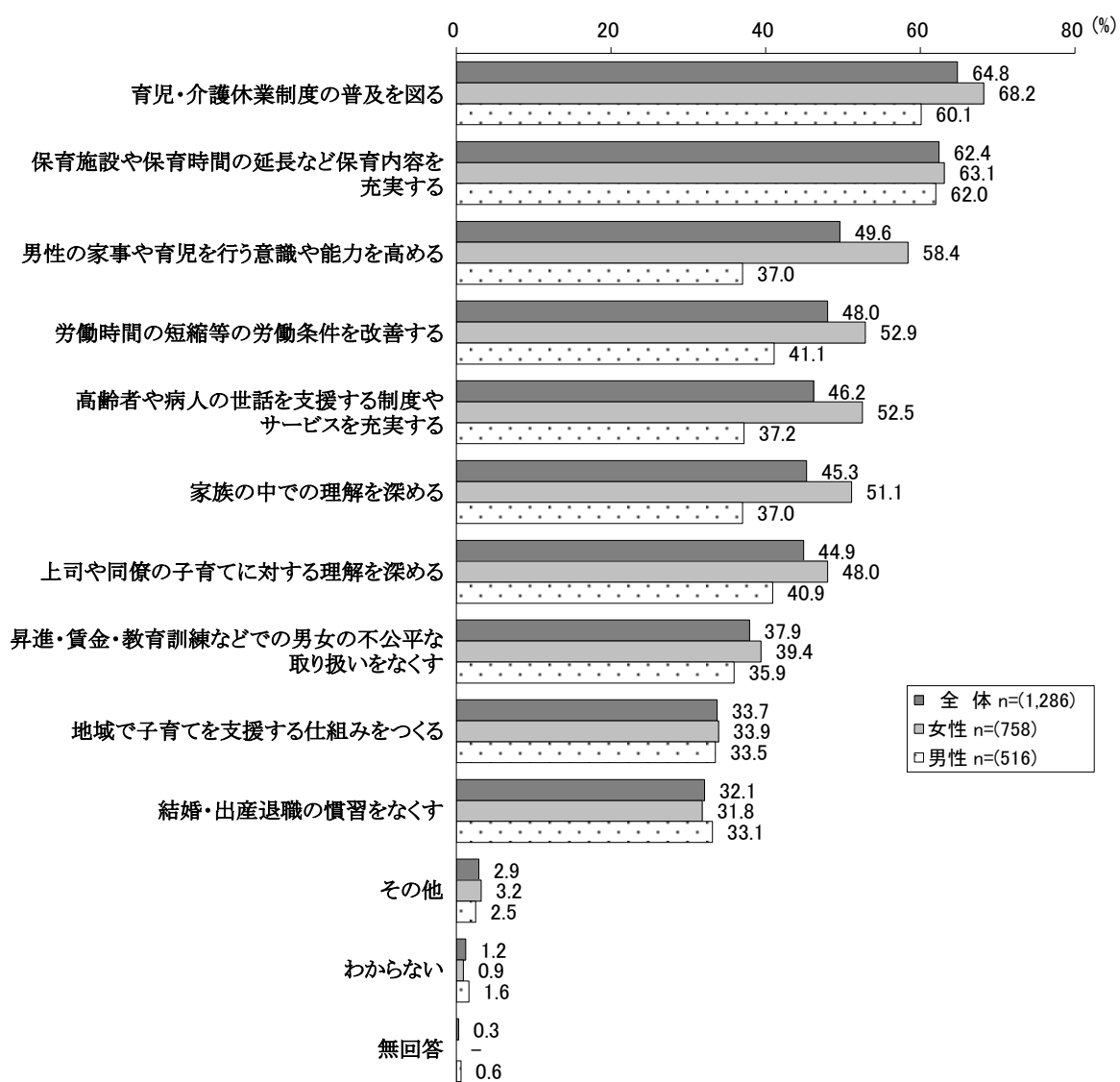


(5) 女性が働き続けるために必要なこと

問13 女性が働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

女性が働き続けるために必要なことについてみると、「育児・介護休業制度の普及を図る」が64.8%で最も高く、次いで、「保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実する」(62.4%)、「男性の家事や育児を行う意識や能力を高める」(49.6%)、「労働時間の短縮等の労働条件を改善する」(48.0%)となっている。

性別にみると、「男性の家事や育児を行う意識や能力を高める」は女性が男性より20ポイント以上、「高齢者や病人の世話を支援する制度やサービスを充実する」、「家族の中での理解を深める」、「労働時間の短縮等の労働条件を改善する」は女性が男性より10ポイント以上高くなっている。

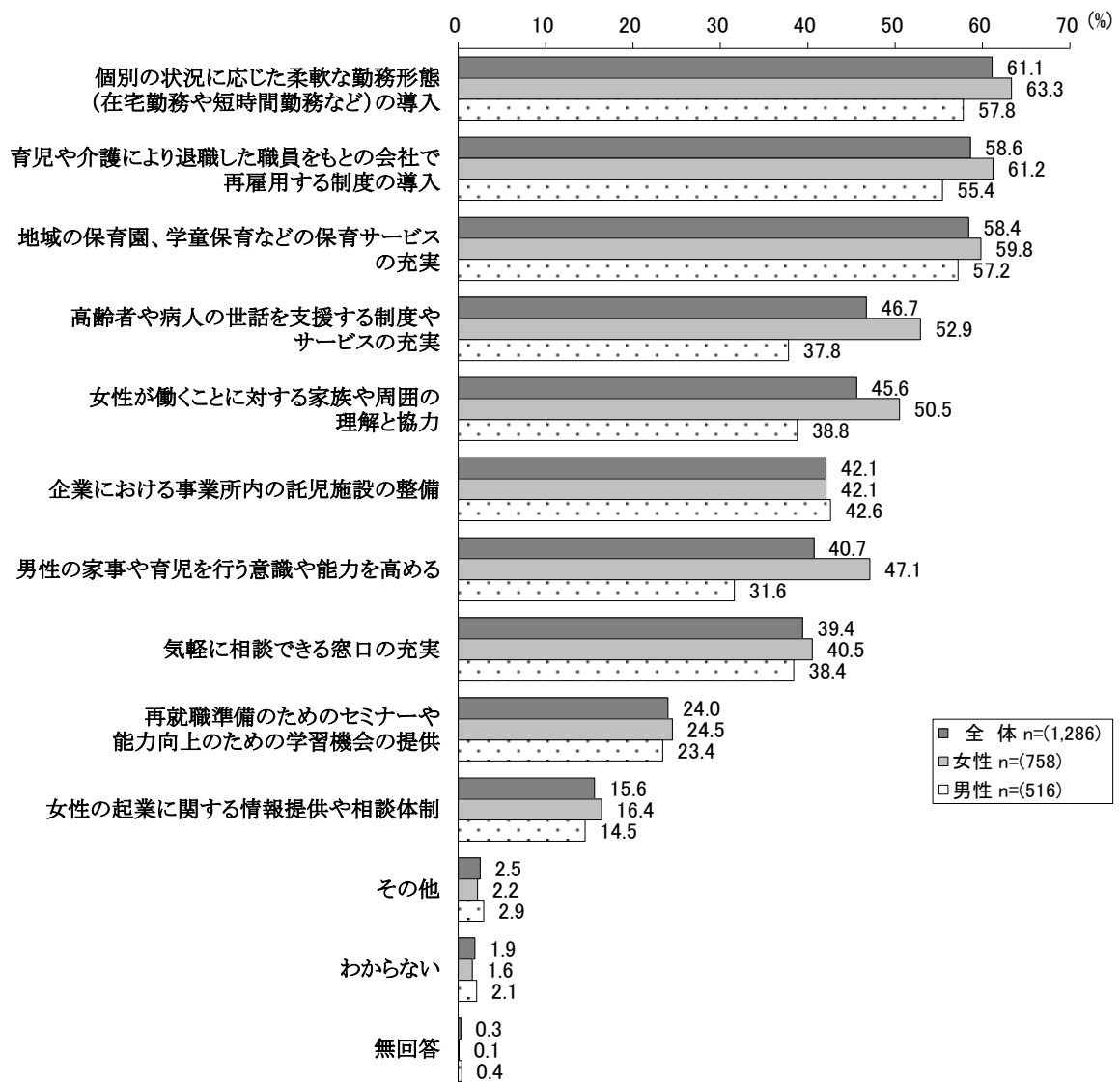


(6) 女性が再就職や起業にチャレンジするために必要なこと

問14 子育てや介護によりいったん離職した女性が再就職や起業にチャレンジするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

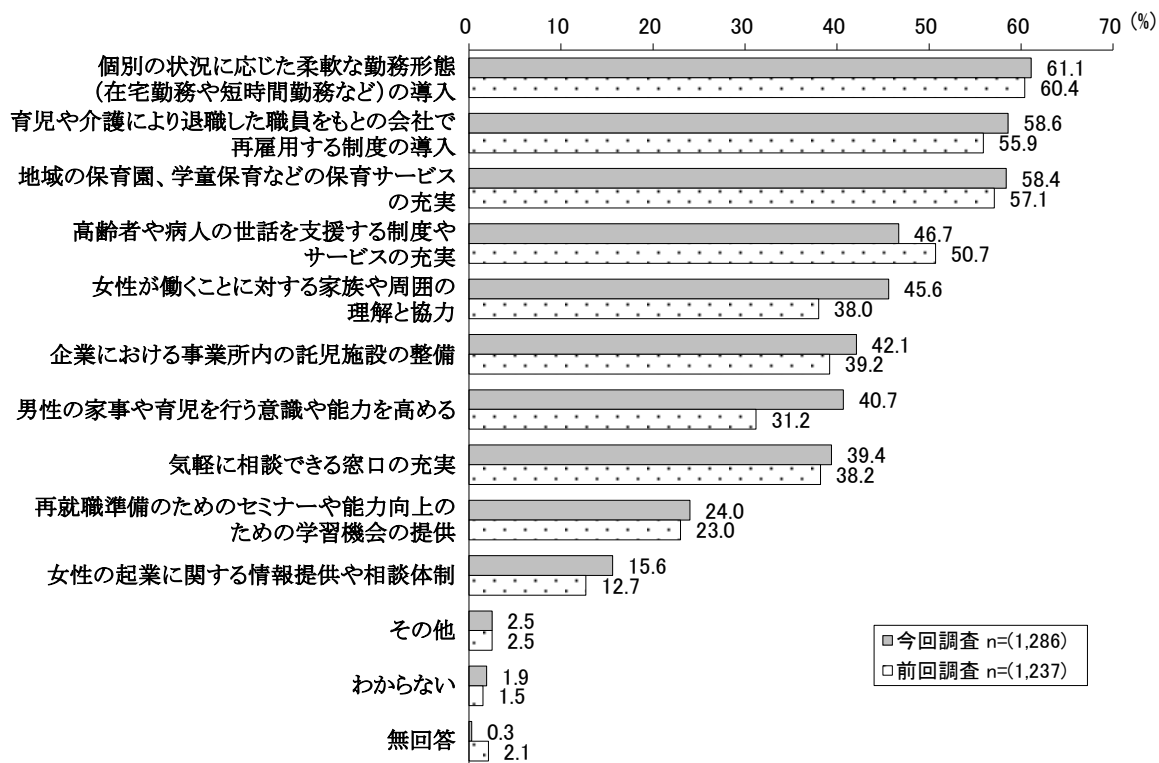
女性が再就職や起業にチャレンジするために必要なことについてみると、「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（在宅勤務や短時間勤務など）の導入」が61.1%で最も高く、次いで、「育児や介護により退職した職員をもとの会社で再雇用する制度の導入」（58.6%）、「地域の保育園、学童保育などの保育サービスの充実」（58.4%）となっている。

性別にみると、「男性の家事や育児を行う意識や能力を高める」や「高齢者や病人の世話を支援する制度やサービスの充実」、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」は女性が男性より10ポイント以上高くなっている。



■経年比較

前回調査と比較すると、「男性の家事や育児を行う意識や能力を高める」が9.5ポイント、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」が7.6ポイント増加している。



(7) 育児休業制度や介護休業制度を利用することへの意識

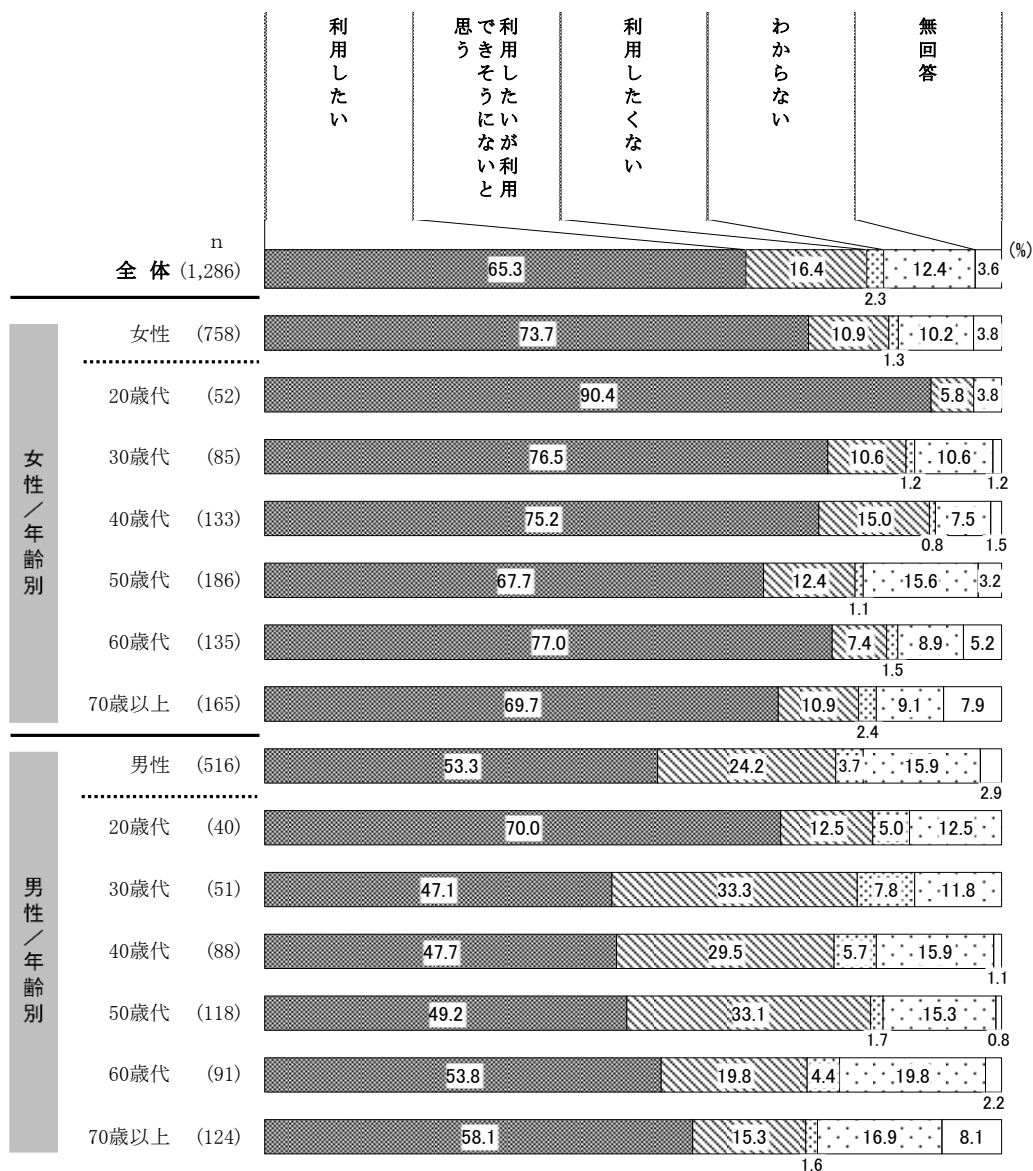
問15 育児や家族介護を行うために、法律に基づき男女ともに育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、自分自身が「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用することについてどう思いますか。現在、必要のない方も必要になった場合を想定してお答えください。(〇は1つ)

【育児休業制度について】

育児休業制度を利用することへの意識についてみると、「利用したい」が65.3%で最も高く、次いで、「利用したいが利用できそうにないと思う」(16.4%)となっている。

性別にみると、「利用したい」は女性(73.7%)が男性(53.3%)より20.4ポイント高くなっている。一方、「利用したいが利用できそうにないと思う」は男性(24.2%)が女性(10.9%)より13.3ポイント高くなっている。

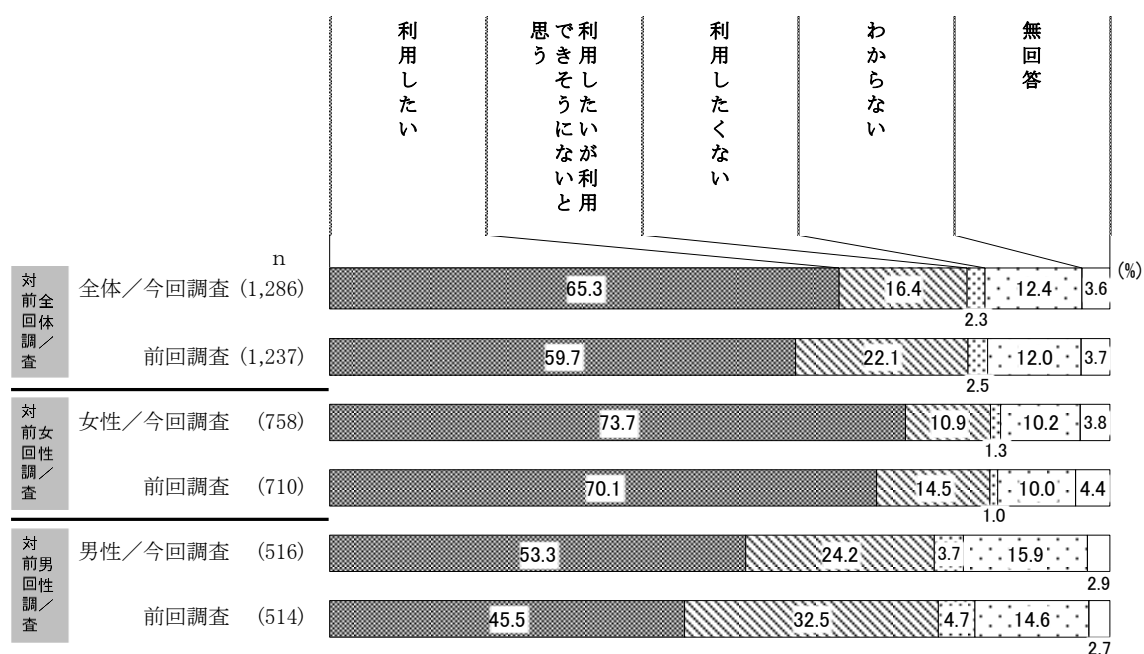
性年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「利用したい」が最も高くなっているが、男性は女性に比べて割合が低く、30歳代～50歳代で5割未満となっている。男性の30歳代～50歳代で「利用したいが利用できそうにないと思う」が3割前後となっている。



第2章 調査結果の詳細

■経年比較

前回調査と比較すると、男女ともに「利用したい」が増加しており、特に男性で7.8ポイント増加している。

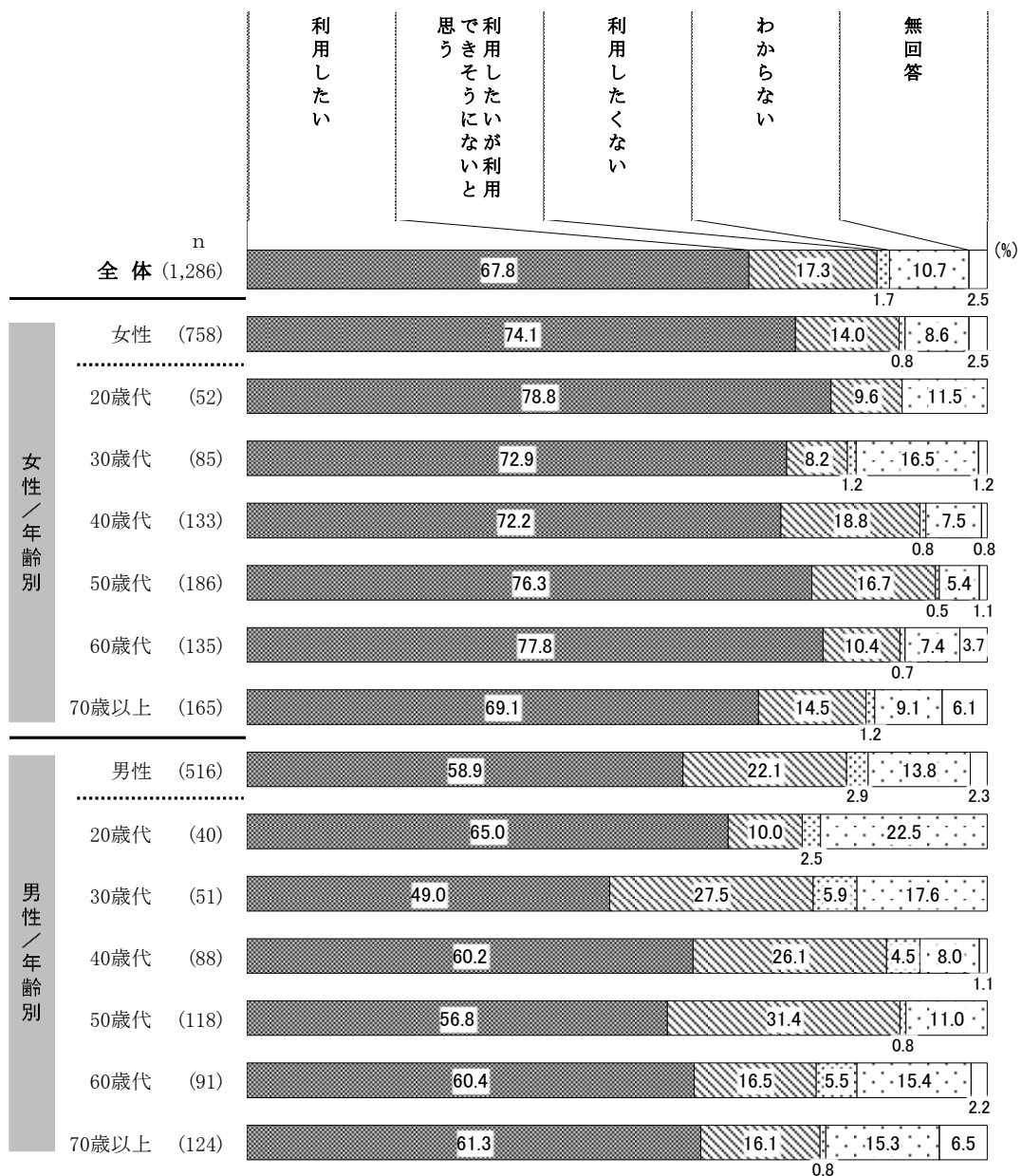


【介護休業制度について】

介護休業制度を利用することへの意識についてみると、「利用したい」が67.8%で最も高く、次いで、「利用したいが利用できそうにないと思う」（17.3%）となっている。

性別にみると、「利用したい」は女性（74.1%）が男性（58.9%）より15.2ポイント高くなっている。一方、「利用したいが利用できそうにないと思う」は男性（22.1%）が女性（14.0%）より8.1ポイント高くなっている。

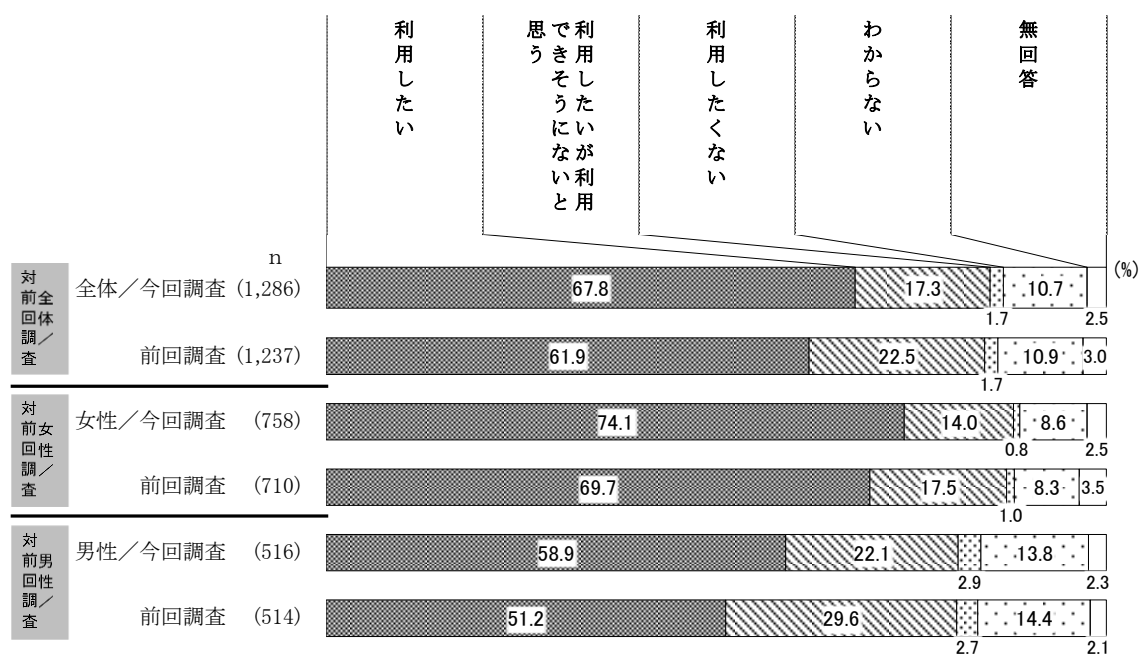
性年齢別にみると、男女ともに「利用したい」が最も高くなっているが、男性は女性に比べて割合が低く、30歳代で5割未満となっている。男性の30歳代～50歳代で「利用したいが利用できそうにないと思う」が3割前後と他の年代より高くなっている。



第2章 調査結果の詳細

■経年比較

前回調査と比較すると、男女ともに「利用したい」が増加しており、特に男性で7.7ポイント増加している。



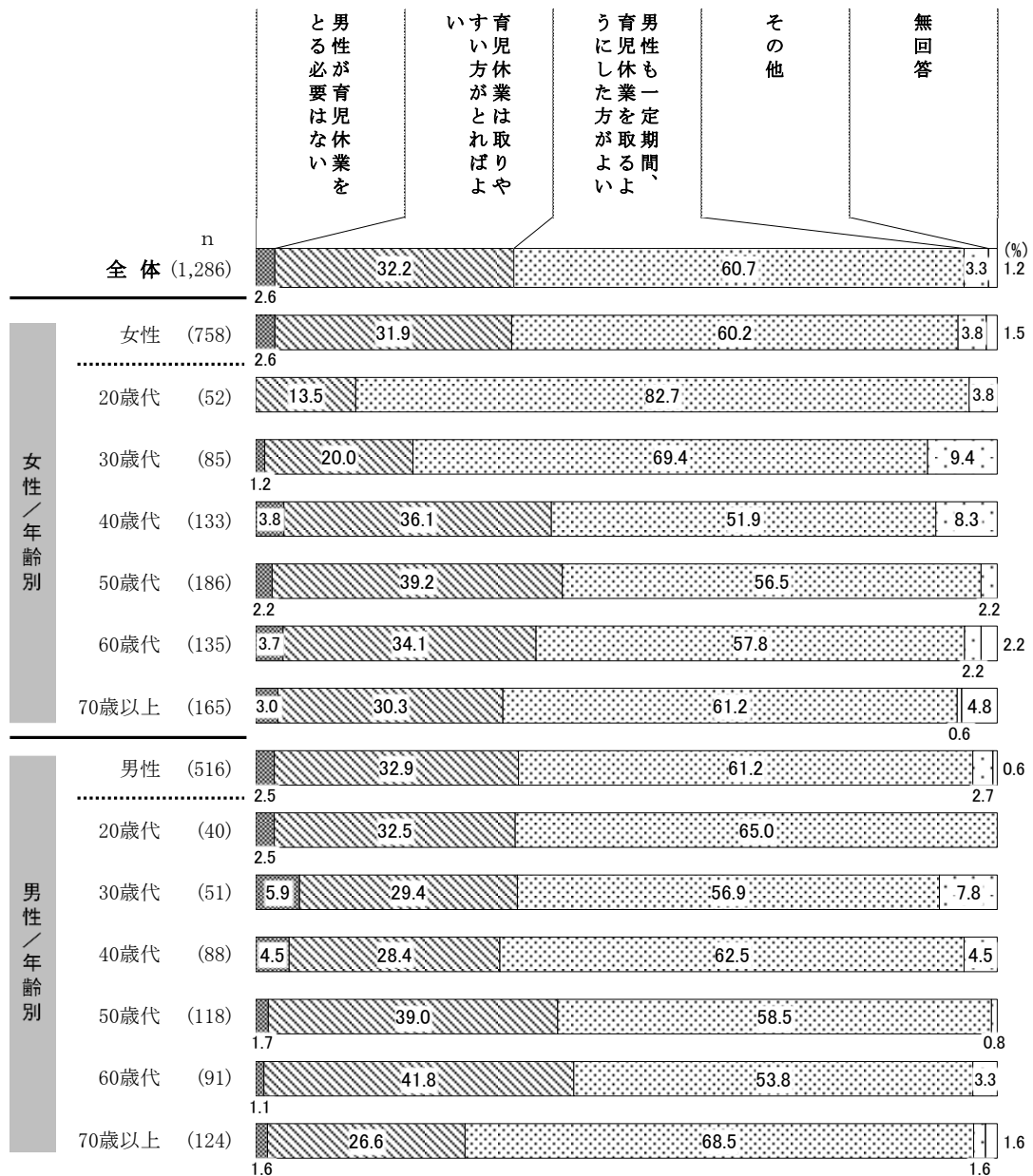
(8) 男性が育児休業を取得することへの意識

問16 男性が育児休業をとることについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

男性が育児休業を取得することへの意識についてみると、「男性も一定期間、育児休業を取るようにした方がよい」が60.7%で最も高く、次いで、「育児休業は取りやすい方がとればよい」(32.2%)となっている。

性別にみると、男女間に大きな違いはみられない。

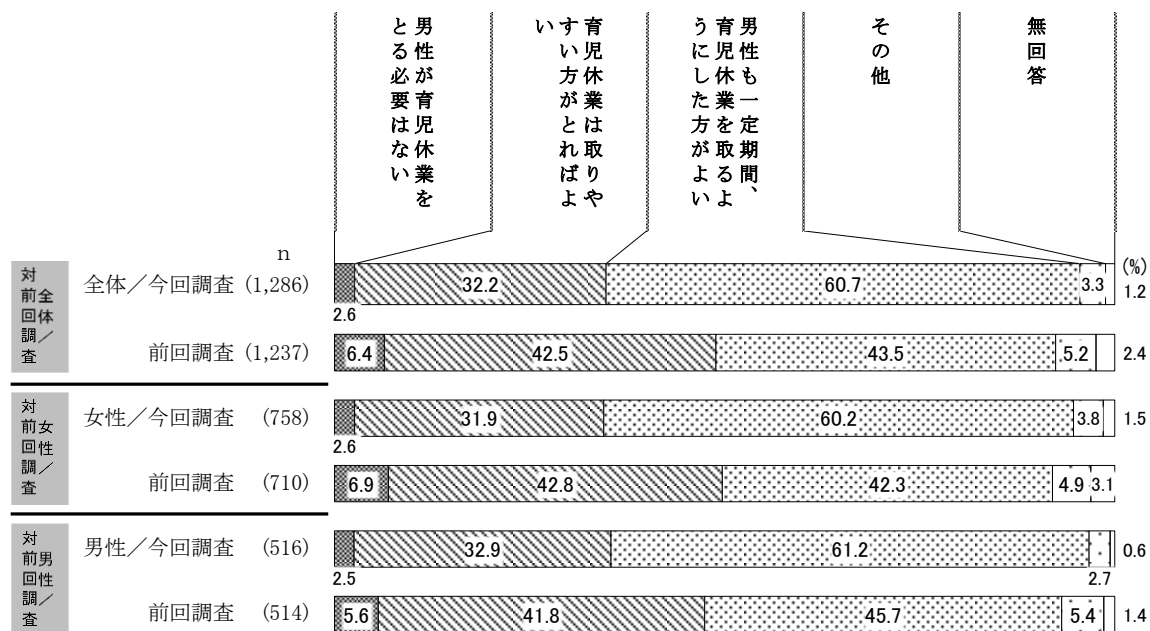
性年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「男性も一定期間、育児休業を取るようにした方がよい」が過半数を占めており、女性の20歳代で8割以上、女性の30歳代、男性の70歳以上で約7割と他の年代より高くなっている。また、男性の50歳代、60歳代で「育児休業は取りやすい方がとればよい」が4割前後となっており、男性の他の年代より高くなっている。



第2章 調査結果の詳細

■経年比較

前回調査と比較すると、男女ともに「男性も一定期間、育児休業を取るようにした方がよい」が約20ポイント増加している。



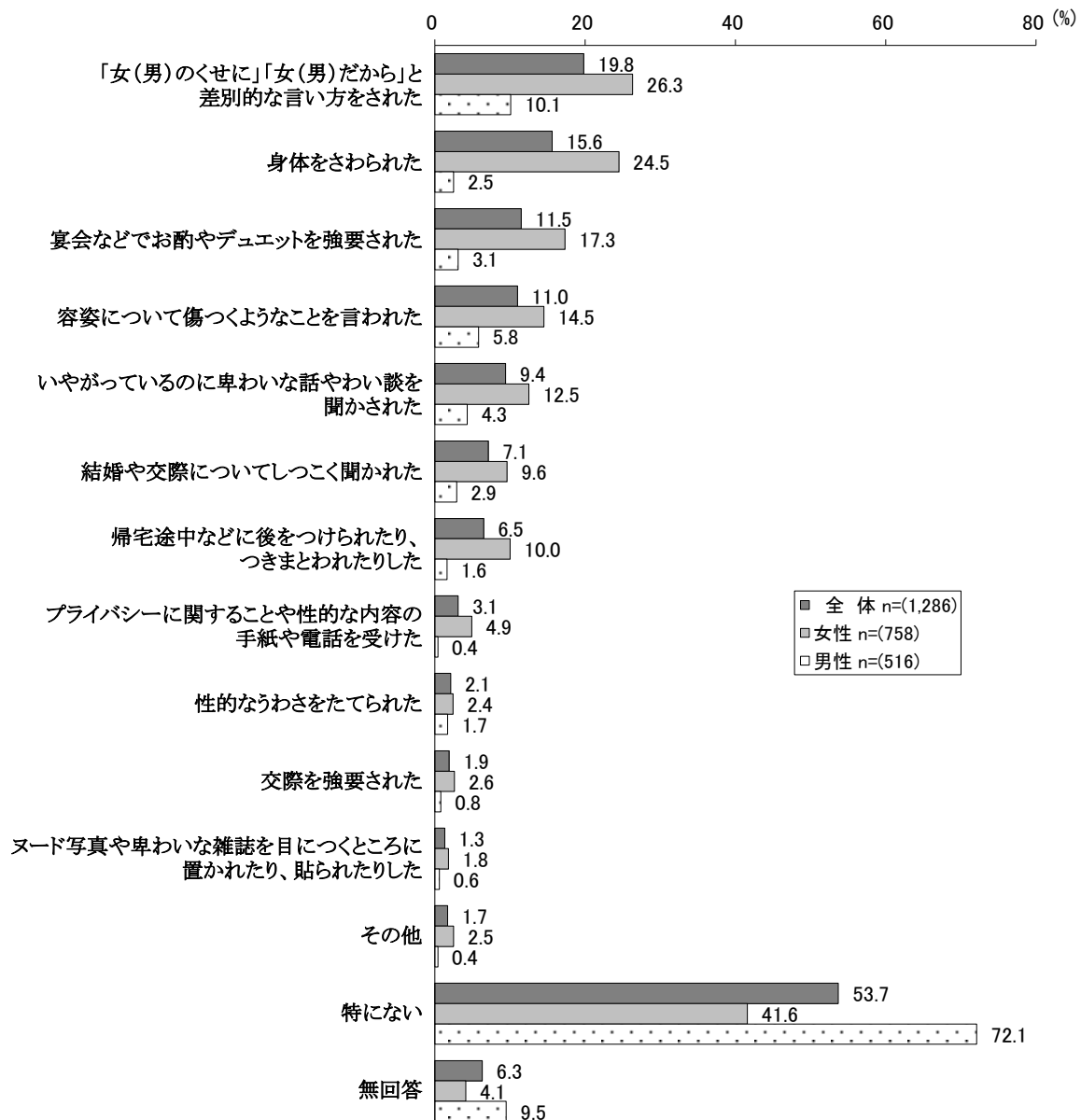
7. 人権について

(1) 「セクシュアル・ハラスメント」を受けた経験

問17 あなたは、これまでに次のような「セクシュアル・ハラスメント」を受けた経験がありますか。(〇はいくつでも)

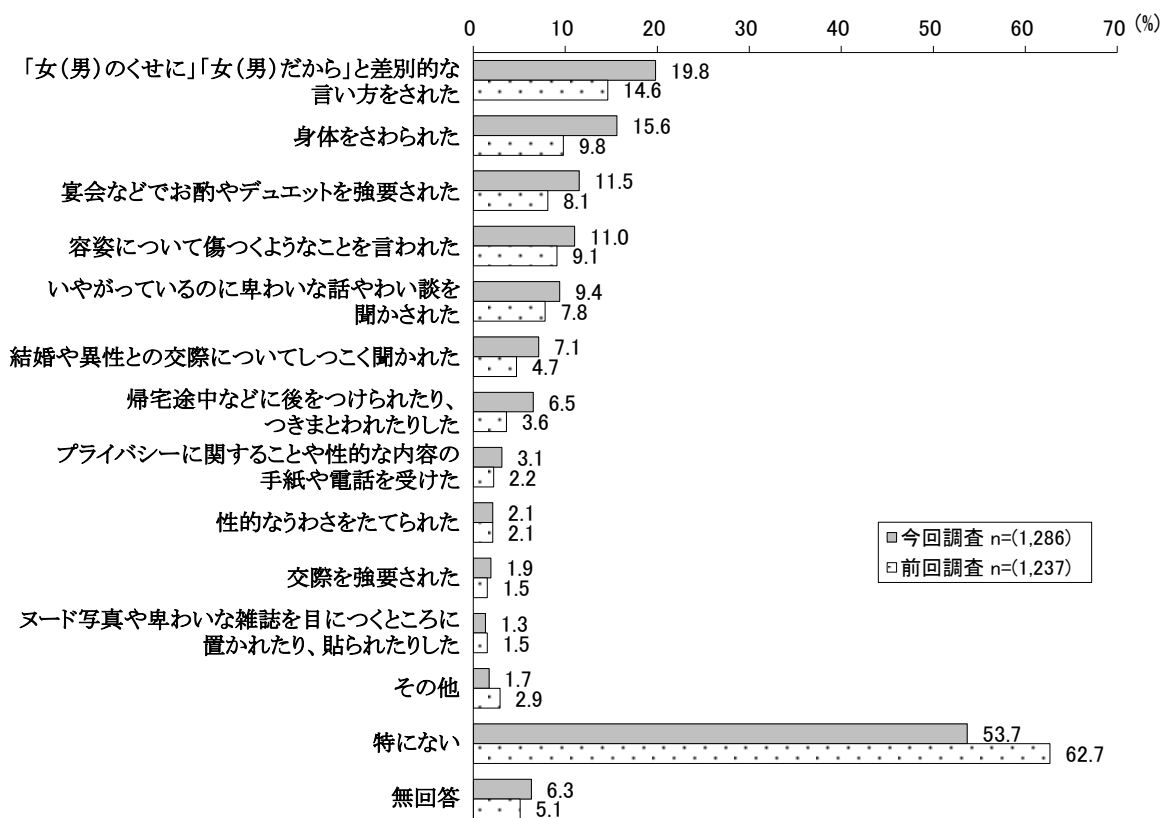
「セクシュアル・ハラスメント」を受けた経験についてみると、「特にない」が53.7%を占めている。受けた「セクシュアル・ハラスメント」については、『女(男)のくせに』『女(男)だから』と差別的な言い方をされた(19.8%)が最も高く、次いで、「身体をさわられた」(15.6%)、「宴会などでお酌やデュエットを強要された」(11.5%)、「容姿について傷つくようなことを言われた」(11.0%)となっている。

性別にみると、男女ともに「特にない」が最も高いが、男性(72.1%)が女性(41.6%)より30.5ポイント高くなっている。受けた「セクシュアル・ハラスメント」については、すべての項目で女性が男性を上回っている。



■経年比較

前回調査と比較すると、「特にない」が9ポイント減少している。また、「身体をさわられた」が5.8ポイント、「『女（男）のくせに』『女（男）だから』と差別的な言い方をされた」が5.2ポイント増加している。



(2)「セクシュアル・ハラスメント」を受けた場所

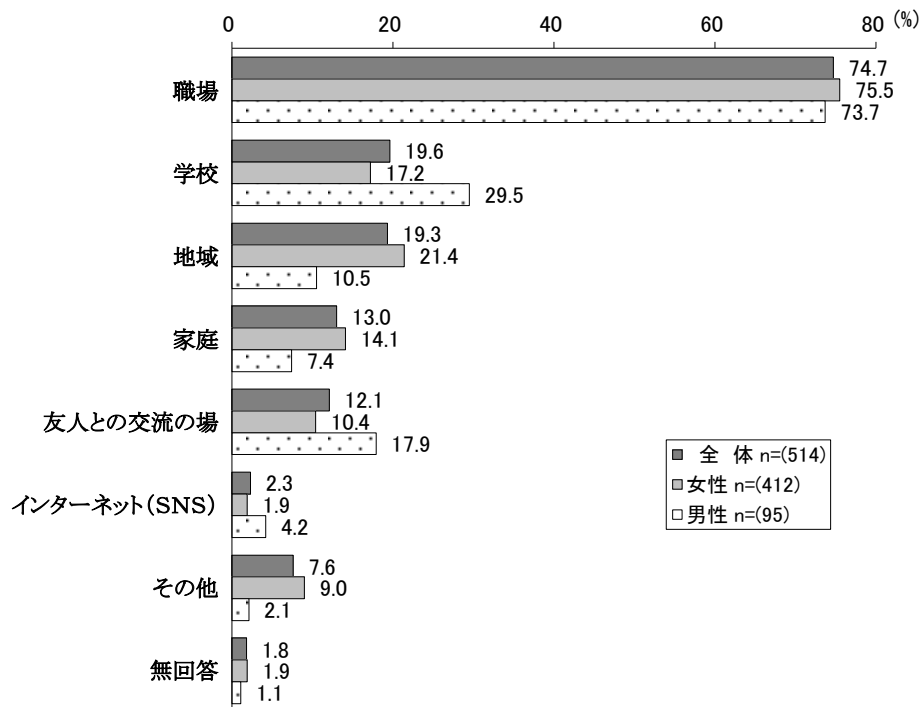
(問17で「1」～「12」のうち1つでもお答えの方に)

問17-1 どのような場所で「セクシュアル・ハラスメント」を受けたことがありますか。

(○はいくつでも)

「セクシュアル・ハラスメント」を受けた場所についてみると、「職場」が74.7%で最も高く、次いで、「学校」(19.6%)、「地域」(19.3%)、「家庭」(13.0%)となっている。

性別にみると、「地域」は女性(21.4%)が男性(10.5%)より10.9ポイント、「家庭」は女性(14.1%)が男性(7.4%)より6.7ポイント高くなっている。一方、「学校」は男性(29.5%)が女性(17.2%)より12.3ポイント、「友人との交流の場」は男性(17.9%)が女性(10.4%)より7.5ポイント高くなっている。

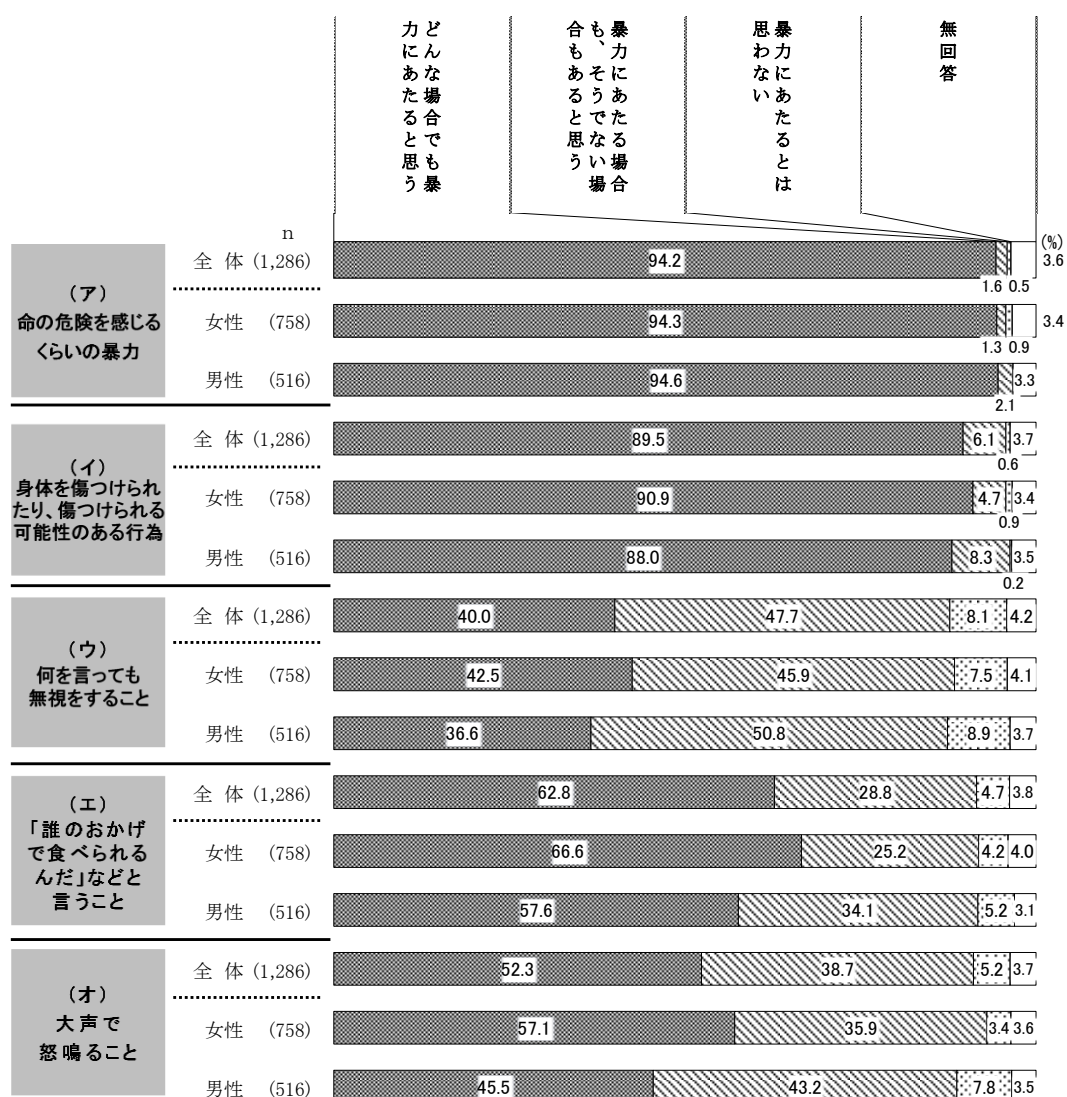


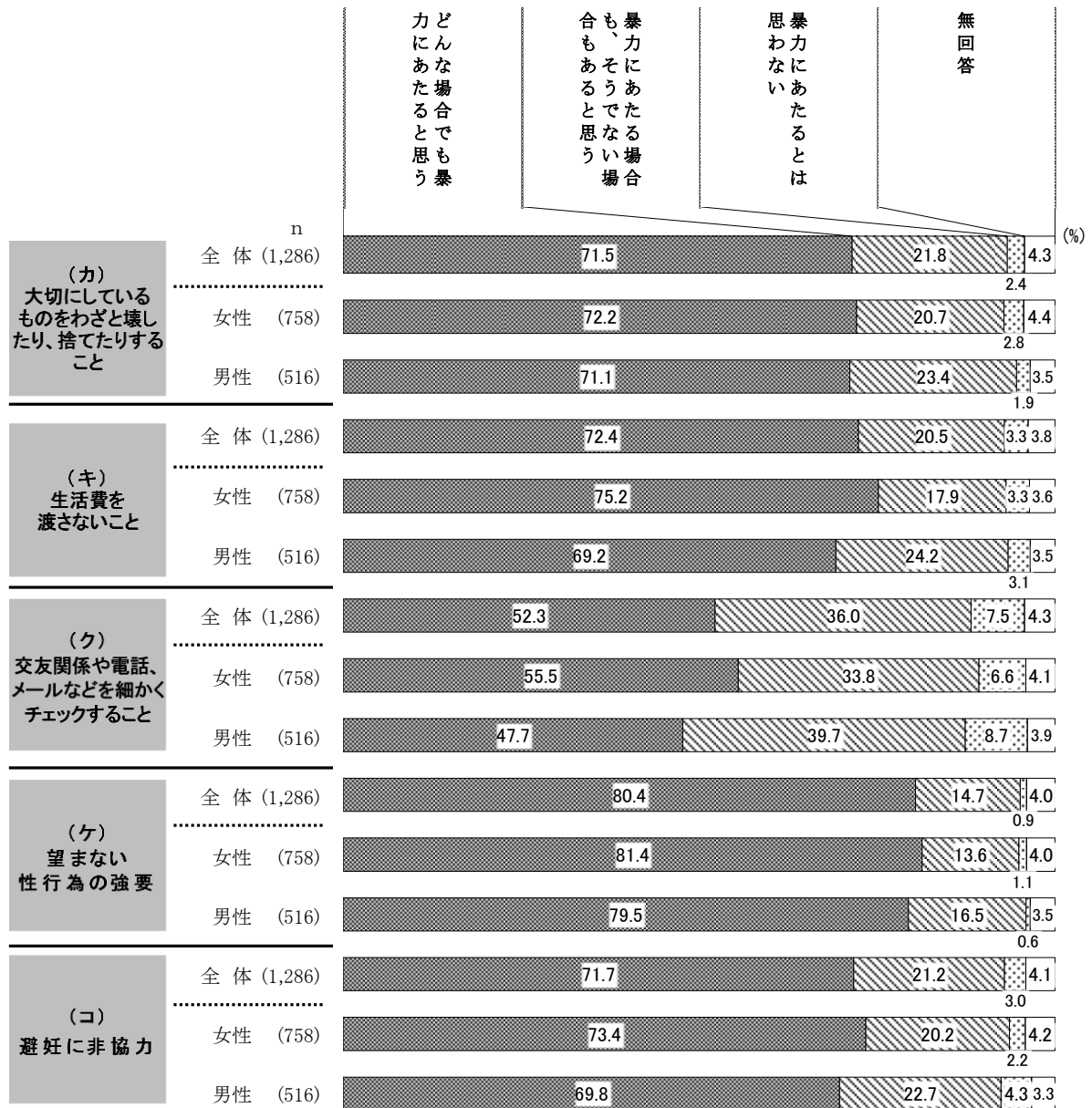
(3) 暴力に対する考え方

問18 あなたは、次のようなことが配偶者（事実婚や別居、離別を含む）やパートナー・恋人の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。（ア）～（コ）のそれぞれについて、「1」～「3」のうちあなたの考えに近い番号に○をつけてください。（それぞれ○は1つずつ）

暴力に対する考え方についてみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が、「（ア） 命の危険を感じるくらいの暴力を受ける」と「（イ） 身体を傷つけられたり、傷つけられる可能性のある行為を受ける」の《身体的暴力》で9割前後と高く、「（ケ） 望まない性行為の強要」でも8割以上となっている。一方で、「（ウ） 何を言っても無視をすること」で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が47.7%となっており、「どんな場合でも暴力にあたると思う」を上回っている。

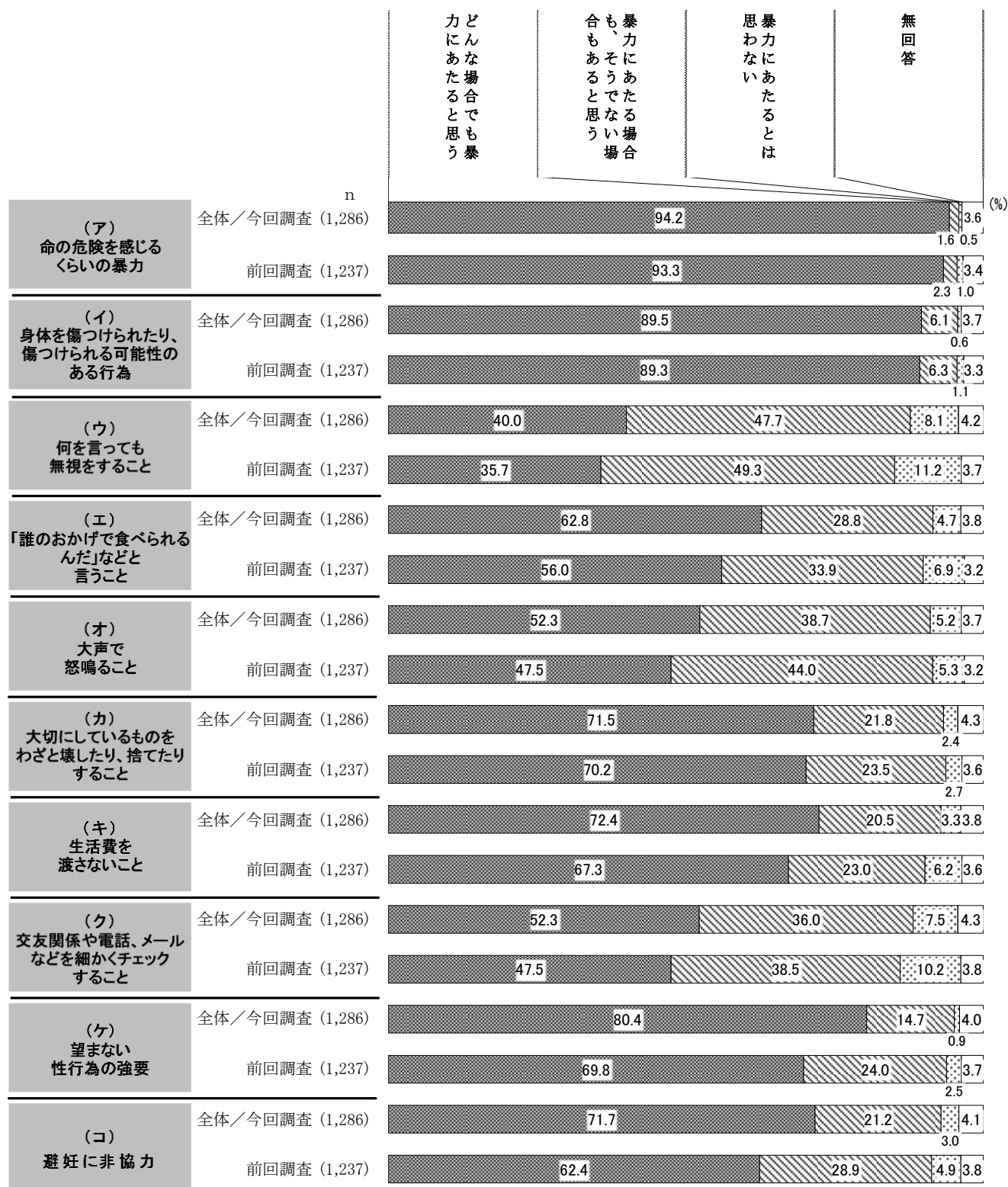
性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は「（ア） 命の危険を感じるくらいの暴力を受ける」以外のすべての項目で女性が男性を上回っており、特に「（オ） 大声で怒鳴ること」で女性（57.1%）が男性（45.5%）より11.6ポイント高くなっている。一方で、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」はすべての項目で男性が女性より高くなっている。





■経年比較

前回調査と比較すると、すべての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が増加しており、特に「(ケ) 望まない性行為の強要」で10.6ポイント、「(コ) 避妊に非協力」で9.3ポイント増加している。

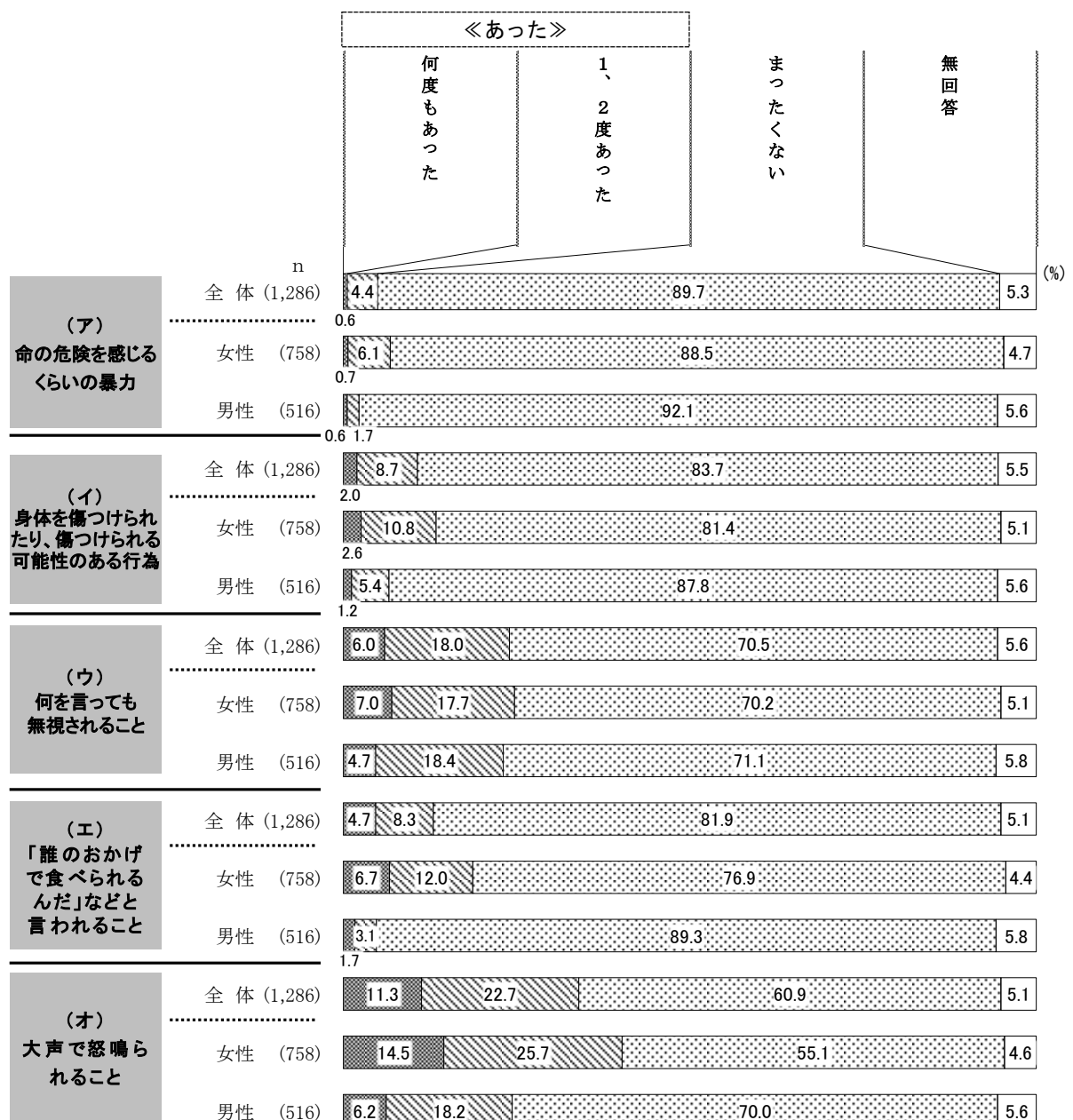


(4) 暴力を受けた経験

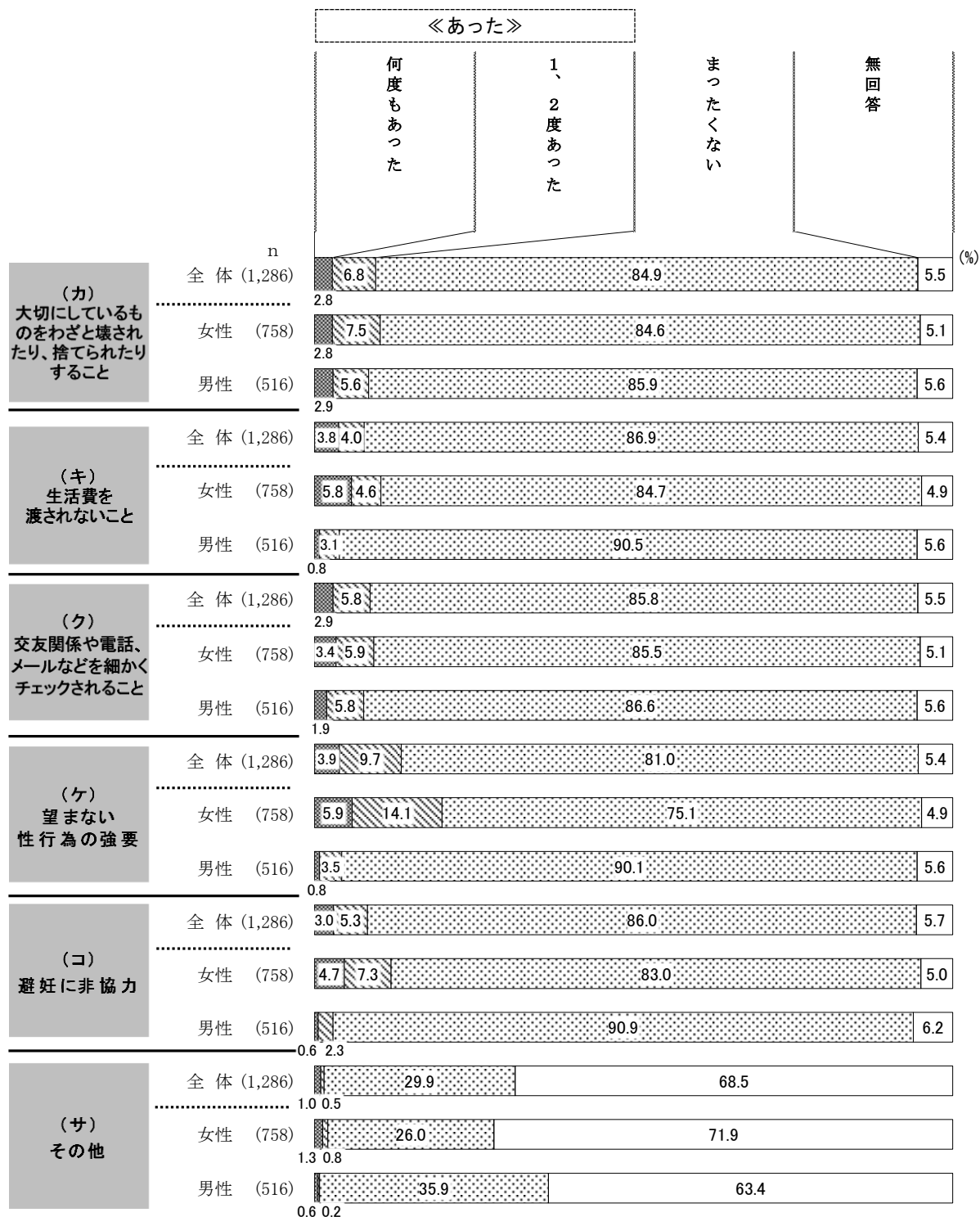
問19 あなたは、今までに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）やパートナー・恋人などから以下の（ア）～（サ）のような行為を受けたことがありますか。（それぞれ○は1つつ）

暴力を受けた経験についてみると、「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた《あった》が「（オ）大声で怒鳴られること」で34.0%と最も高く、「（ウ）何を言っても無視されること」で2割以上、「（ケ）望まない性行為の強要」、「（エ）『誰のおかげで食べられるんだ』などと言われること」、「（イ）身体を傷つけられたり、傷つけられる可能性のある行為」でも1割以上となっている。

性別にみると、《あった》はすべての項目で女性が男性を上回っており、「（オ）大声で怒鳴られること」、「（ケ）望まない性行為の強要」、「（エ）『誰のおかげで食べられるんだ』などと言われること」で女性が男性より10ポイント以上高くなっている。



第2章 調査結果の詳細



■暴力の経験（問19）ごとにみる、暴力に対する考え

暴力に対する考えについて、暴力の経験回数ごとにみると、身体的暴力、経済的暴力、性的暴力では、暴力の経験回数にかかわらず、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっている。一方、精神的暴力のうち、「(ウ) 何を言っても無視されること」について、「1、2度あった」、「まったくない」と回答した人は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が最も高くなっている。また、「(オ) 大声で怒鳴られること」について、「1、2度あった」と回答した人は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と「どんな場合でも暴力にあたると思う」と同程度となっている。

			調査数	思暴ど う力ん にあな 場合 でも	場も、 暴力 にあ た る と 思 う	思暴 わに ない にあ た る と は	無 回 答
身 体 的 暴 力	(ア) 命の危険を感じ るくらいの暴力	全 体	1,286	94.2	1.6	0.5	3.6
		何度もあった	8	100.0	-	-	-
		1、2度あった	56	92.9	7.1	-	-
		まったくない	1,154	97.4	1.5	0.6	0.5
	(イ) 身体を傷つけ られたり、傷つけら れる可能性のある行 為	全 体	1,286	89.5	6.1	0.6	3.7
		何度もあった	26	92.3	7.7	-	-
		1、2度あった	112	90.2	9.8	-	-
		まったくない	1,077	93.0	5.8	0.7	0.5
精 神 的 暴 力	(ウ) 何を言っても 無視されること	全 体	1,286	40.0	47.7	8.1	4.2
		何度もあった	77	55.8	39.0	5.2	-
		1、2度あった	231	33.3	56.3	10.0	0.4
		まったくない	906	42.1	48.8	8.1	1.1
	(エ) 「誰のおかげ で食べられるんだ」 などと言われること	全 体	1,286	62.8	28.8	4.7	3.8
		何度もあった	61	65.6	29.5	4.9	-
		1、2度あった	107	61.7	32.7	5.6	-
		まったくない	1,053	65.0	29.5	4.7	0.8
	(オ) 大声で怒鳴ら れること	全 体	1,286	52.3	38.7	5.2	3.7
		何度もあった	145	60.0	32.4	6.9	0.7
		1、2度あった	292	45.5	46.6	7.5	0.3
		まったくない	783	55.8	39.1	4.3	0.8
	(カ) 大切にしてい るものをわざと壊さ れたり、捨てられた りすること	全 体	1,286	71.5	21.8	2.4	4.3
		何度もあった	36	83.3	16.7	-	-
		1、2度あった	87	65.5	31.0	2.3	1.1
		まったくない	1,092	74.4	22.2	2.7	0.8
	(ク) 交友関係や電 話、メールなどを細 かくチェックされる こと	全 体	1,286	52.3	36.0	7.5	4.3
		何度もあった	37	56.8	35.1	8.1	-
		1、2度あった	75	48.0	41.3	9.3	1.3
		まったくない	1,103	54.2	37.2	7.7	0.9
経 済 的 暴 力	(キ) 生活費を渡さ れないこと	全 体	1,286	72.4	20.5	3.3	3.8
		何度もあった	49	81.6	14.3	4.1	-
		1、2度あった	51	74.5	21.6	3.9	-
		まったくない	1,117	74.6	21.7	3.2	0.5
性 的 暴 力	(ケ) 望まない性行 為の強要	全 体	1,286	80.4	14.7	0.9	4.0
		何度もあった	50	88.0	10.0	2.0	-
		1、2度あった	125	77.6	22.4	-	-
		まったくない	1,042	83.7	14.8	0.9	0.7
	(コ) 避妊に非協力	全 体	1,286	71.7	21.2	3.0	4.1
		何度もあった	39	89.7	7.7	2.6	-
		1、2度あった	68	66.2	27.9	4.4	1.5
		まったくない	1,106	74.1	22.2	3.1	0.5

1番目に高い

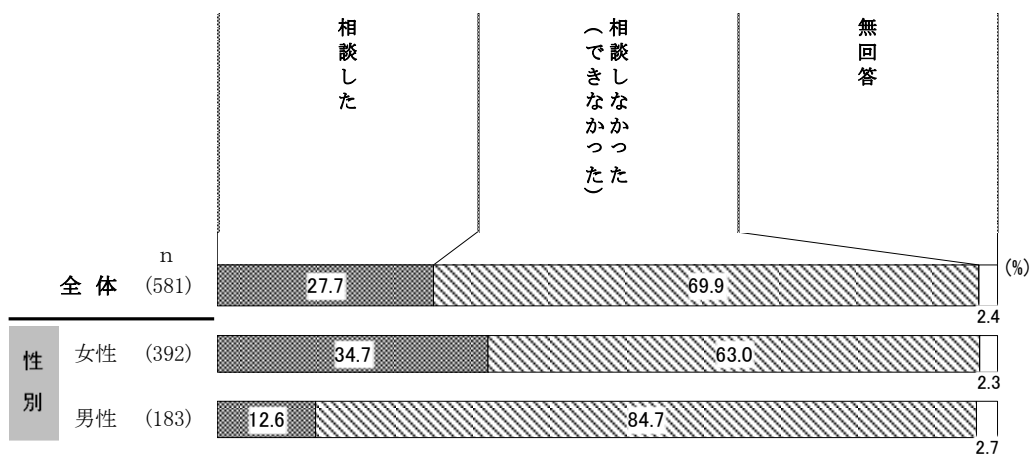
(5) 被害の相談の有無

(問19 (ア) ~ (サ) のうち1つでも「1. 何度もあった」「2. 1、2度あった」とお答えした方に)

問19-1 あなたはこれまでに相手から受けた行為について誰かに伝えたり、相談したりしましたか。(○は1つ)

被害の相談の有無についてみると、「相談しなかった (できなかった)」が69.9%、「相談した」が27.7%となっている。

性別にみると、男女ともに「相談しなかった (できなかった)」が最も高くなっているが、男性(84.7%)が女性(63.0%)より21.7ポイント高くなっている。



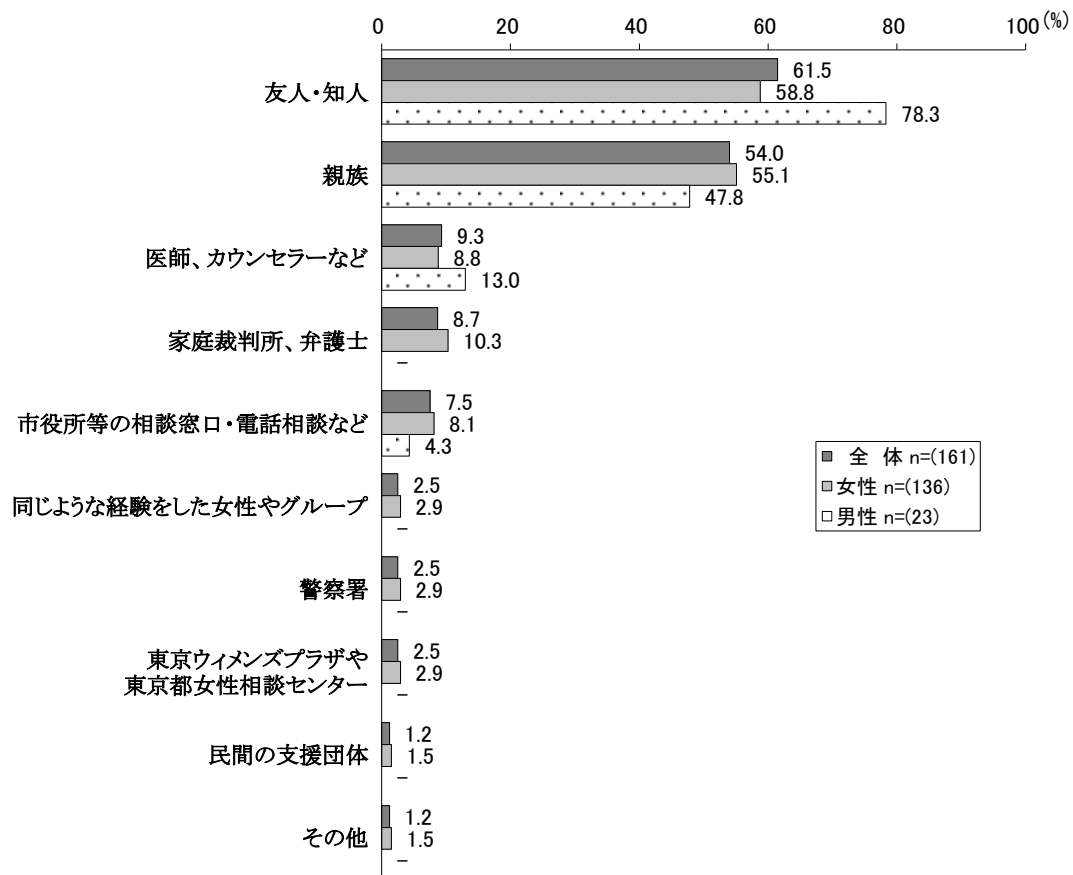
(6) 相談先

(問19-1で「1. 相談した」とお答えした方に)

問19-1-1 誰(どこ)に相談しましたか。(〇はいくつでも)

相談先についてみると、「友人・知人」が61.5%で最も高く、次いで、「親族」(54.0%)、「医師、カウンセラーなど」(9.3%)となっている。

性別にみると、女性はすべての項目で回答が見られたが、男性は「友人・知人」、「親族」、「医師、カウンセラーなど」、「市役所等の相談窓口・電話相談など」にのみ回答があった。



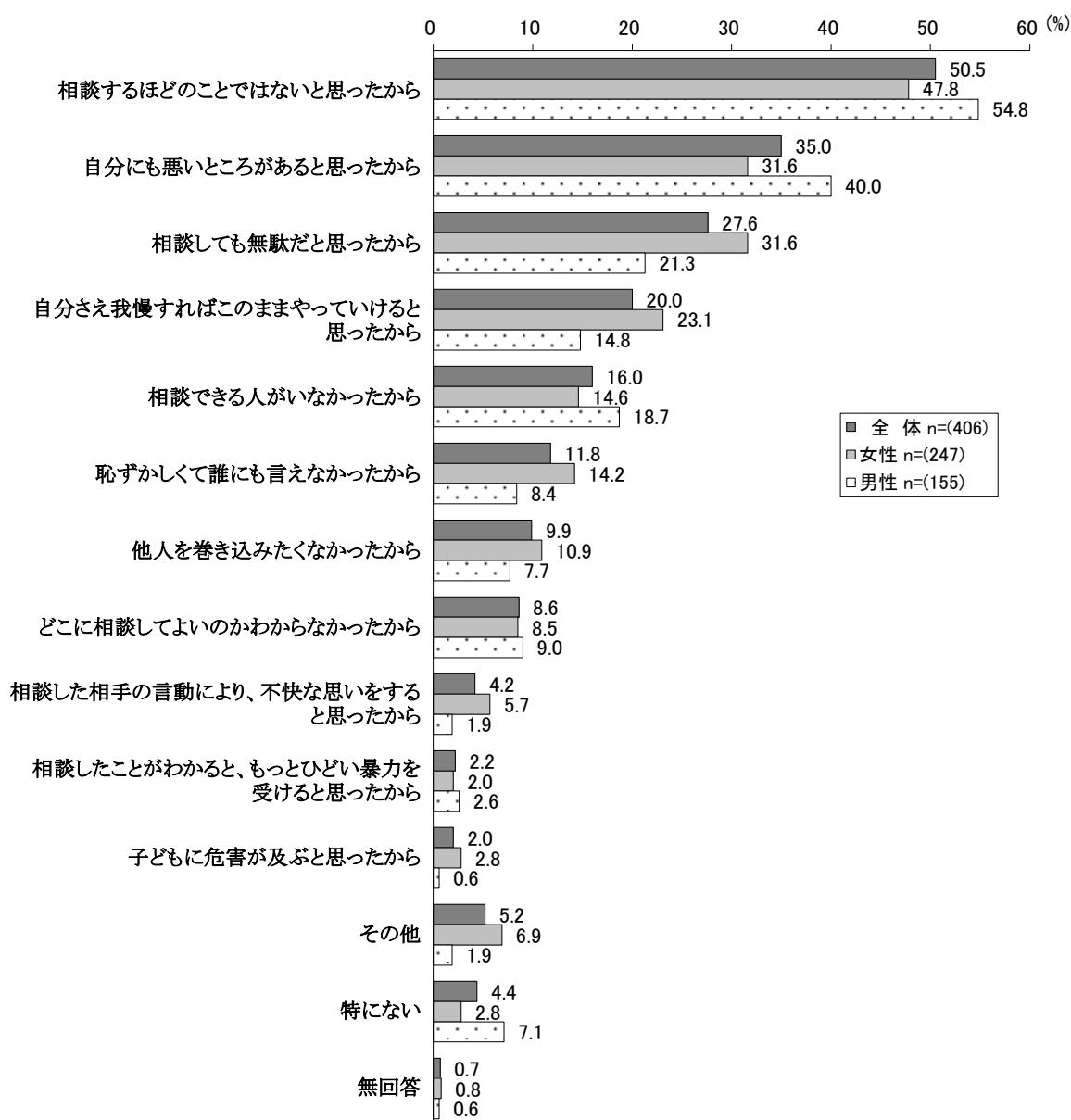
(7) 相談しなかった理由

(問19-1で「2. 相談しなかった（できなかった）」とお答えした方）

問19-1-2 誰にも相談しなかった（できなかった）理由は何ですか。（○はいくつでも）

相談しなかった理由についてみると、「相談するほどのことではないと思ったから」が50.5%で最も高く、次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」（35.0%）、「相談しても無駄だと思ったから」（27.6%）となっている。

性別にみると、「相談しても無駄だと思ったから」は女性（31.6%）が男性（21.3%）より10.3ポイント高くなっている。一方、「自分にも悪いところがあると思ったから」は男性（40.0%）が女性（31.6%）より8.4ポイント、「相談するほどのことではないと思ったから」は男性（54.8%）が女性（47.8%）より7.0ポイント高くなっている。

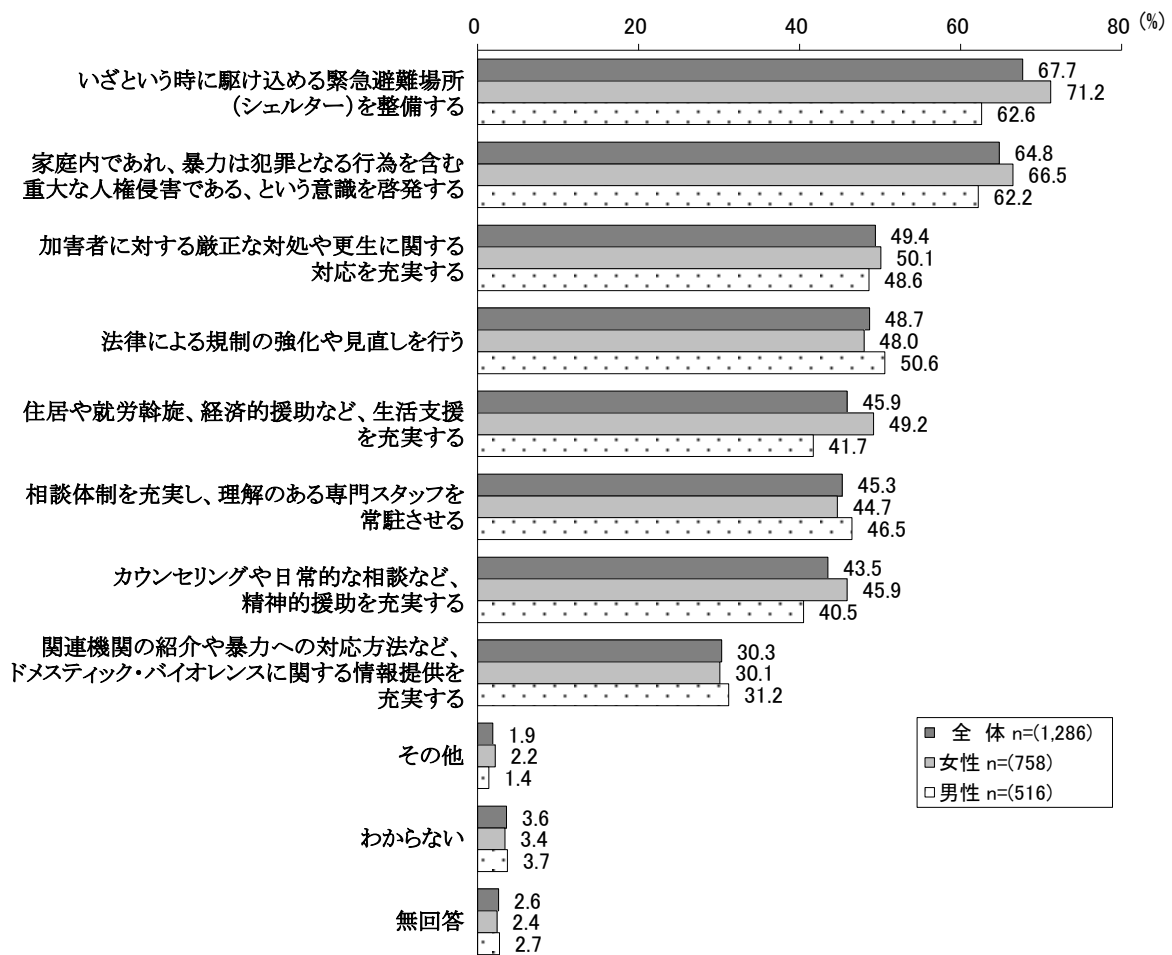


(8) DVに対する支援や援助で充実すべきもの

問20 あなたは、「ドメスティック・バイオレンス（DV）（※）」に対する対策や援助として、特にどのようなものを充実すべきだと思いますか。（〇はいくつでも）

DVに対する支援や援助で充実すべきものについてみると、「いざという時に駆け込める緊急避難場所（シェルター）を整備する」が67.7%で最も高く、次いで、「家庭内であれ、暴力は犯罪となる行為を含む重大な人権侵害である、という意識を啓発する」（64.8%）、「加害者に対する厳正な対処や更生に関する対応を充実する」（49.4%）となっている。

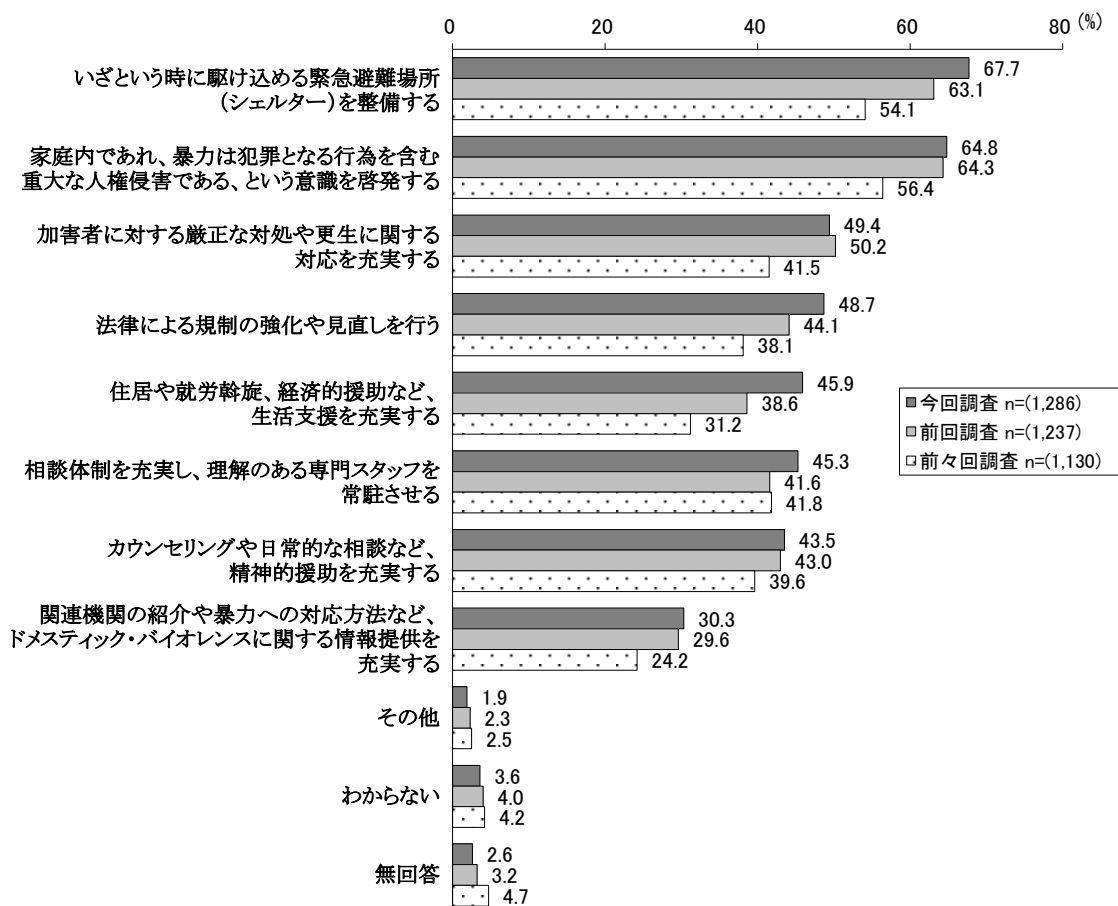
性別にみると、「いざという時に駆け込める緊急避難場所（シェルター）を整備する」は女性（71.2%）が男性（62.6%）より8.6ポイント、「住居や就労斡旋、経済的援助など、生活支援を充実する」は女性（49.2%）が男性（41.7%）より7.5ポイント高くなっている。



※『ドメスティック・バイオレンス（DV）』とは、配偶者や恋人など親密な関係にある、または過去にあった人からふるわれる暴力（身体的・心理的・性的）、という意味で使われています。

■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて「いざという時に駆け込める緊急避難場所（シェルター）を整備する」、「法律による規制の強化や見直しを行う」、「住居や就労斡旋、経済的援助など、生活支援を充実する」が特に増加しており、前回調査から「住居や就労斡旋、経済的援助など、生活支援を充実する」が7.3ポイント、「いざという時に駆け込める緊急避難場所（シェルター）を整備する」、「法律による規制の強化や見直しを行う」が4.6ポイント増加している。



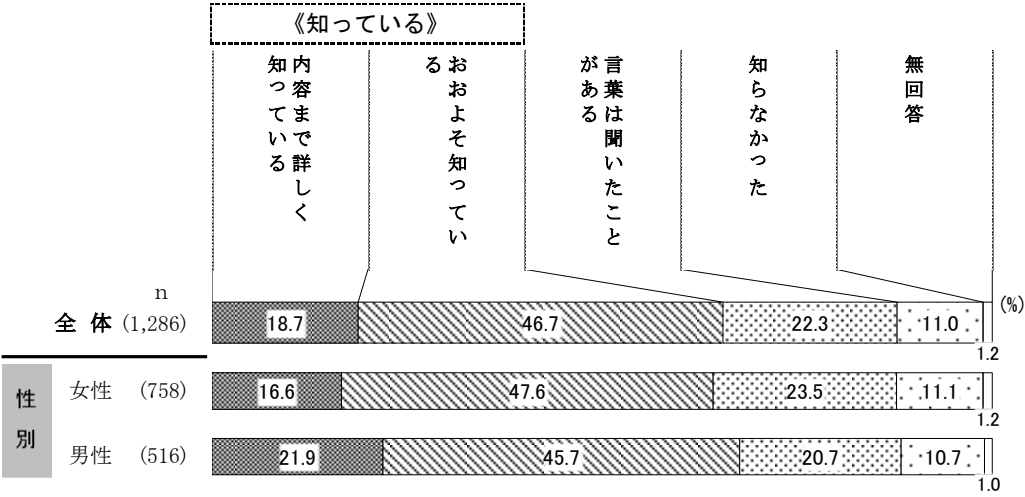
8. 性の多様性について

(1) 性的マイノリティ（性的少数者）という言葉の認知状況

問21 あなたは、性的マイノリティ（性的少数者）という言葉を知っていますか。（○は1つ）

性的マイノリティ（性的少数者）という言葉の認知状況についてみると、「おおよそ知っている」が46.7%で最も高く、次いで、「言葉は聞いたことがある」(22.3%)、「内容まで詳しく知っている」(18.7%)、「知らなかった」(11.0%)となっている。「内容まで詳しく知っている」と「おおよそ知っている」を合わせた《知っている》は65.4%となっている。

性別にみると、男女ともに「おおよそ知っている」が最も高くなっているが、女性は次いで「知らなかった」(23.5%)が高く、男性は「内容まで詳しく知っている」(21.9%)が高くなっている。

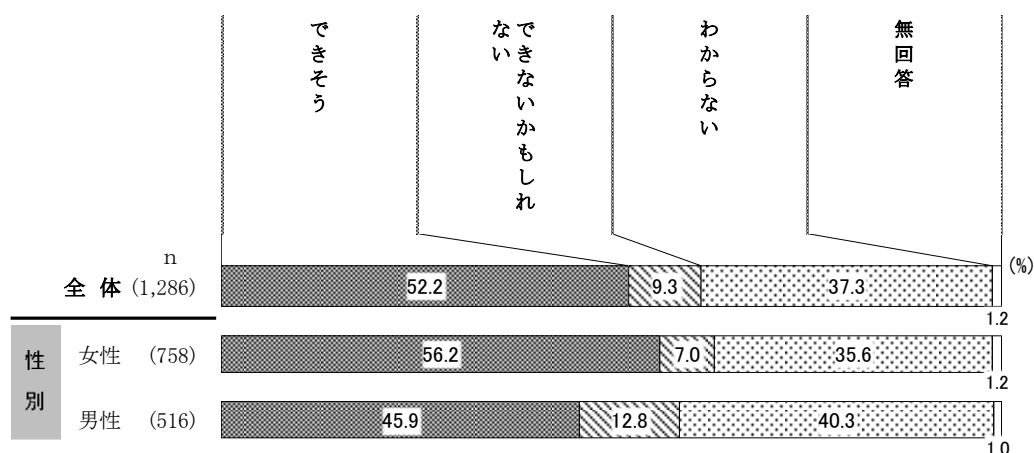


(2) 身近な人から同性愛者等であると打ち明けられた場合の接し方

問22 あなたは、身近な人から同性愛者やトランスジェンダーなどであると打ち明けられた場合、これまでと変わりなく接することができそうですか。(○は1つ)

身近な人から同性愛者等であると打ち明けられた場合の接し方についてみると、「できそう」が52.2%で最も高く、次いで、「わからない」(37.3%)、「できないかもしれない」(9.3%)となっている。

性別にみると、男女ともに「できそう」が最も高くなっているが、女性(56.2%)が男性(45.9%)より10.3ポイント高くなっている。一方、「できないかもしれない」は男性(12.8%)が女性(7.0%)より5.8ポイント高くなっている。

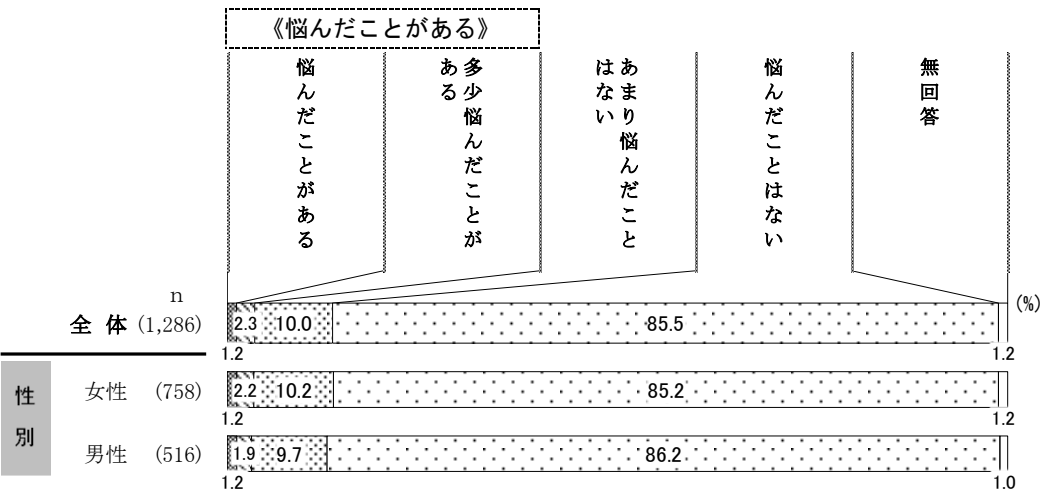


(3) 自分の性別や恋愛対象となる性別について悩んだ経験

問23 あなたは、今まで自分の性別や恋愛対象となる性別などについて悩んだことはありますか。(○は1つ)

自分の性別や恋愛対象となる性別について悩んだ経験についてみると、「悩んだことはない」が85.5%で最も高く、次いで、「あまり悩んだことはない」(10.0%)となっている。「多少悩んだことがある」と「悩んだことがある」を合わせた《悩んだことがある》は3.5%となっている。

性別にみても同様の傾向がうかがえ、男女間に大きな違いはみられない。



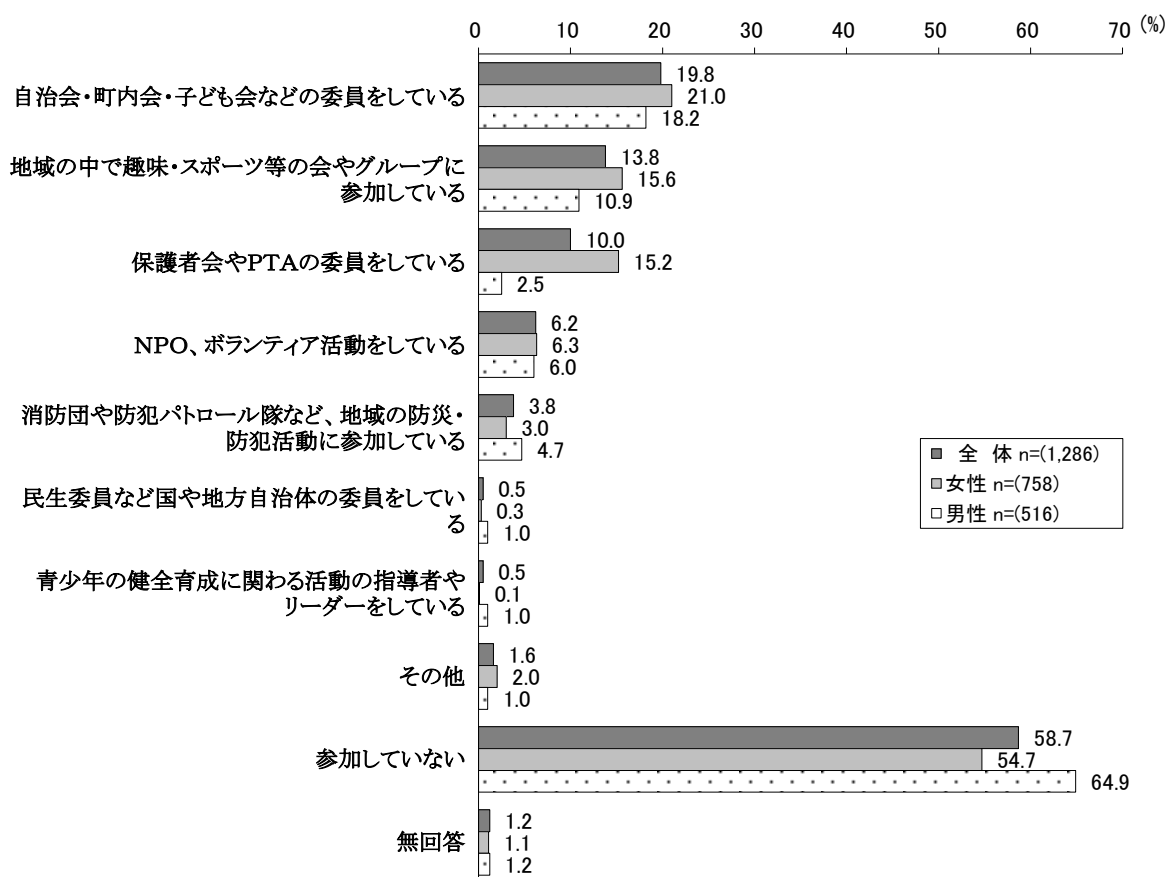
9. 地域活動・社会活動について

(1) 地域活動や社会活動への参加状況

問24 あなたは、地域活動や社会活動などに参加していますか。(〇はいくつでも)

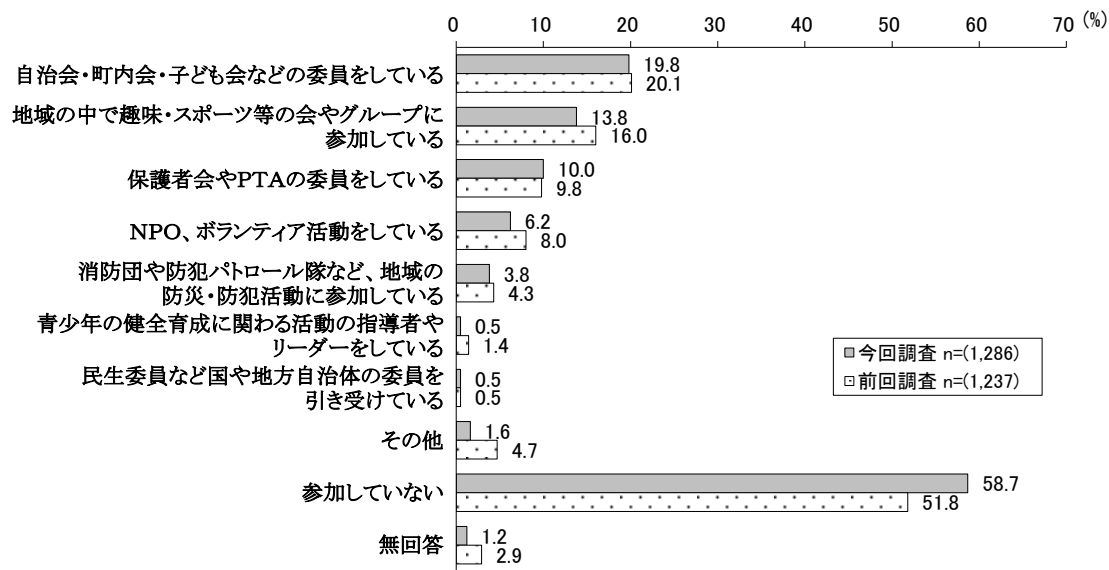
地域活動や社会活動への参加状況についてみると、「参加していない」が58.7%を占めている。参加している活動については、「自治会・町内会・子ども会などの委員をしている」(19.8%)が最も高く、次いで、「地域の中で趣味・スポーツ等の会やグループに参加している」(13.8%)、「保護者会やPTAの委員をしている」(10.0%)となっている。

性別にみると、「保護者会やPTAの委員をしている」は女性(15.2%)が男性(2.5%)より12.7ポイント高くなっている。一方、「参加していない」は男性(64.9%)が女性(54.7%)より10.2ポイント高くなっている。



■経年比較

前回調査と比較すると、「参加していない」が6.9ポイント増加している。参加している活動については、大きな変化は見られない。



■性年齢別

性年齢別にみると、すべての年代で「参加していない」が最も高く、特に女性の20歳代、男性の20歳代、30歳代の若年層で約9割となっている。参加している活動については、「保護者会やPTAの委員をしている」が女性40歳代で3割以上、女性30歳代、50歳代で2割前後となっているが、男性ではすべての年代で1割未満となっている。「地域の中で趣味・スポーツ等の会やグループに参加している」は、男女ともに年代が上がるほど割合が高くなっている。また、「自治会・町内会・子ども会などの委員をしている」は、男性の70歳以上で3割以上と他の年代より高くなっている。

		調査数	自治会・町内会・子ども会などに参加している	民生委員など国や地方自治体の委員を引き受けている	保護者会やPTAの委員をしている	青少年の健全育成に関わる活動の指導者やリーダーをしている	NPO、ボランティア活動をしている	消防団や防犯パトロール隊など、地域の防災・防犯活動に参加している	グスルボの会やグループに参加している	地域の中で趣味・スポーツ等の会やグループに参加している	その他	参加していない	無回答
女性	20歳代	52	1.9	-	5.8	-	1.9	1.9	-	-	-	88.5	1.9
	30歳代	85	7.1	-	17.6	-	1.2	-	5.9	-	-	72.9	-
	40歳代	133	21.1	-	32.3	-	3.8	1.5	6.0	0.8	-	54.1	-
	50歳代	186	26.3	-	20.4	-	6.5	3.8	12.4	2.2	-	51.1	1.1
	60歳代	135	25.9	-	8.1	-	5.9	3.0	21.5	5.9	-	44.4	1.5
	70歳以上	165	23.6	1.2	3.0	0.6	12.7	5.5	32.1	1.2	-	47.9	1.8
男性	20歳代	40	-	-	-	2.5	10.0	2.5	2.5	-	-	85.0	-
	30歳代	51	5.9	-	2.0	-	2.0	-	2.0	-	-	88.2	-
	40歳代	88	12.5	-	4.5	-	6.8	3.4	5.7	2.3	-	73.9	-
	50歳代	118	13.6	0.8	3.4	0.8	2.5	3.4	6.8	1.7	-	70.3	1.7
	60歳代	91	22.0	2.2	-	1.1	7.7	6.6	15.4	1.1	-	59.3	-
	70歳以上	124	33.9	1.6	2.4	1.6	8.1	7.3	21.0	-	-	41.9	3.2

1 番目に高い

2 番目に高い

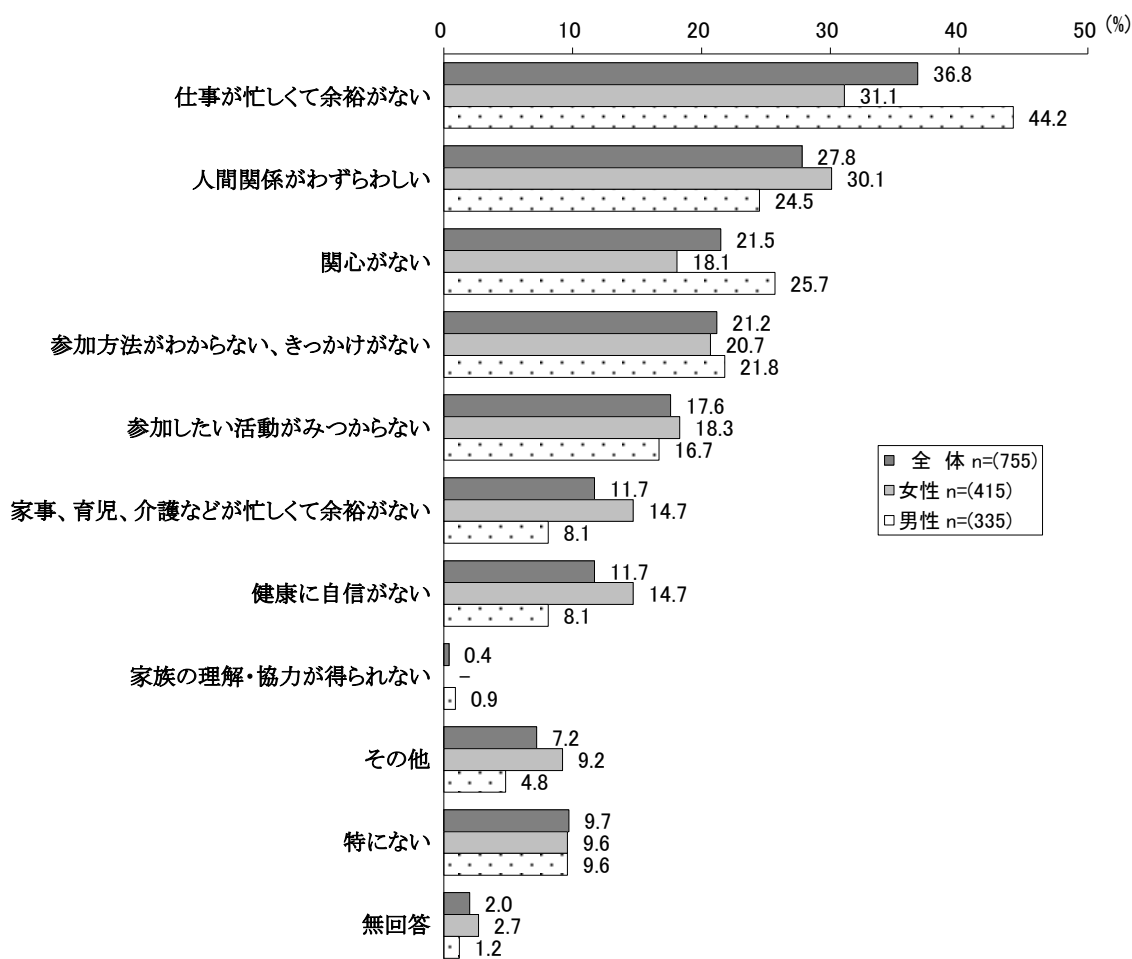
(2) 参加していない理由

問24で「9. 参加していない」とお答えの方に)

問24-1 地域活動や社会活動に参加していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

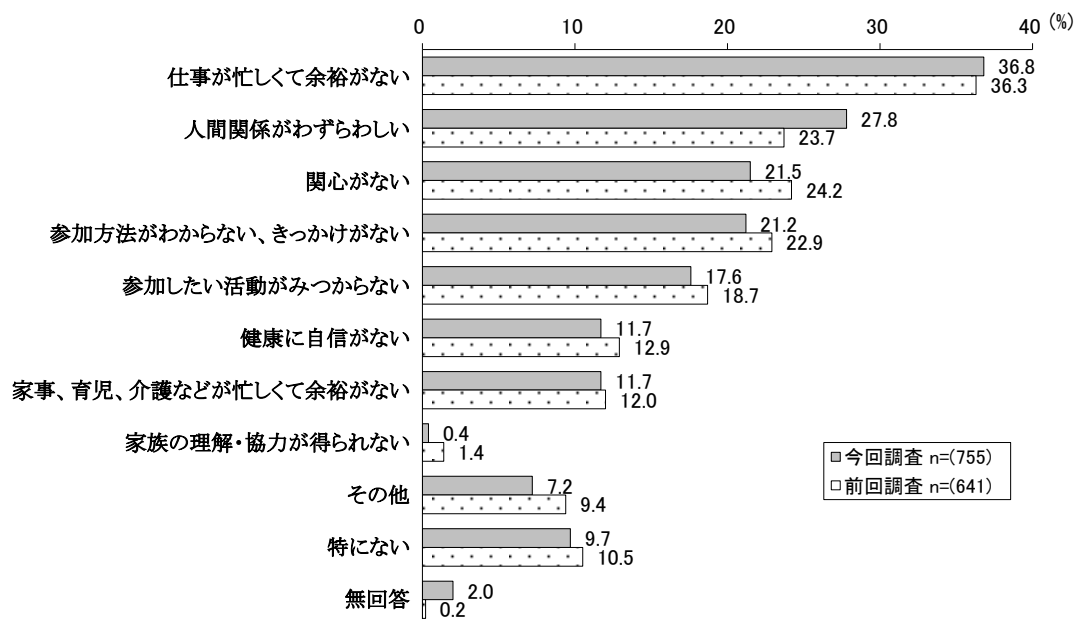
参加していない理由についてみると、「仕事が忙しくて余裕がない」が36.8%で最も高く、次いで、「人間関係がわずらわしい」(27.8%)、「関心がない」(21.5%)、「参加方法がわからない、きっかけがない」(21.2%)となっている。

性別にみると、男女ともに「仕事が忙しくて余裕がない」が最も高くなっているが、男性(44.2%)が女性(31.1%)より13.1ポイント高くなっている。また、「関心がない」は男性(25.7%)が女性(18.1%)より7.6ポイント高くなっている。一方で、「家事、育児、介護などが忙しくて余裕がない」、「健康に自信がない」、「人間関係がわずらわしい」は女性が男性より6ポイント程度高くなっている。



■経年比較

前回調査と比較すると、「人間関係がわずらわしい」が4.1ポイント増加している。

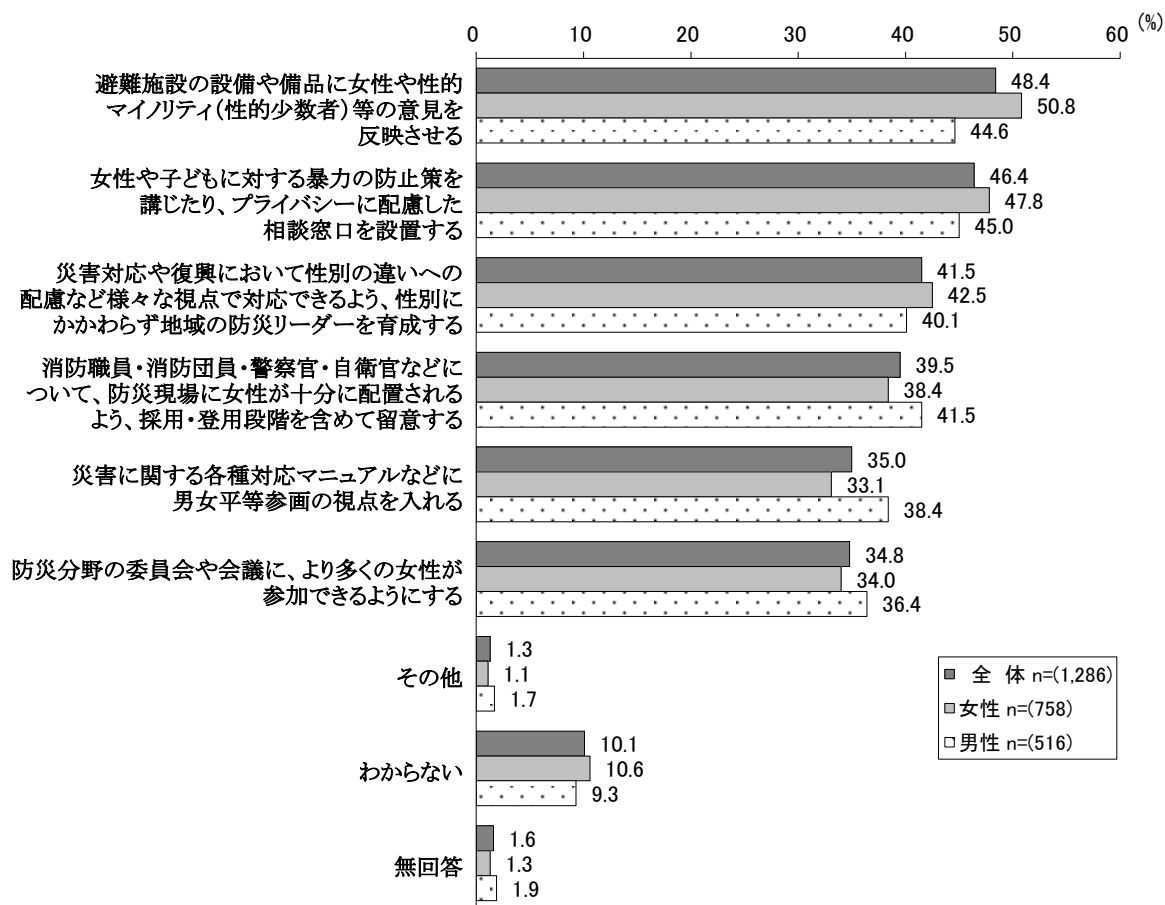


(3) 災害時に備えた男女双方の視点を取り入れた防災対策で重要なこと

問25 災害時に備えた男女双方の視点を取り入れた防災対応として、どのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

災害時に備えた男女双方の視点を取り入れた防災対策で重要なことについてみると、「避難施設の設備や備品に女性や性的マイノリティ（性的少数者）等の意見を反映させる」が48.4%で最も高く、次いで、「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する」(46.4%)、「災害対応や復興において性別の違いへの配慮など様々な視点で対応できるよう、性別にかかわらず地域の防災リーダーを育成する」(41.5%)となっている。

性別にみると、女性は「避難施設の設備や備品に女性や性的マイノリティ（性的少数者）等の意見を反映させる」、男性は「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する」が最も高くなっている。「避難施設の設備や備品に女性や性的マイノリティ（性的少数者）等の意見を反映させる」は女性（50.8%）が男性（44.6%）より6.2ポイント高くなっている一方、「災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等参画の視点を入れる」は男性（38.4%）が女性（33.1%）より5.3ポイント高くなっている。



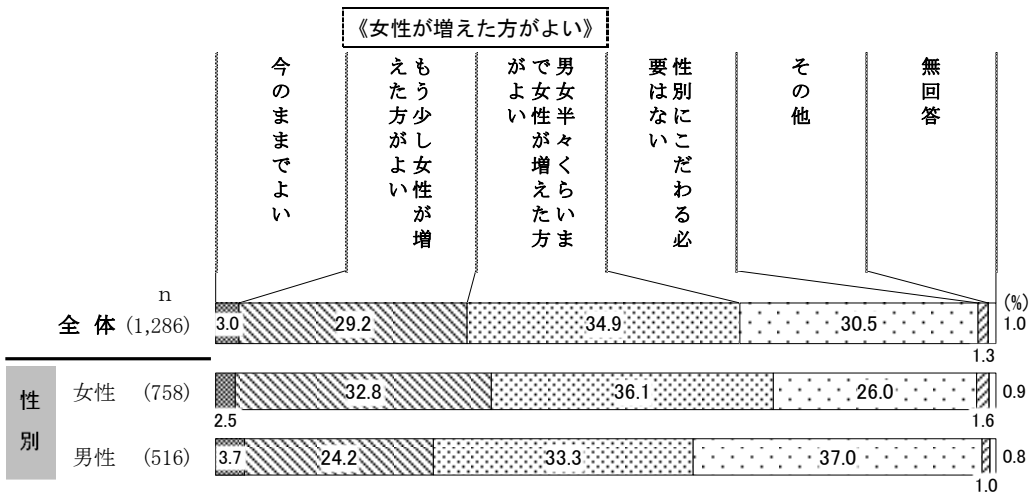
10. 女性活躍について

(1) 女性の委員比率の考え

問26 まちづくりや福祉など、市のこれからの政策や方針を決定する場の一つに審議会があります。町田市では、市で設けている審議会などの女性委員の比率は27.9%です（2020年4月1日現在）。このことについて、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）

女性の委員比率の考えについてみると、「もう少し女性が増えた方がよい」と「男女半々くらいまで女性が増えた方がよい」を合わせた《女性が増えた方がよい》が64.1%と6割以上を占めており、その内訳をみると「男女半々くらいまで女性が増えた方がよい」が34.9%となっている。また、「性別にこだわる必要はない」（30.5%）は3割以上となっている。

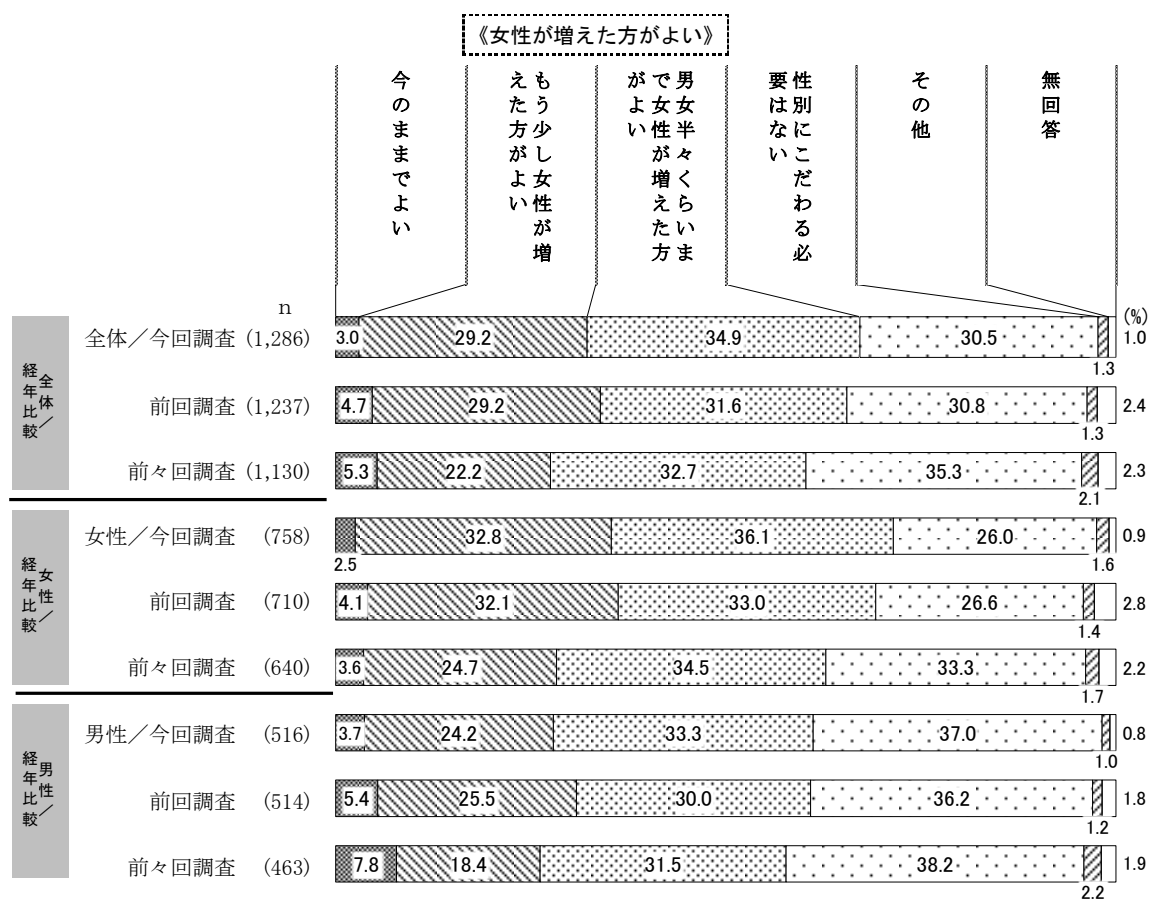
性別にみると、《女性が増えた方がよい》は女性（68.9%）が男性（57.5%）を11.4ポイント上回っている一方で、「性別にこだわる必要はない」は男性（37.0%）が女性（26.0%）より11.0ポイント高くなっている。



■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて「もう少し女性が増えた方がよい」が増加しているが、前回調査からは大きな変化は見られない。

性別にみると、前々回調査から今回調査にかけて男女ともに「もう少し女性が増えた方がよい」が増加している。また、女性で「性別にこだわる必要はない」が減少している。全体と同様、前回調査からは大きな変化は見られない。

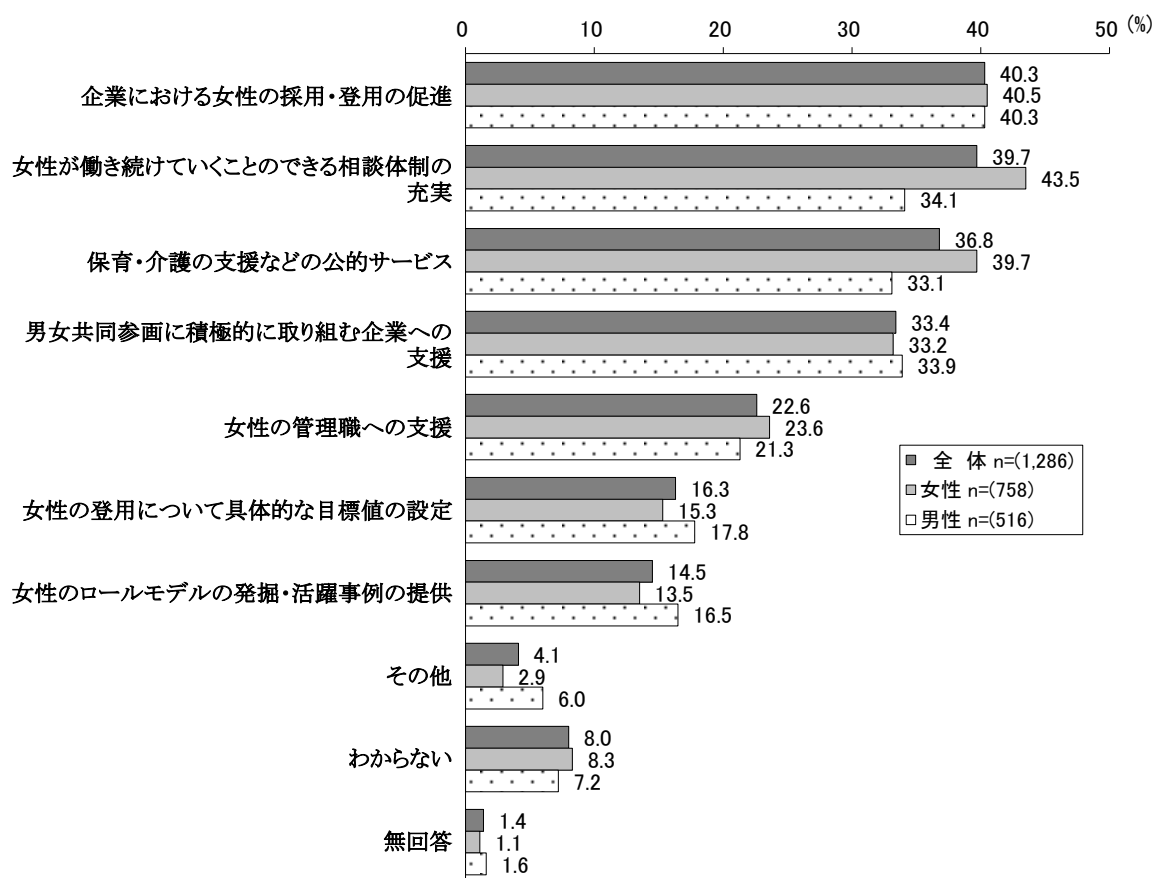


(2) 女性の参画を促すのに必要な支援

問27 働く場における女性の管理職への登用など、女性の参画を促すには、どのような支援が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

女性の参画を促すのに必要な支援についてみると、「企業における女性の採用・登用の促進」が40.3%で最も高く、次いで、「女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実」(39.7%)、「保育・介護の支援などの公的サービス」(36.8%)となっている。

性別にみると、女性は「女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実」(43.5%)が最も高く、男性(34.1%)より9.4ポイント高くなっている。また、「保育・介護の支援などの公的サービス」は女性(39.7%)が男性(33.1%)より6.6ポイント高くなっている。

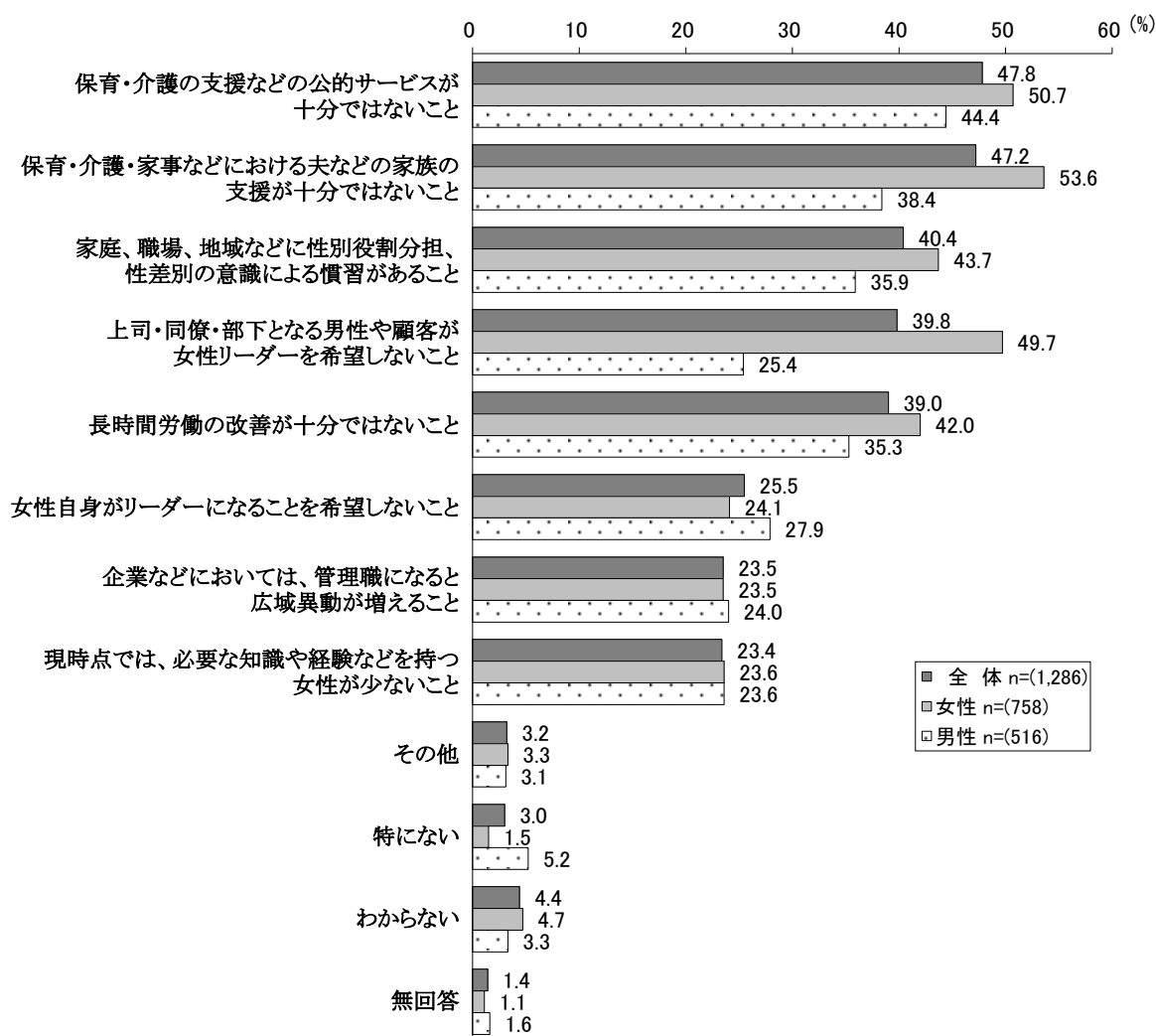


(3) 女性リーダーを増やす際の障害

問28 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

女性リーダーを増やす際の障害についてみると、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が47.8%で最も高く、次いで、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(47.2%)、「家庭、職場、地域などに性別役割分担、性差別の意識による慣習があること」(40.4%)、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」(39.8%)となっている。

性別にみると、女性で「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(53.6%)、男性で「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」(44.4%)が最も高くなっている。「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」は女性(49.7%)が男性(25.4%)より24.3ポイント、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」は女性(53.6%)が男性(38.4%)より15.2ポイント高くなっている。

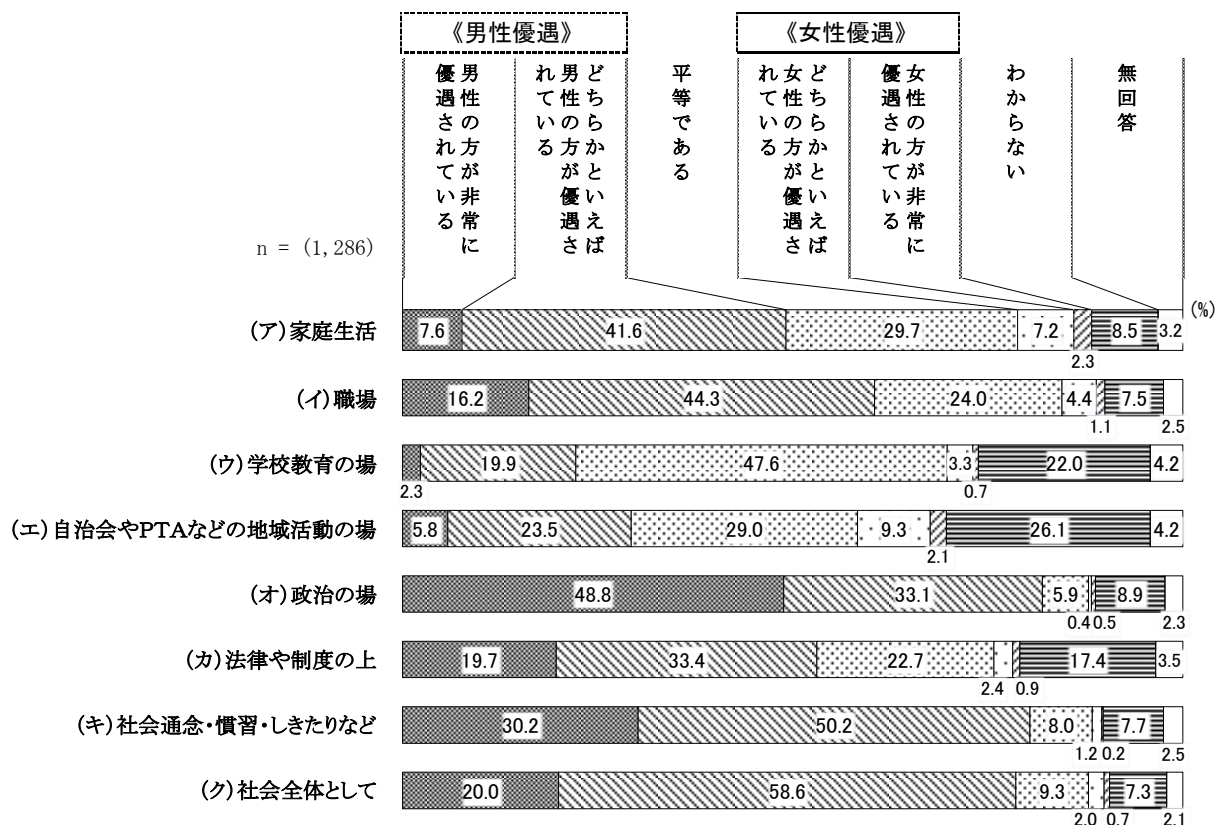


1.1. 男女平等について

(1) 男女の平等感

問29 あなたは、次にあげる分野において女性と男性が平等になっていると思いますか。
(ア)～(ク)について、あなたの感じ方に近いものをお選びください。(〇はそれぞれ1つつつ)

男女の平等感についてみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》が「(オ) 政治の場」(81.9%)、「(キ) 社会通念・慣習・しきたりなど」(80.4%)、「(ク) 社会全体として」(78.6%)で8割前後と高くなっている。「平等である」は「(ウ) 学校教育の場」(47.6%)で約5割と高くなっている。また、「(エ) 自治会やPTAなどの地域活動の場」で、《男性優遇》(29.3%)と「平等である」(29.0%)が同程度となっている。

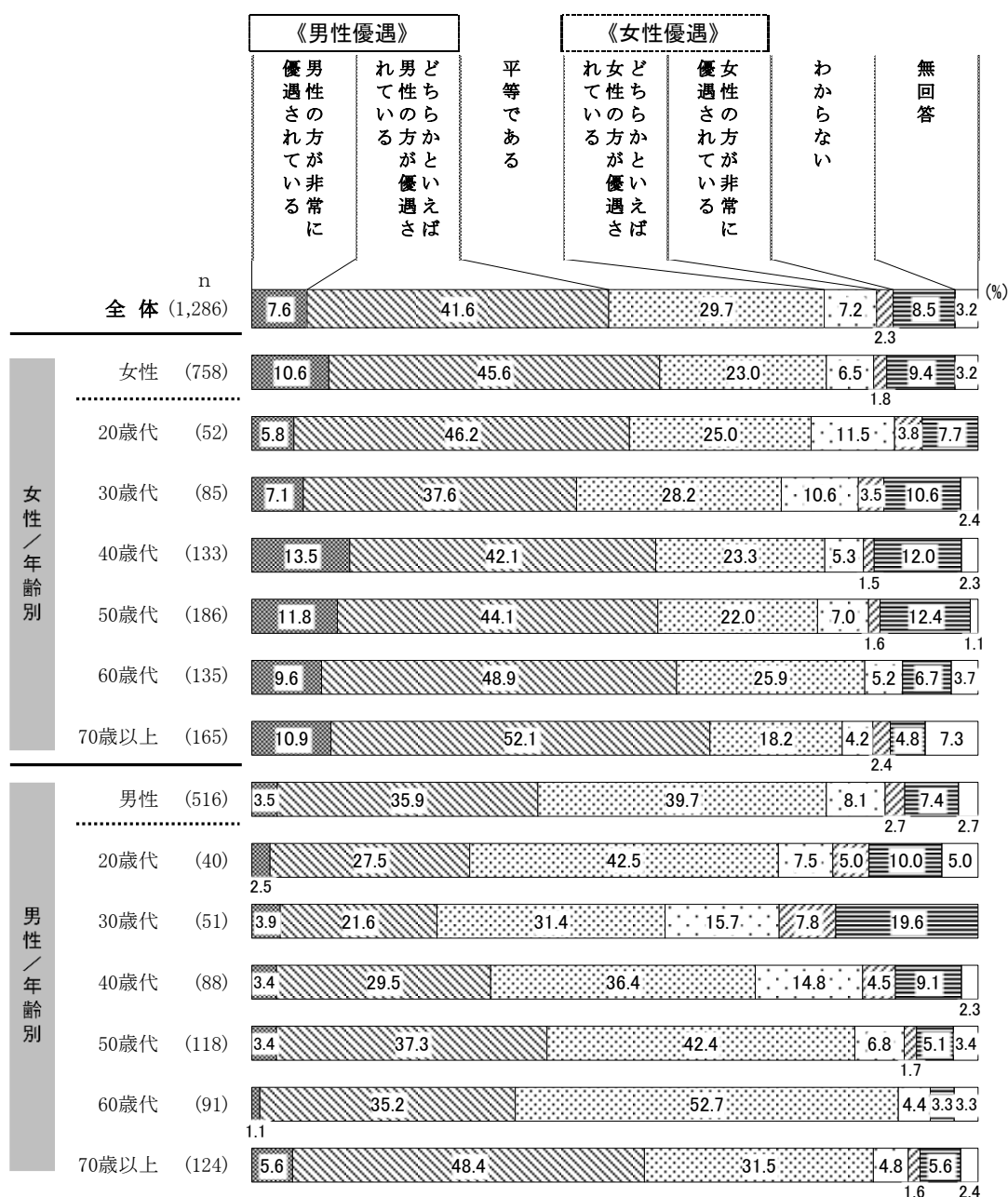


■性別・性年齢別

(ア) 家庭生活

家庭生活における男女の平等感について、性別にみると、女性で《男性優遇》（56.2%）が約6割となっており、男性では「平等である」（39.7%）と《男性優遇》（39.4%）が同程度となっている。

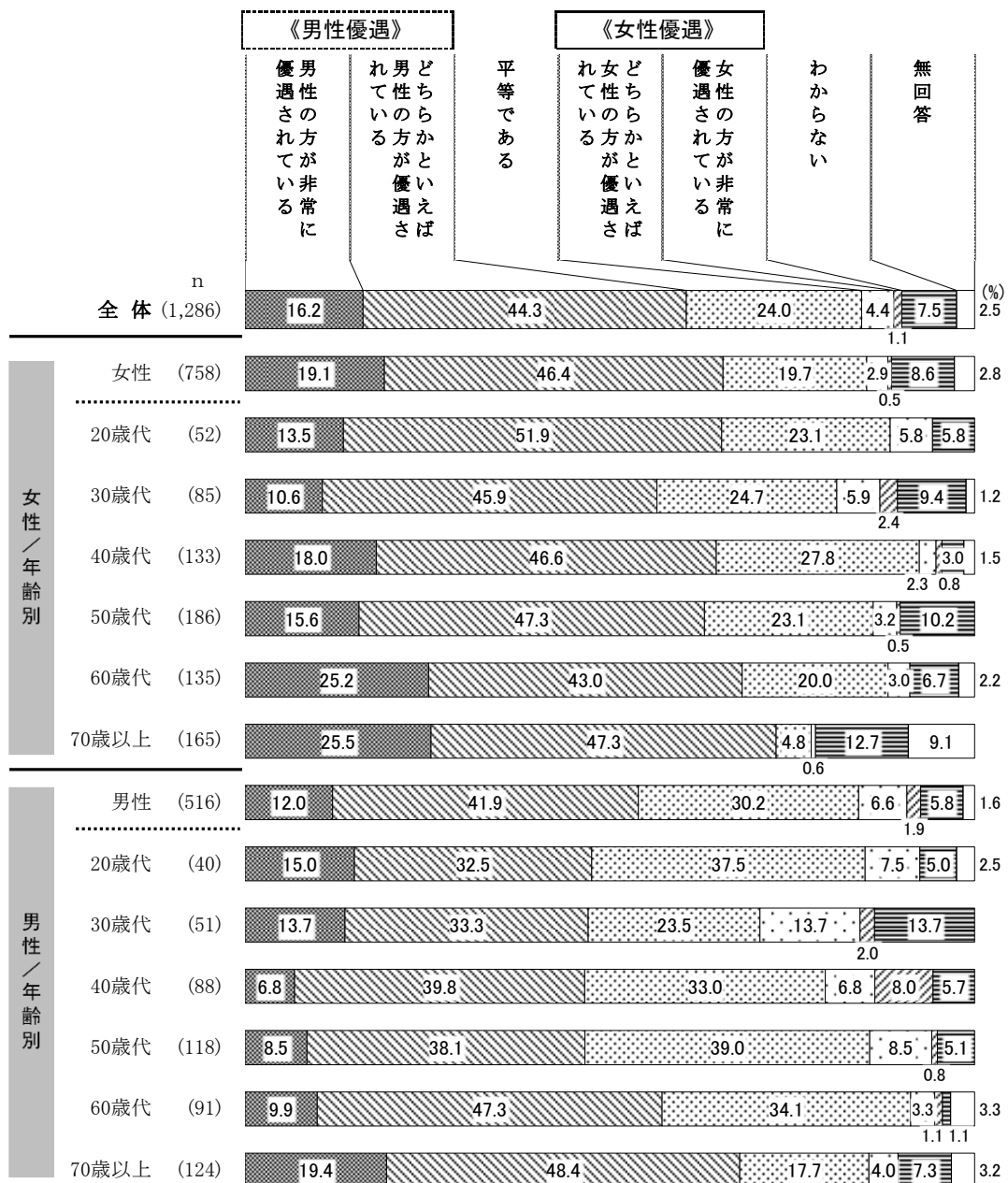
性年齢別にみると、女性は30歳代を除くすべての年代で《男性優遇》が過半数を占めており、すべての年代で男性を上回っている。また、男性の30歳代、40歳代で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた《女性優遇》が2割前後と男女を通じて他の年代より高くなっている。



(イ) 職場

職場における男女の平等感について、性別にみると、男女ともに《男性優遇》が過半数を占めているが、女性（65.5%）が男性（53.9%）より11.6ポイント高くなっている。

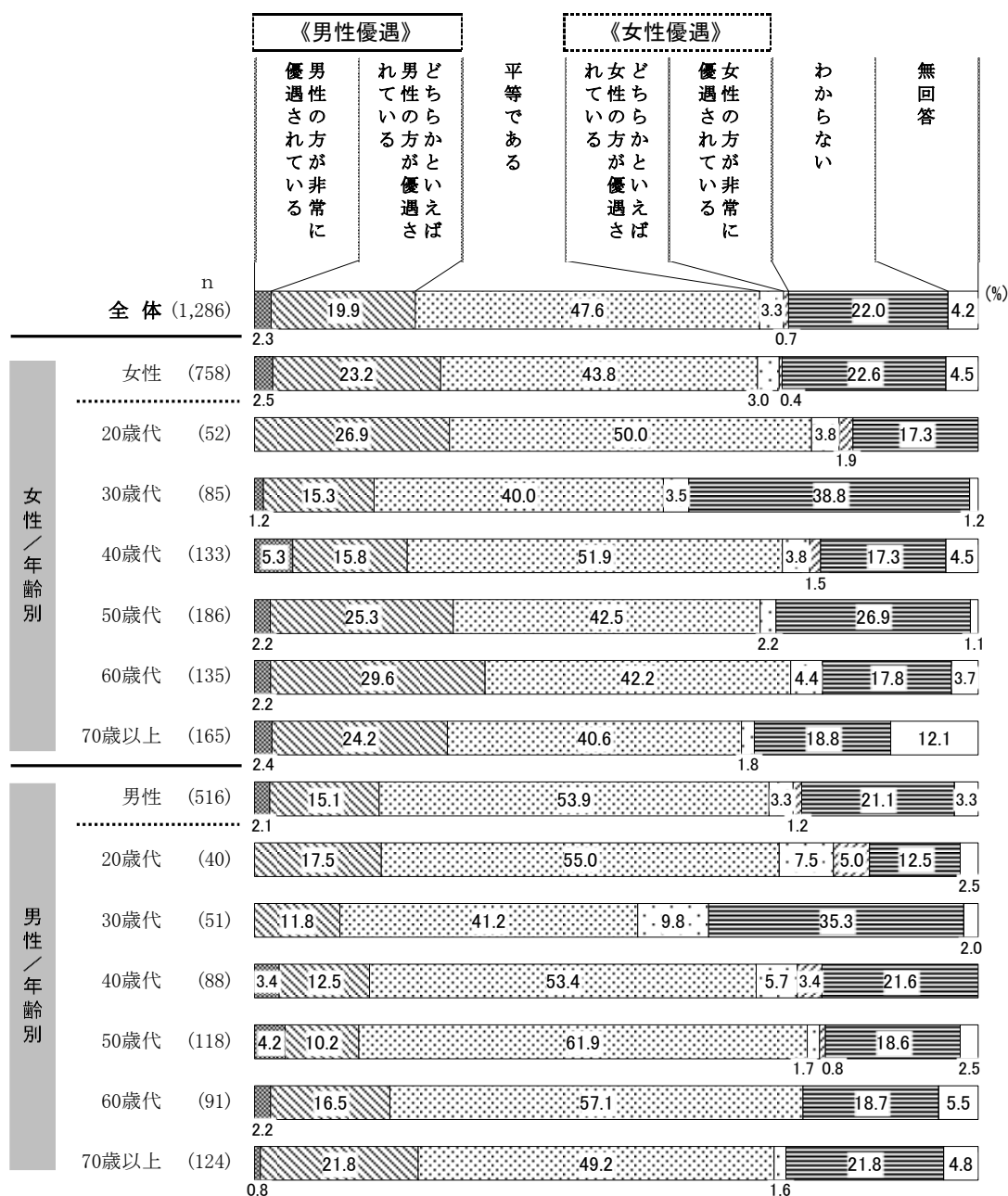
性年齢別にみると、《男性優遇》は女性のすべての年代で過半数を占めており、すべての年代で女性が男性を上回っている。一方、「平等である」は30歳代を除くすべての年代で男性が女性より高く、男性の20歳代、50歳代で約4割となっている。



(ウ) 学校教育の場

学校教育の場における男女の平等感について、性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっているが、男性（53.9%）が女性（43.8%）を10.1ポイント上回っている。

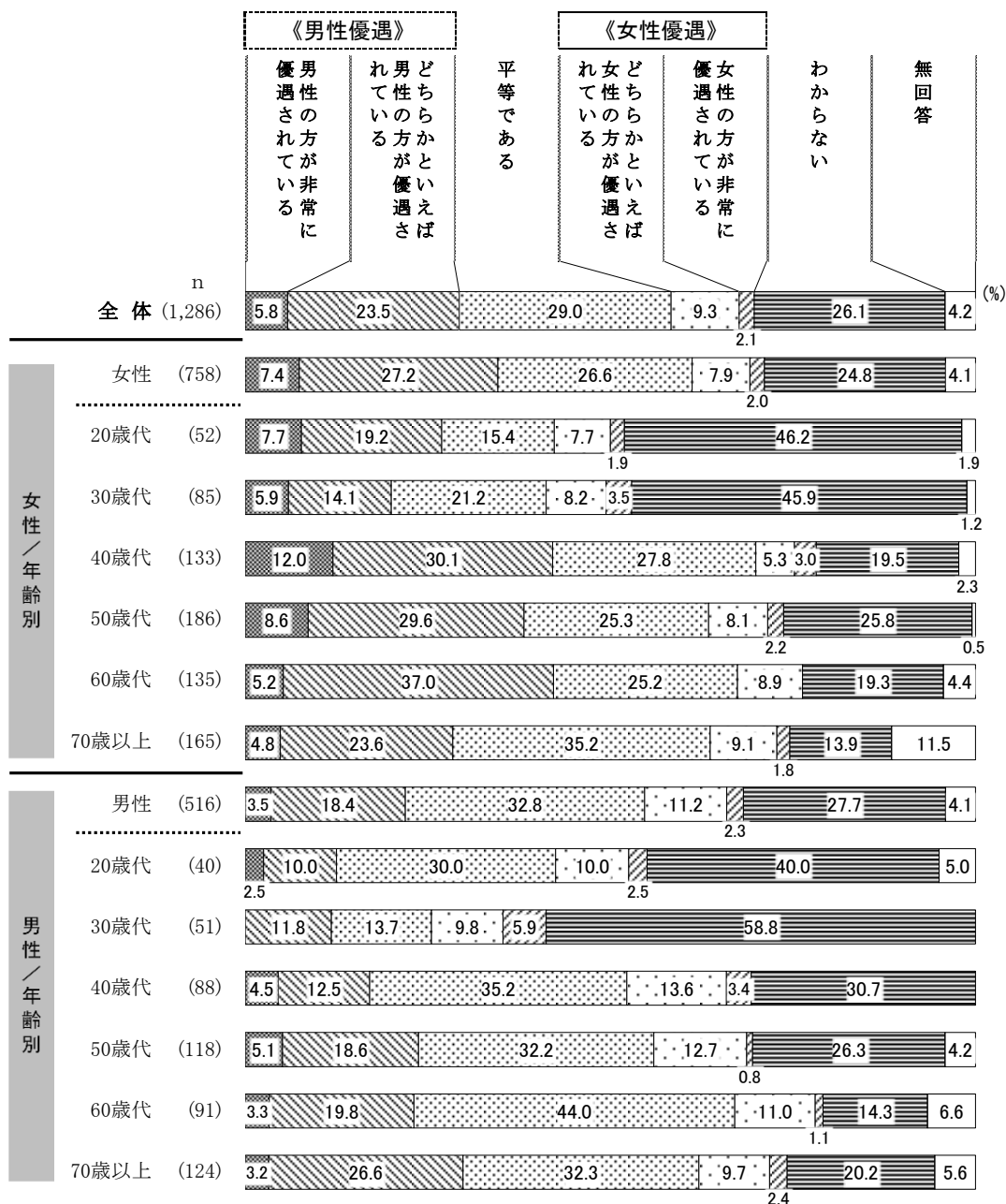
性年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「平等である」が最も高くなっているが、すべての年代で男性が女性を上回っており、特に50歳代で19.4ポイント、60歳代で14.9ポイント高くなっている。



(エ) 自治会やPTAなどの地域活動の場

自治会やPTAなどの地域活動の場における男女の平等感について、性別にみると、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(27.2%)、男性は「平等である」(32.8%)が最も高くなっている。《男性優遇》は、女性(34.6%)が男性(21.9%)より12.7ポイント高くなっている。

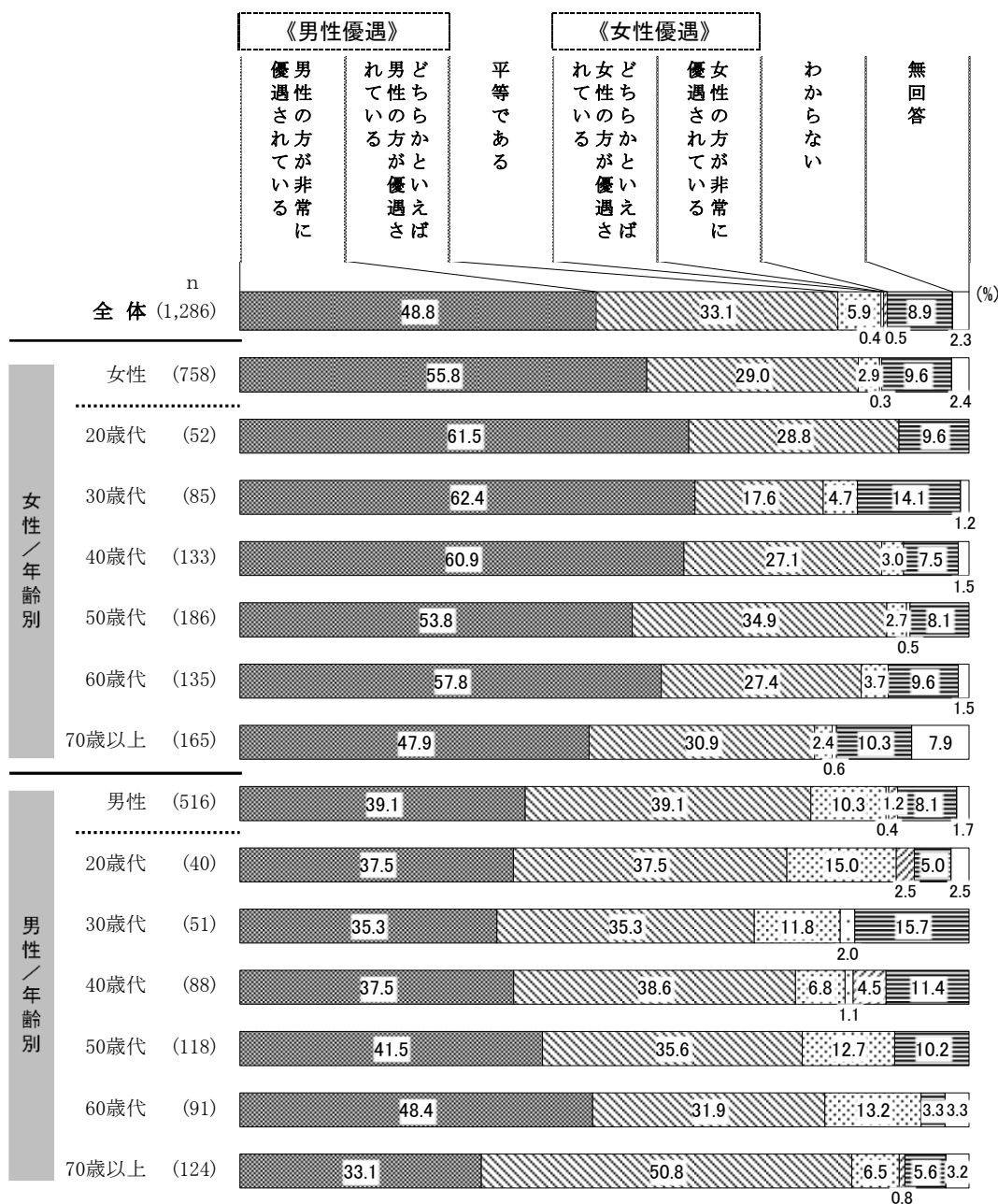
性年齢別にみると、女性の40歳代～60歳代で《男性優遇》が4割前後と男女を通じて他の年代より高くなっている。また、「平等である」は、60歳代で男性が女性より18.8ポイント、20歳代で14.6ポイント以上高くなっている。



(オ) 政治の場

政治の場における男女の平等感について、性別にみると、《男性優遇》が女性（84.8%）で8割以上、男性（78.2%）で約8割となっている。「平等である」は男性（10.3%）が女性（2.9%）より7.4ポイント高くなっている。

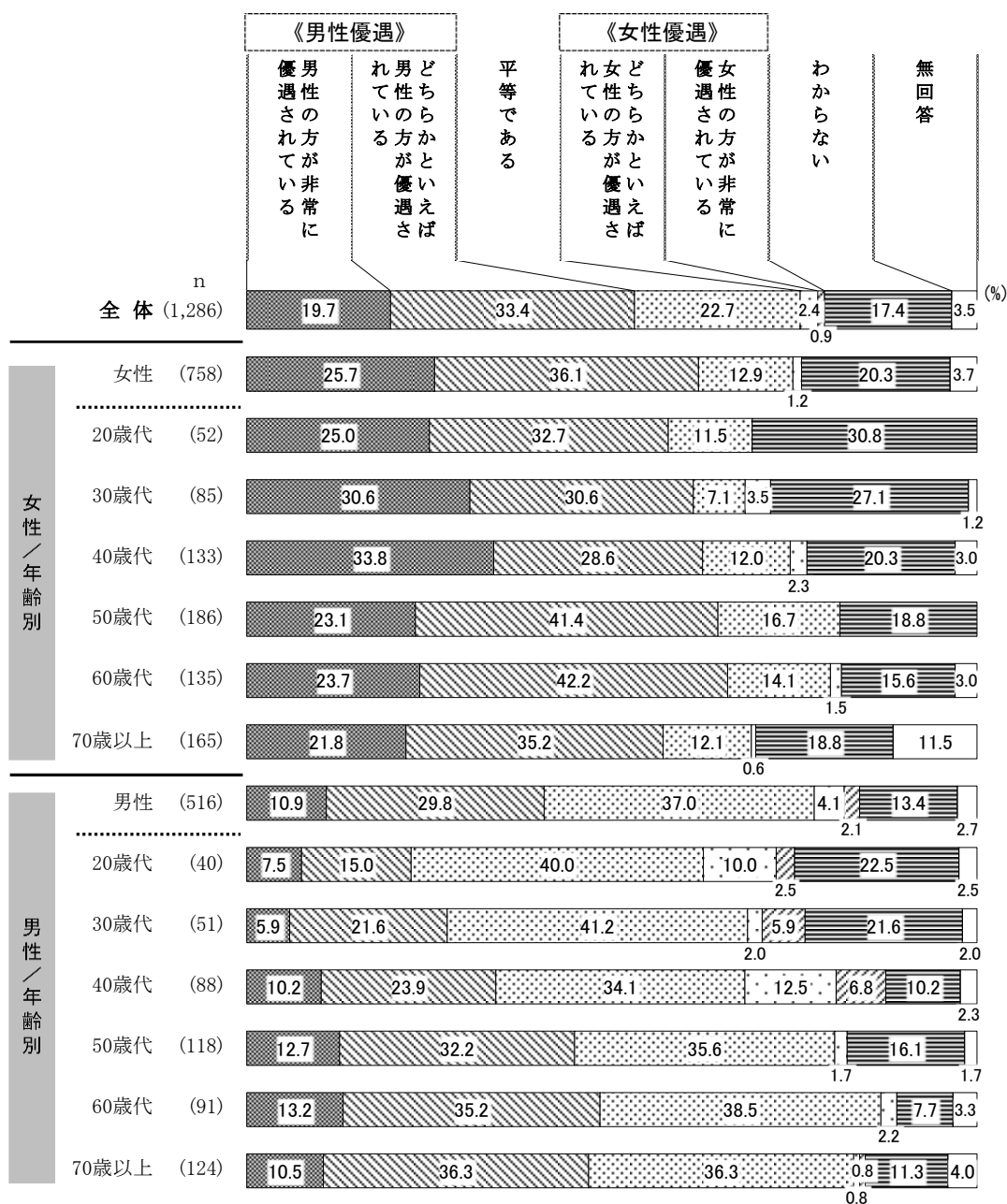
性年齢別にみると、男女ともにすべての年代で《男性優遇》が7割以上を占め、特に女性の20歳代で9割以上となっており、「平等である」という回答は見られなかった。また、女性の20歳代～40歳代で「男性の方が非常に優遇されている」が6割以上と男女を通じて他の年代より高くなっている。



(カ) 法律や制度の上

法律や制度の上における男女の平等感について、性別にみると、《男性優遇》が女性（61.8%）で6割以上、男性（40.7%）で4割以上となっている。「平等である」は男性（37.0%）が女性（12.9%）より24.1ポイント高くなっている。

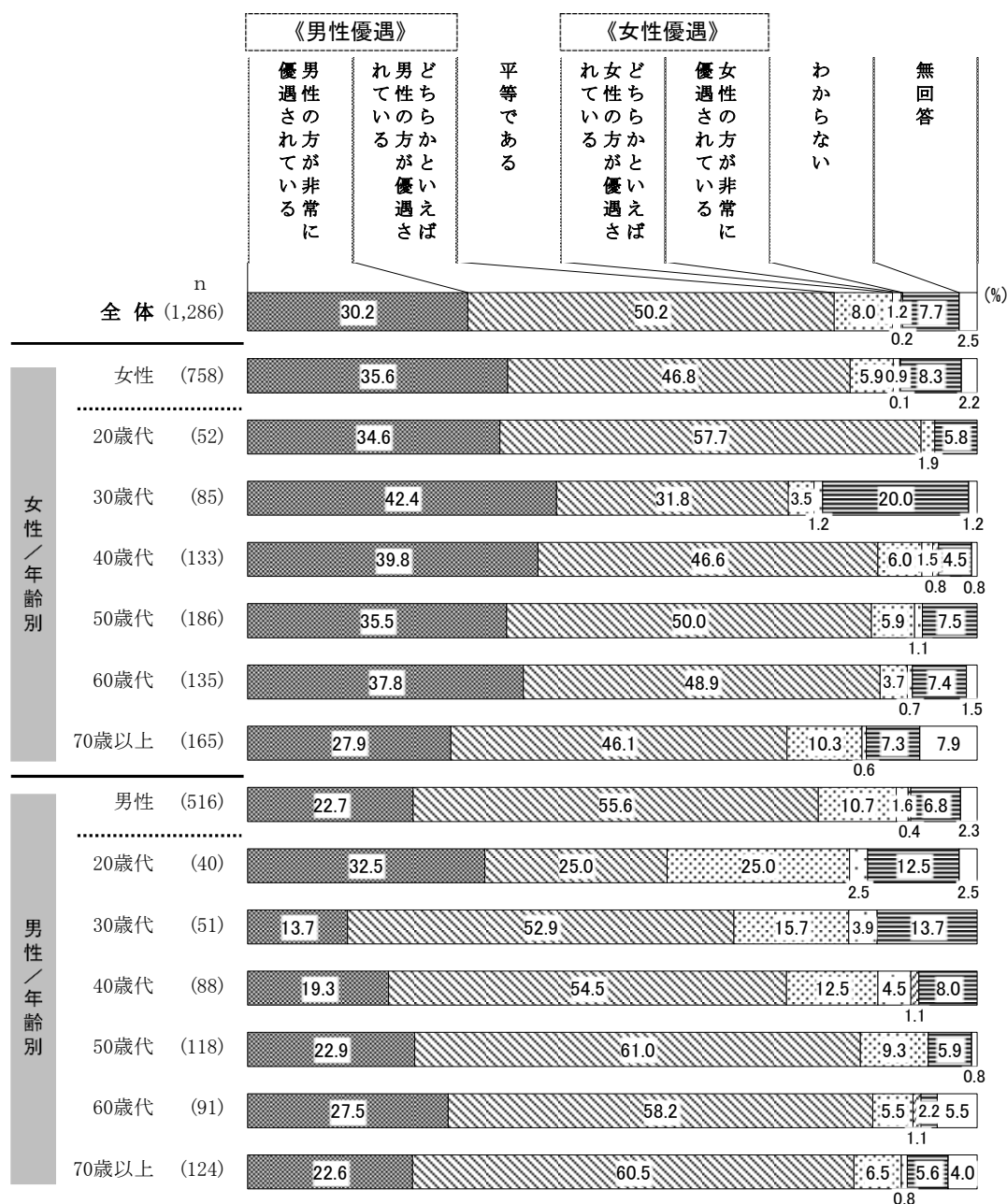
性年齢別にみると、「平等である」はすべての年代で男性が女性を上回っており、男性の20歳代、30歳代で「平等である」が4割以上と最も高くなっている一方で、40歳代で《男性優遇》と「平等である」が同値（34.1%）となっている。女性の40歳代で「男性の方が非常に優遇されている」（33.8%）が最も高くなっており、30歳代では「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が同値（30.6%）となっている。



(キ) 社会通念・習慣・しきたりなど

社会通念・習慣・しきたりなどにおける男女の平等感について、性別にみると、《男性優遇》は男女ともに8割前後となっている。

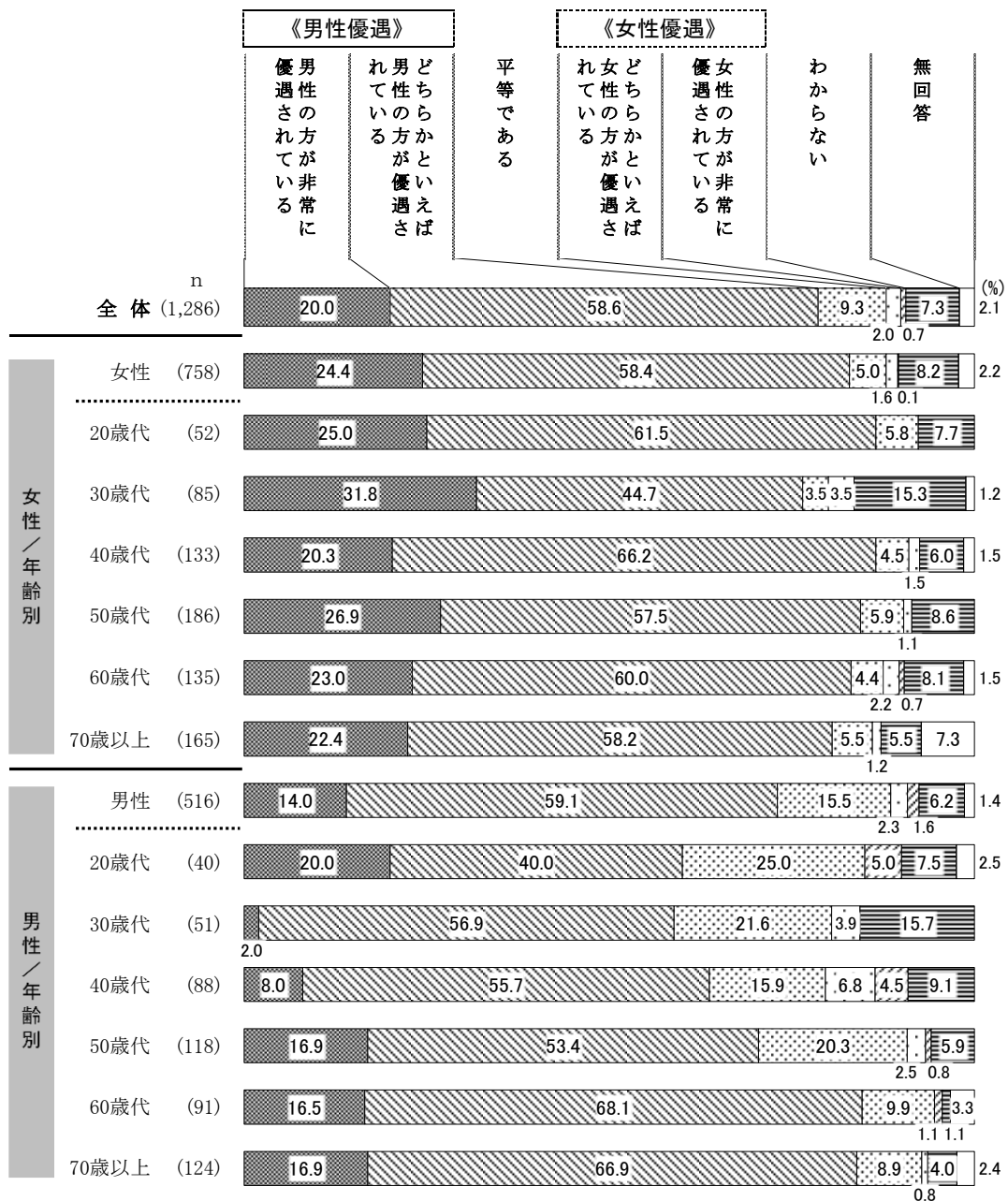
性年齢別にみると、男女ともにすべての年代で《男性優遇》が過半数を占めているが、男性の20歳代、30歳代で7割を下回っており、他の年代より低くなっている。「平等である」は70歳以上を除くすべての年代で男性が女性を上回っており、特に20歳代で20ポイント以上、30歳代で10ポイント以上高くなっている。



(ク) 社会全体として

社会全体における男女の平等感について、性別にみると、《男性優遇》が女性で8割以上、男性で7割以上と高くなっている。「平等である」は、男性（15.5%）が女性（5.0%）より10.5ポイント高くなっている。

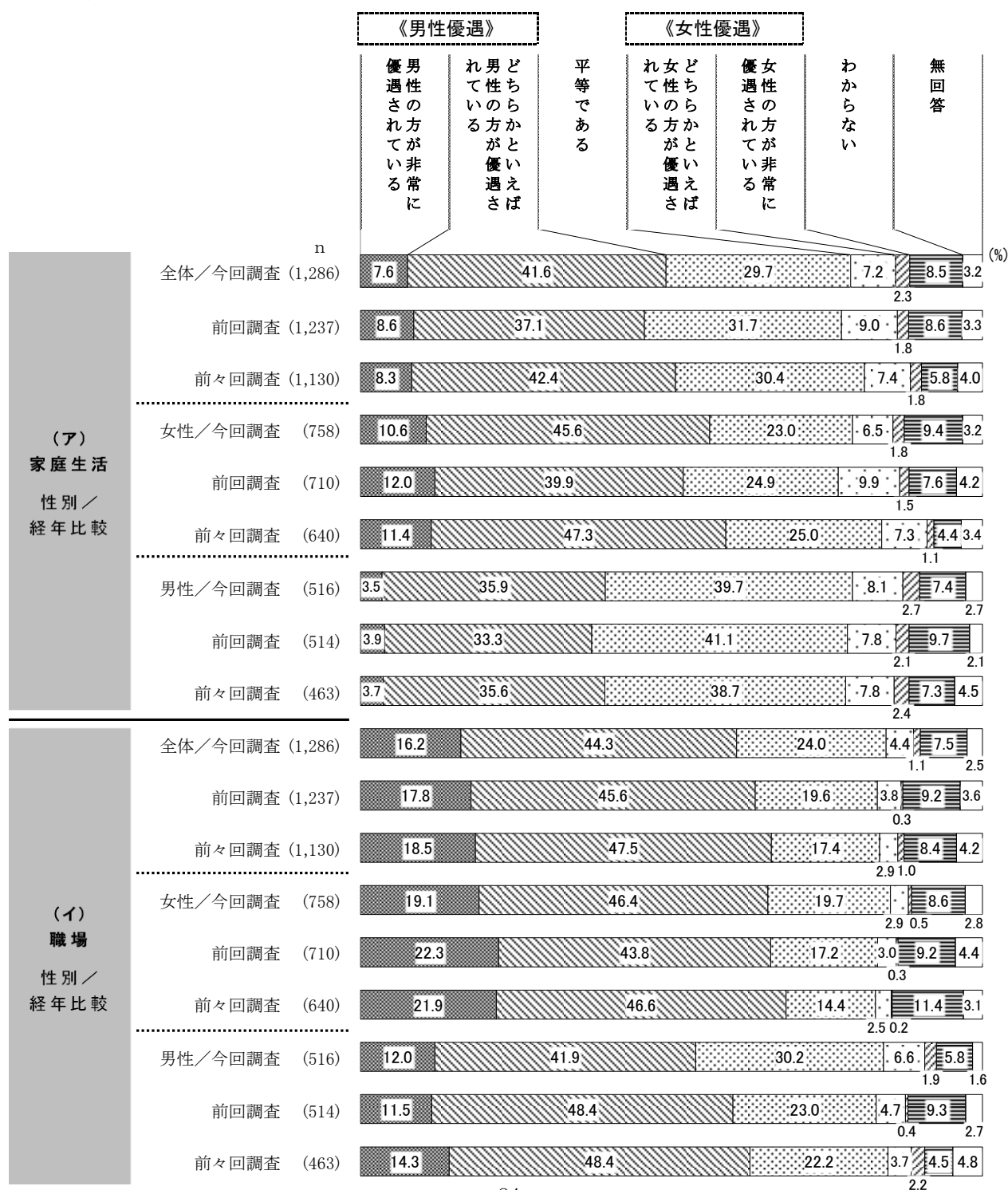
性年齢別にみると、「平等である」はすべての年代で男性が女性を上回っており、特に20歳代、30歳代で約20ポイント高くなっている。《男性優遇》は男性で年代が上がるほど高くなっている。

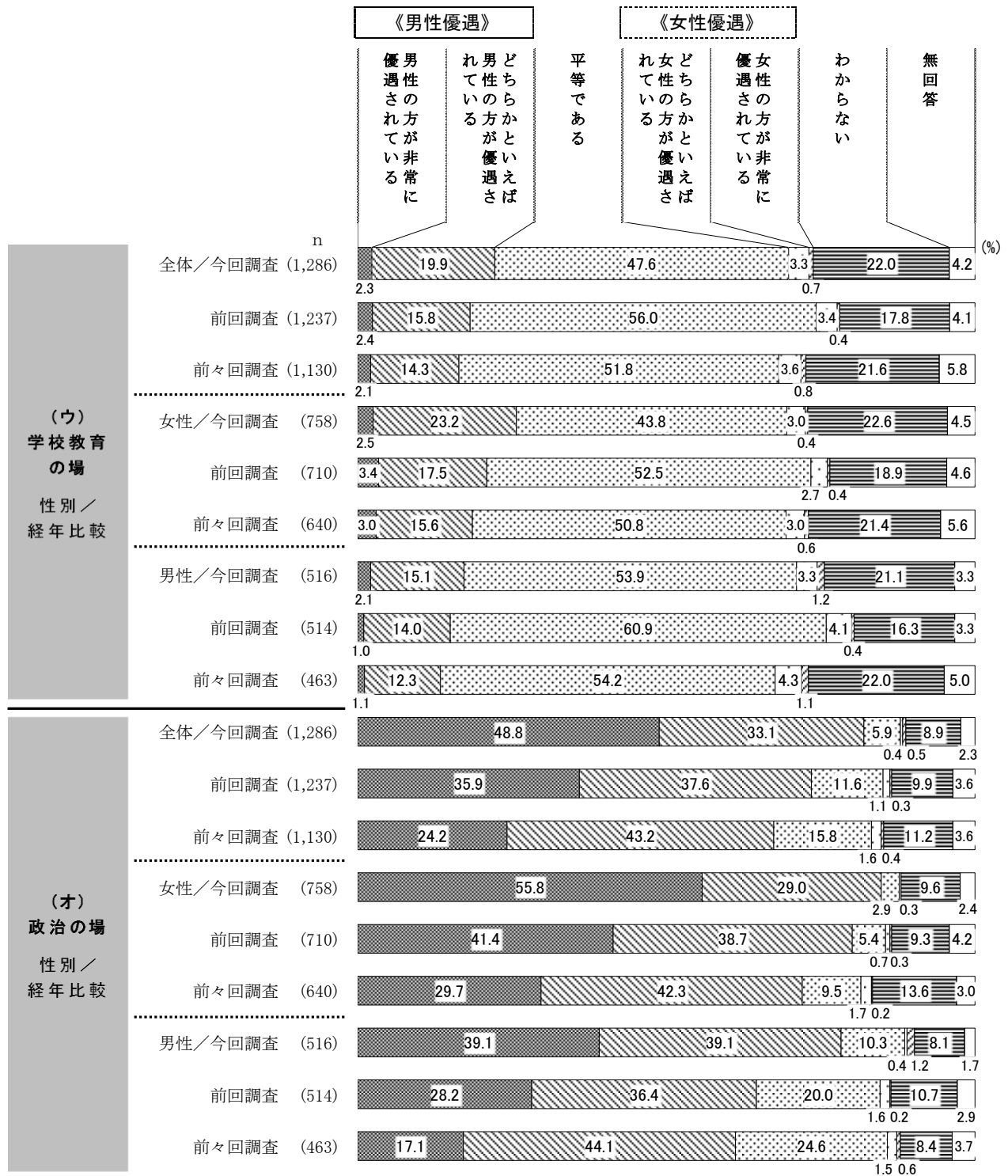


■経年比較

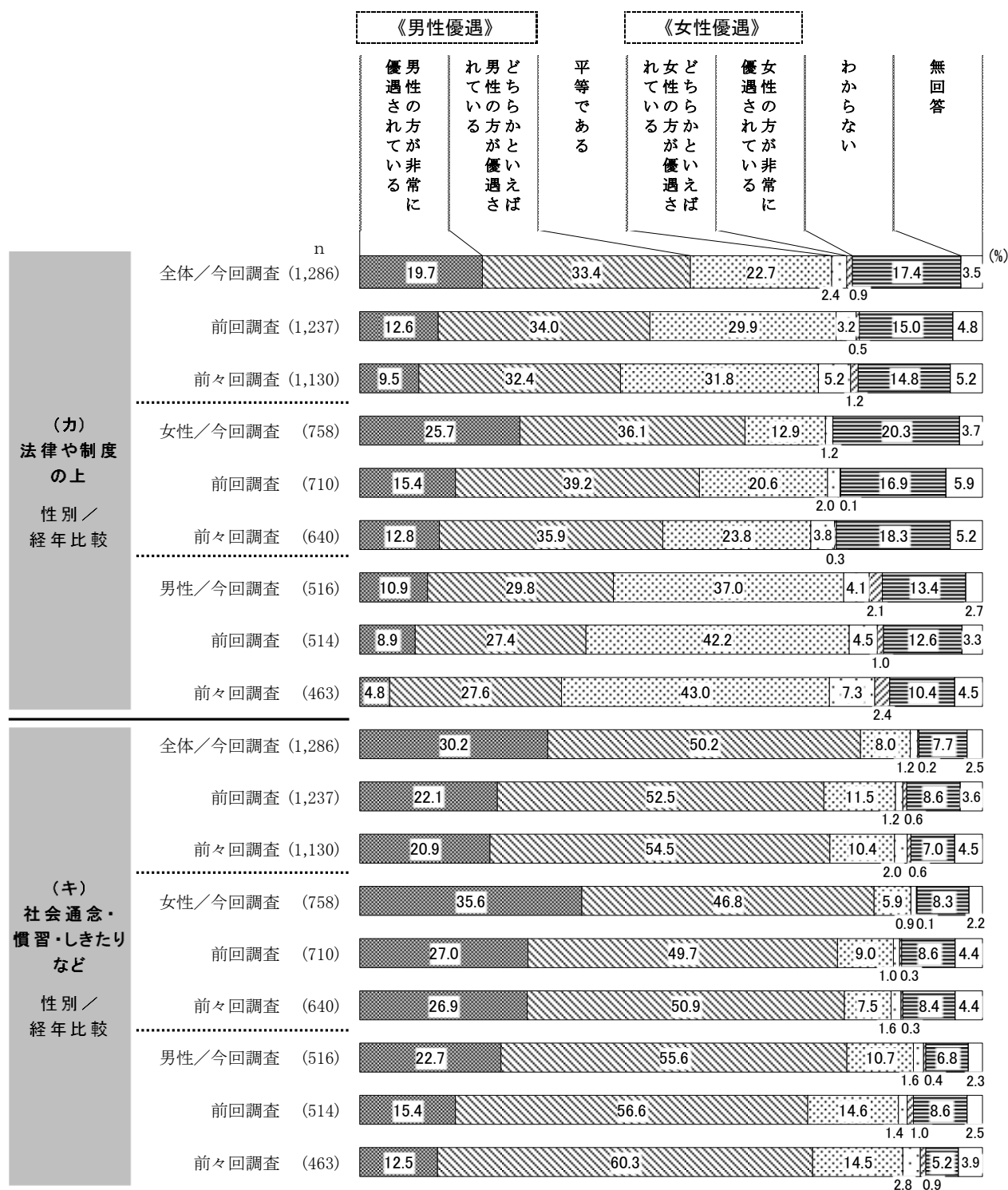
経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて《男性優遇》が「(ア) 家庭生活」、「(イ) 職場」を除く項目で増加しており、前回調査と比較すると、「(オ) 政治の場」で8.4ポイント、「(カ) 法律や制度の上」で6.5ポイント、「(ク) 社会全体として」で6.2ポイント高くなっている。また、前回調査から「平等である」は「(イ) 職場」を除くすべての項目で減少している。

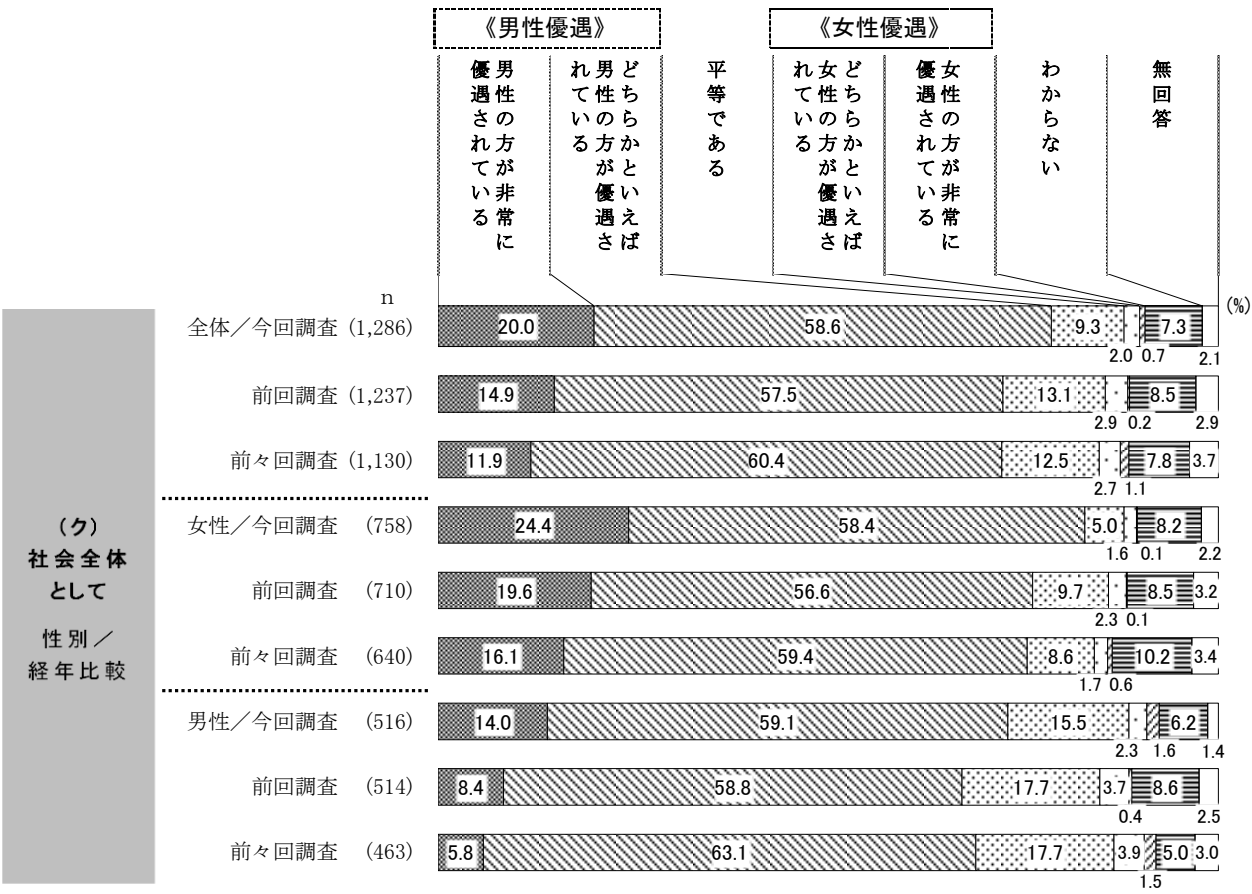
性別にみると、前々回調査から今回調査にかけて男女ともに「(オ) 政治の場」で「男性の方が非常に優遇されている」が増加しており、前回調査から10ポイント以上増加している。女性では「(カ) 法律や制度の上」で「男性の方が非常に優遇されている」が10ポイント以上増加しているが、男性では大きな変化は見られない。また、男性では「(イ) 職場」で「平等である」が7.2ポイント増加している。





第2章 調査結果の詳細



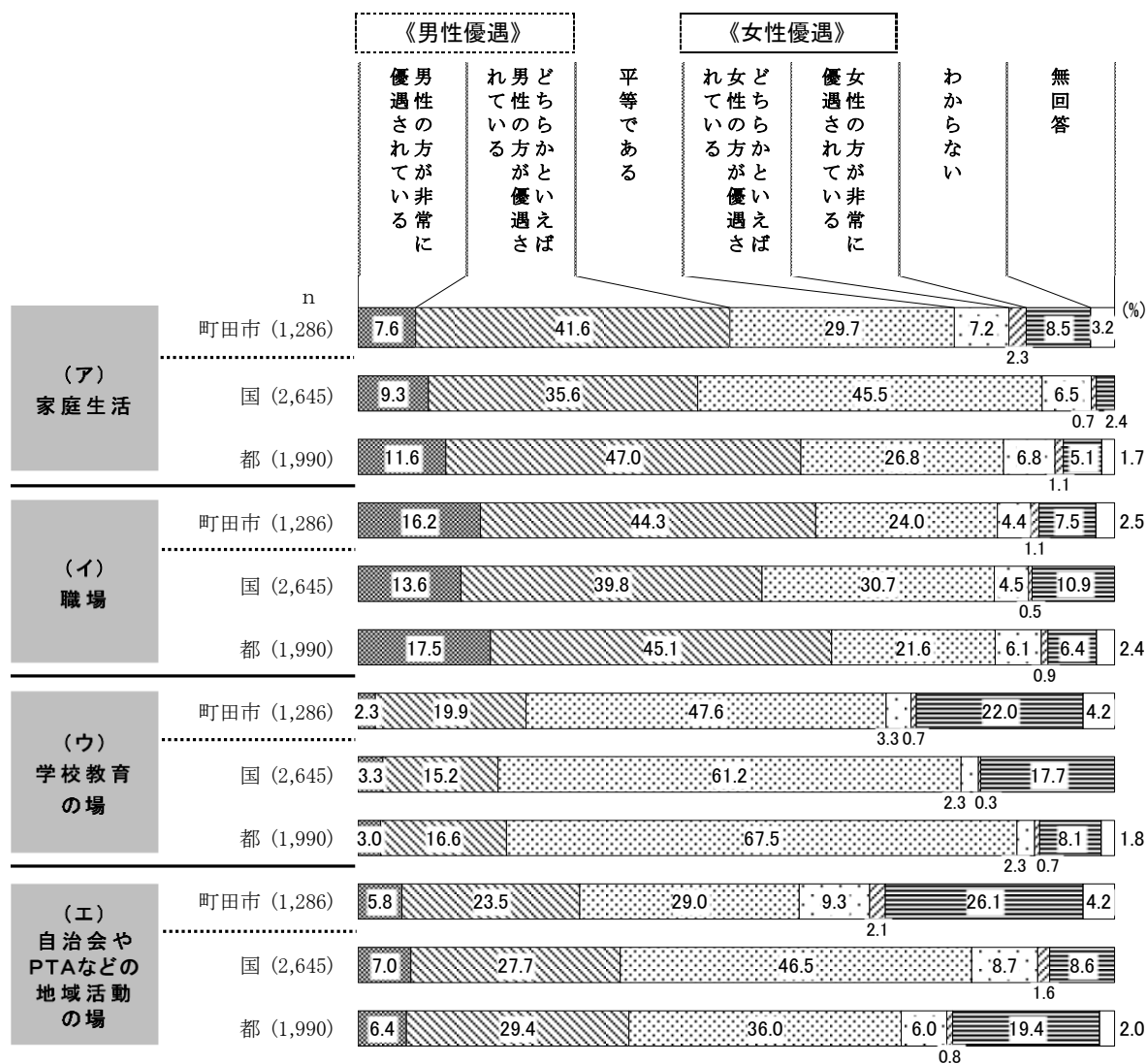


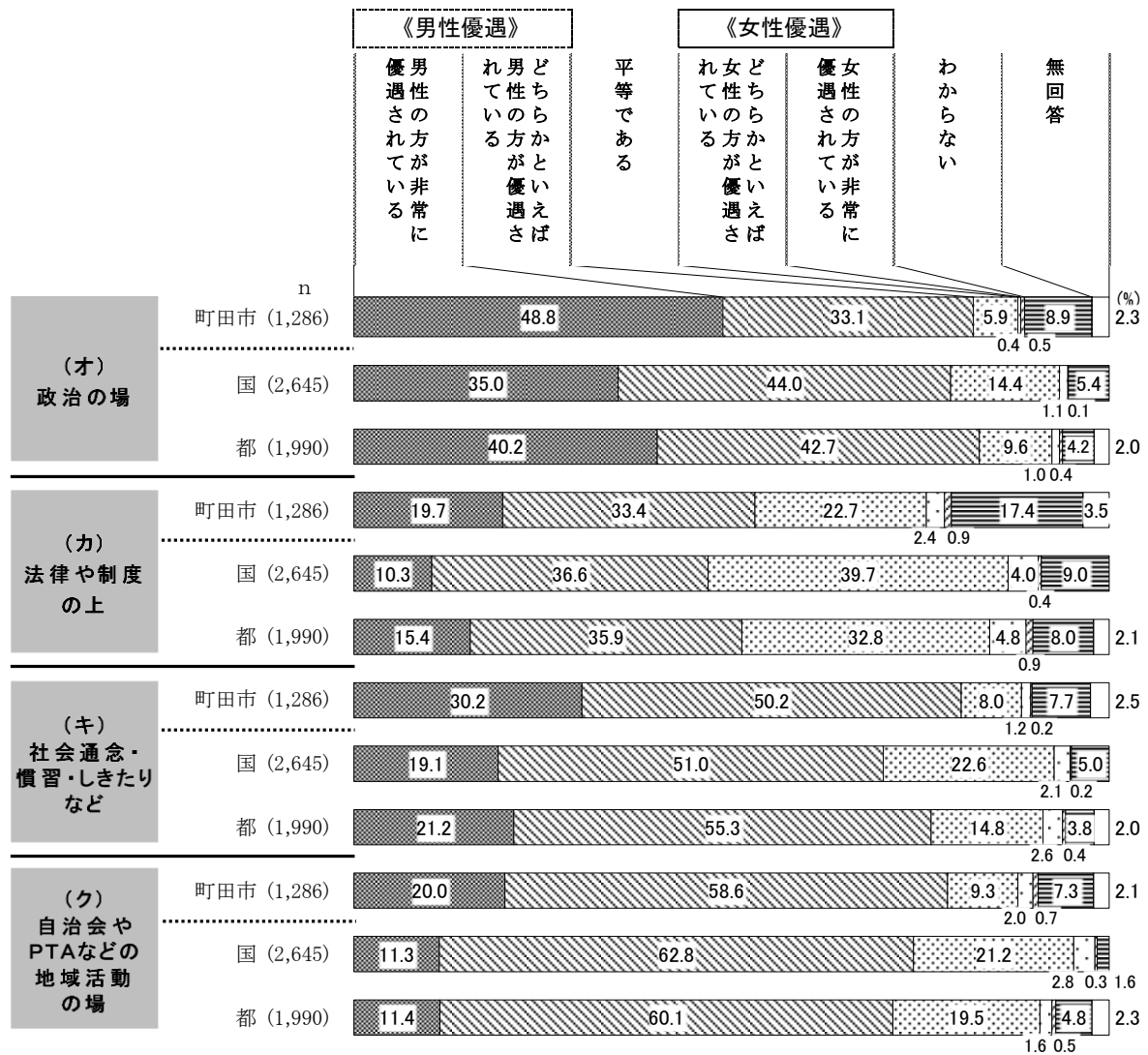
※「(エ) 自治会やPTAなどの地域活動の場」は前回調査の項目に含まれていないため、比較していない。

■国・都調査

国の調査と比較すると、すべての項目で「平等である」は市が国を下回っており、「(ア) 家庭生活」、「(ウ) 学校教育の場」、「(エ) 自治会やPTAなどの地域活動の場」、「(カ) 法律や制度の上」、「(キ) 社会通念・慣習・しきたりなど」、「(ク) 社会全体として」で10ポイント以上低くなっている。

都の調査と比較すると、「(ア) 家庭生活」、「(イ) 職場」を除くすべての項目で「平等である」は市が都を下回っており、「(ウ) 学校教育の場」、「(カ) 法律や制度の上」、「(ク) 社会全体として」で10ポイント以上低くなっている。



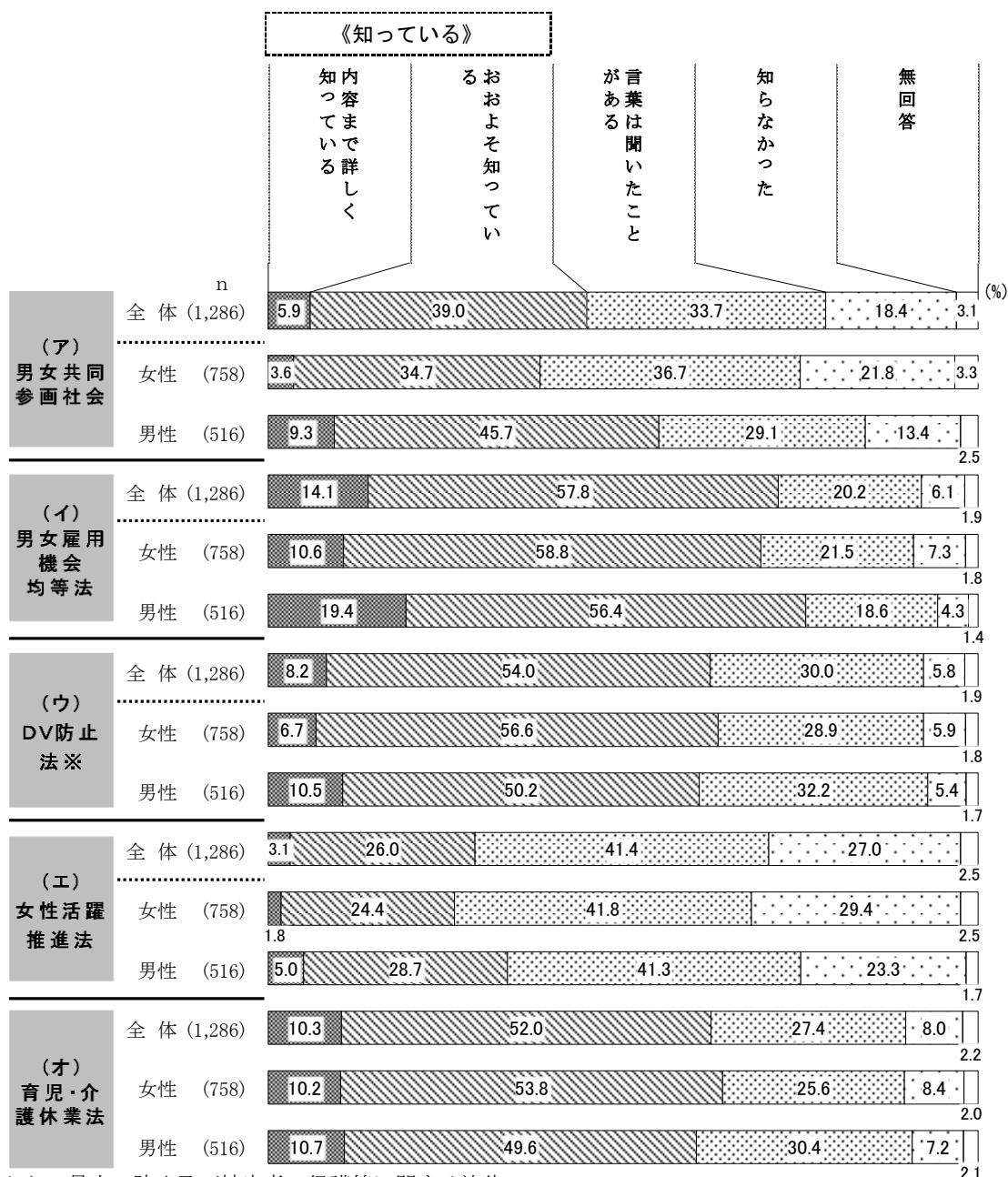


(2) 男女平等に関する法律や用語の認知度

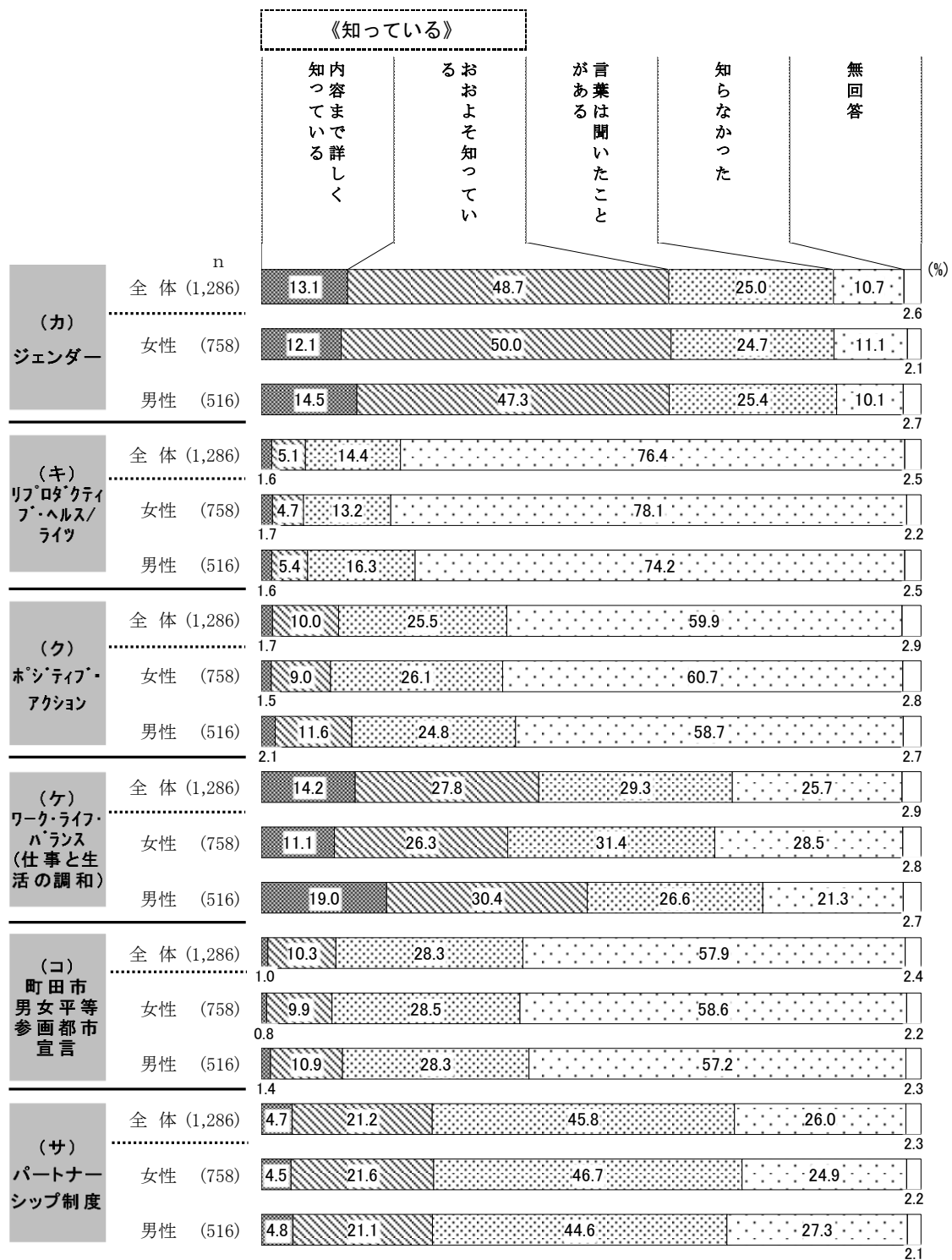
問30 あなたは、次の（ア）～（サ）の法律や言葉を知っていますか。あてはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。（〇はそれぞれ1つずつ）

男女平等に関する法律や用語の認知度についてみると、「内容まで詳しく知っている」と「おおよそ知っている」を合わせた《知っている》が、「(イ) 男女雇用機会均等法」(71.9%)で7割以上、「(オ) 育児・介護休業法」(62.3%)、「(ウ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」(62.2%)、「(カ) ジェンダー」(61.8%)で6割以上と高くなっている。一方で、「知らなかった」が、「(キ) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(76.4%)で約8割、「(ク) ポジティブ・アクション」(59.9%)、「(コ) 町田市男女平等参画都市宣言」(57.9%)で約6割と高くなっている。

性別にみると、《知っている》が「(ア) 男女共同参画社会」、「(ケ) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」で男性が女性より10ポイント以上高くなっている。

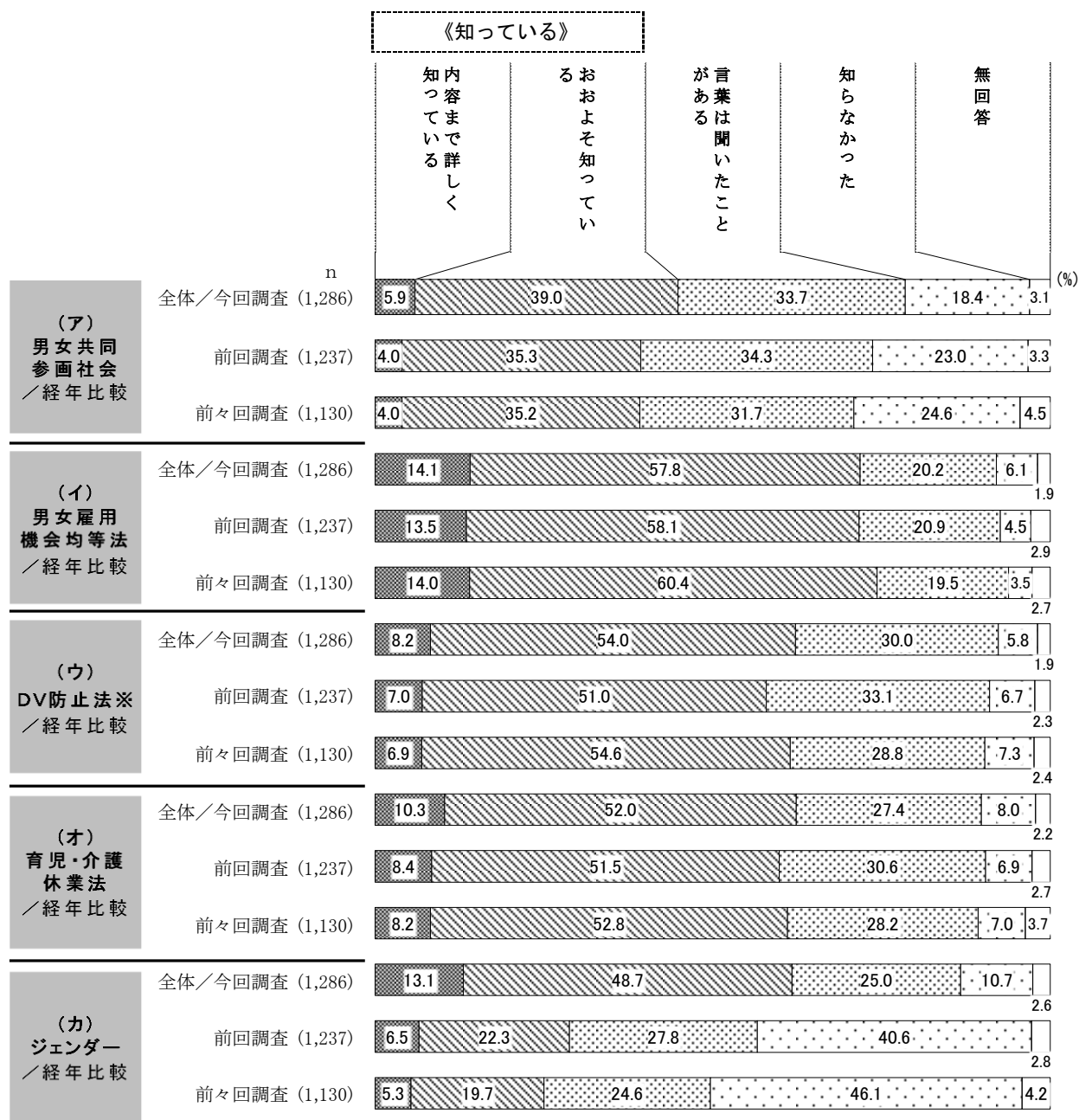


※配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律



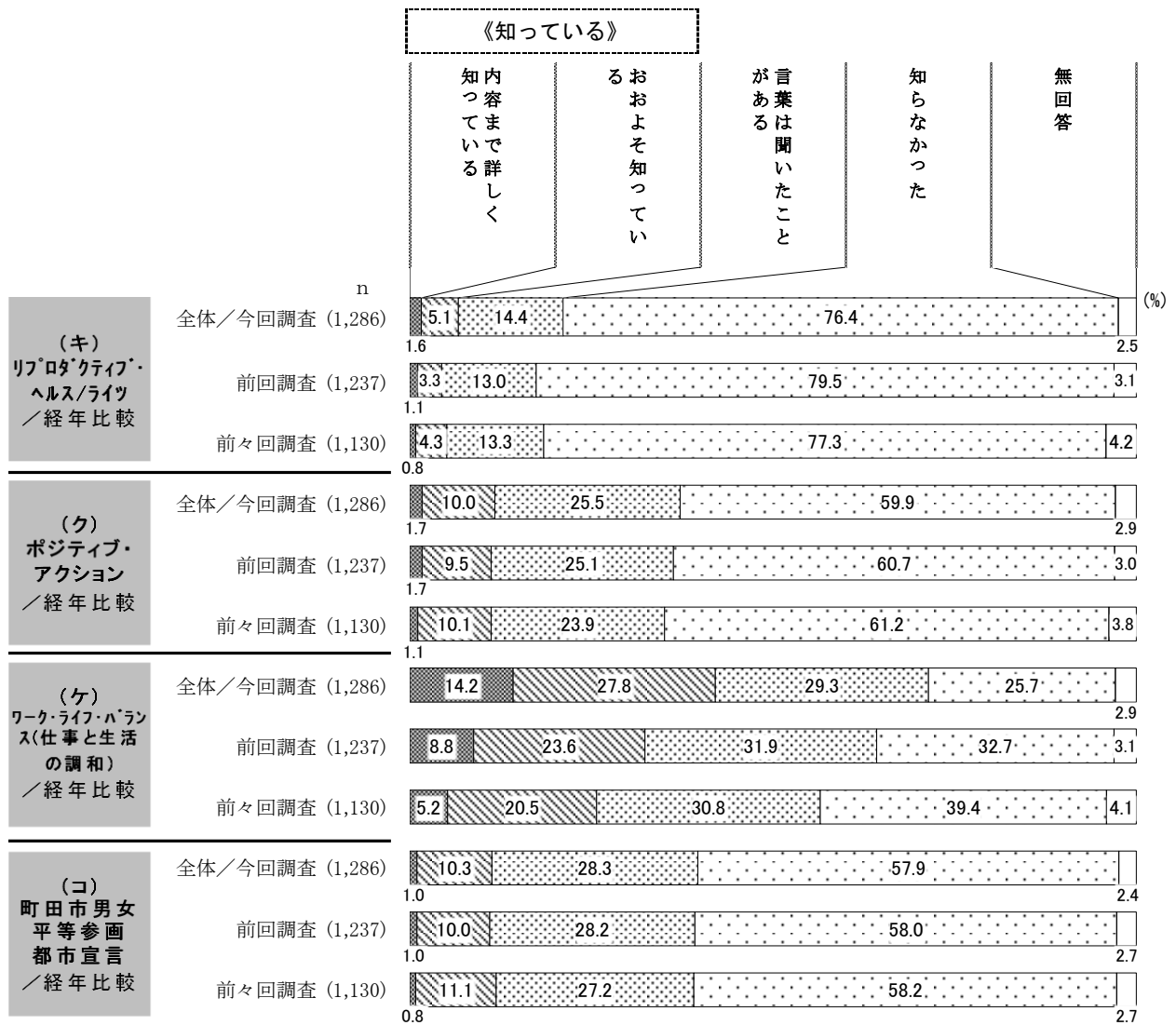
■経年比較

経年比較をみると、前回調査から「(カ) ジェンダー」で「おおよそ知っている」が26.4ポイント、「内容まで詳しく知っている」が6.6ポイント増加しており、《知っている》は前々回調査の2倍以上となっている。また、「(ケ) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」で《知っている》が9.6ポイント増加している。



※配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律

※「(エ) 女性活躍推進法」、「(サ) パートナースhip制度」は前回調査の項目に含まれていないため、比較していない。

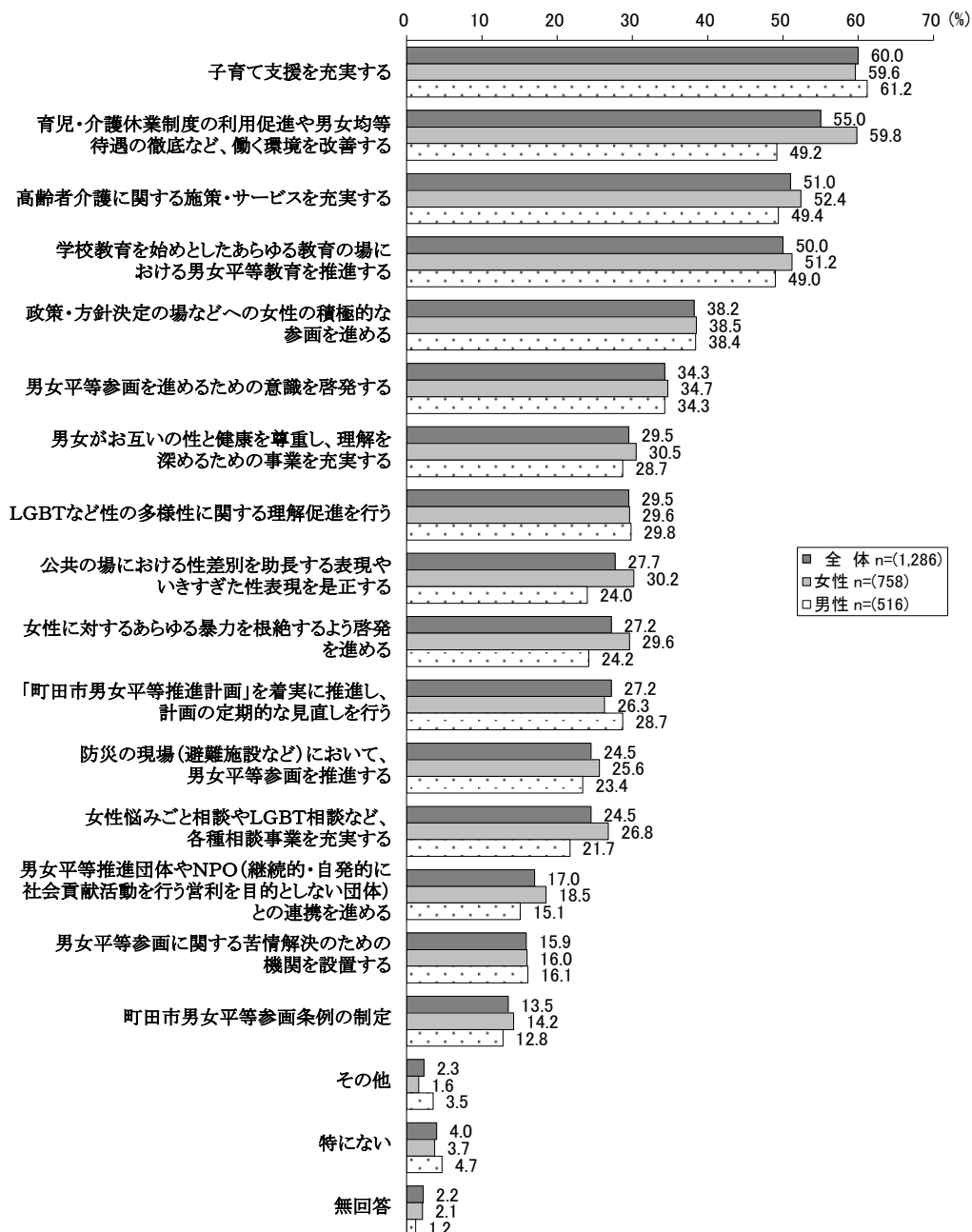


(3) 男女平等参画に向けて町田市が力を入れるべきこと

問31 あなたは、男女平等参画社会を実現していくために、今後、町田市はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

男女平等参画に向けて町田市が力を入れるべきことについてみると、「子育て支援を充実する」が60.0%で最も高く、次いで、「育児・介護休業制度の利用促進や男女均等待遇の徹底など、働く環境を改善する」(55.0%)、「高齢者介護に関する施策・サービスを充実する」(51.0%)、「学校教育を始めとしたあらゆる教育の場における男女平等教育を推進する」(50.0%)となっている。

性別にみると、「育児・介護休業制度の利用促進や男女均等待遇の徹底など、働く環境を改善する」は女性(59.8%)が男性(49.2%)より10.6ポイント、「公共の場における性差別を助長する表現やいきすぎた性表現を是正する」は女性(30.2%)が男性(24.0%)より6.2ポイント高くなっている。

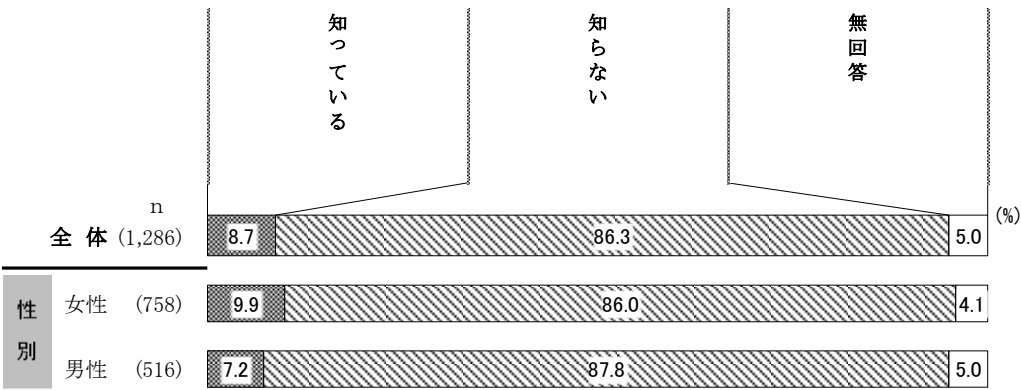


(4) 町田市男女平等推進センターの認知度

問32 あなたは、町田市男女平等推進センターを知っていますか。(○は1つ)

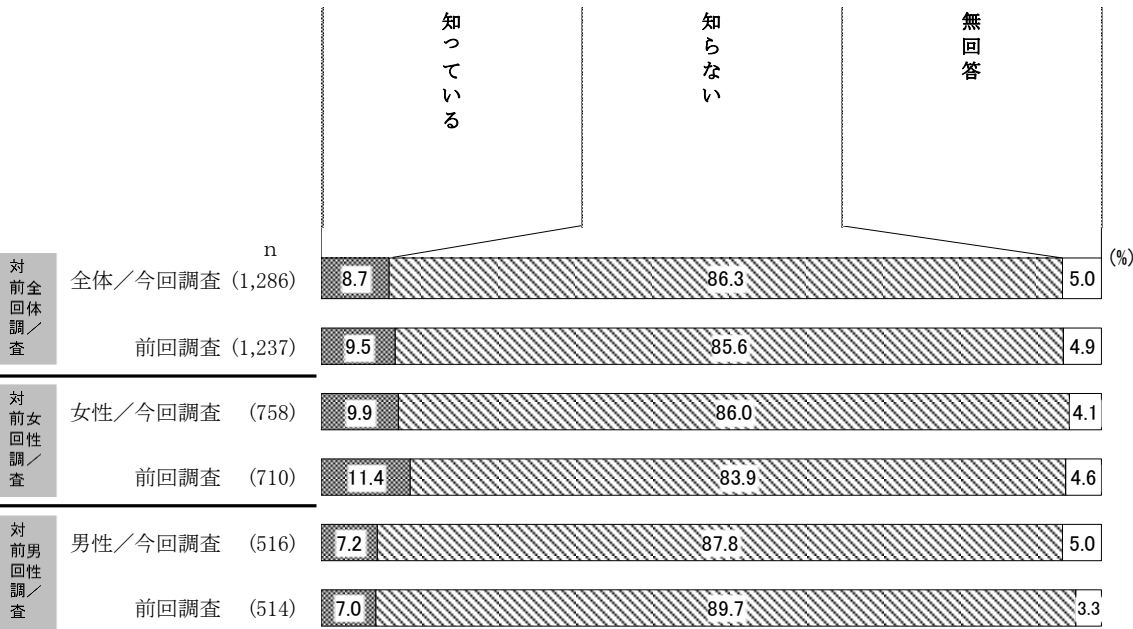
町田市男女平等推進センターの認知度についてみると、「知らない」が86.3%、「知っている」が8.7%となっている。

性別にみると、男女間に大きな違いはみられない。



■経年比較

前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。

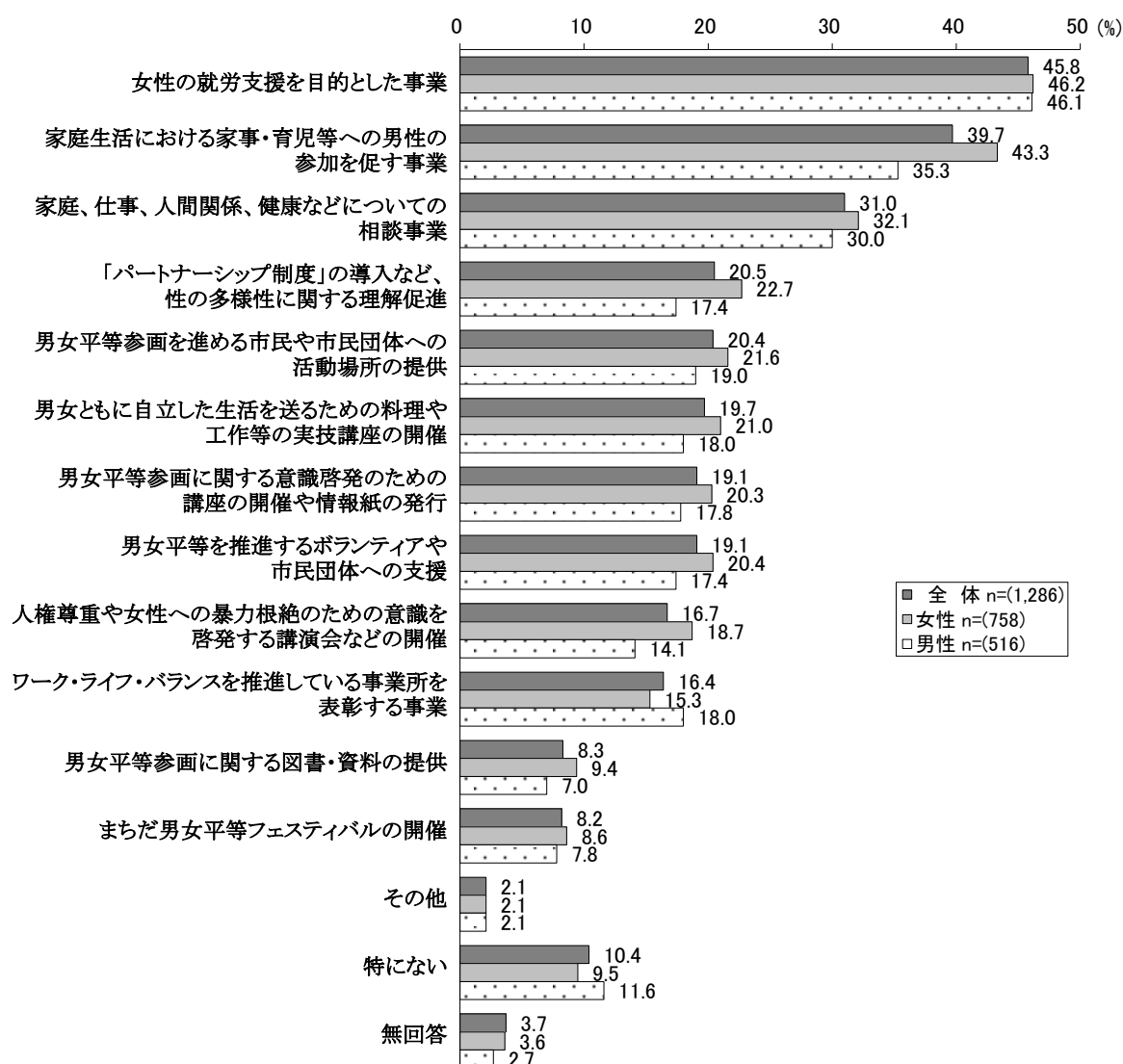


(5) 町田市男女平等推進センターで今後重点的に力を入れるべき事業

問33 町田市では、『男女平等推進センター（※）』を中心に以下のような事業展開をしています。この中で、今後特に重点的に行うべきだと思われる事業はどれでしょうか。（〇はいくつでも）

町田市男女平等推進センターで今後重点的に力を入れるべき事業についてみると、「女性の就労支援を目的とした事業」が45.8%で最も高く、次いで、「家庭生活における家事・育児等への男性の参加を促す事業」（39.7%）、「家庭、仕事、人間関係、健康などについての相談事業」（31.0%）、「『パートナーシップ制度』の導入など、性の多様性に関する理解促進」（20.5%）となっている。

性別にみると、「家庭生活における家事・育児等への男性の参加を促す事業」は女性（43.3%）が男性（35.3%）より8.0ポイント高くなっている。



※『男女平等推進センター』では、「町田市男女平等推進計画」をもとに、男女が平等で、一人ひとりが個性と能力を発揮できるよう、各種講座の開催、情報の提供、市民の活動の場の提供及び相談事業を実施しています。

自由記述

最後に、町田市の男女平等についてのご意見やご要望を自由にお書きください。

自由記述欄には271人から311件の貴重な意見・要望が寄せられた。それらを分野別にまとめ、主な意見を抜粋し、性・年代別に掲載したものが下表である。また、分野をまたがった意見・要望は、別々にカウントしているため、総件数（311件）は延べ件数となり、回答者数（271人）とは一致しない。

市の施策・事業・活動について（79件）	性別	年代
町田市は「男女平等参画」を掲げている点がとても素晴らしいと思います。この社会を前にすすめる活動をどうかこれからも続けていってください。	女性	20歳代
“町田市男女平等参画都市宣言”をしていることをアピールすることで、役所にも意識の高い方の意見が集まりやすくなると思います。	女性	20歳代
私には現在未就学児の子供がおります。男女平等はとても大切な事です。出産後、私は子供と一緒にいたかったのですが、お金の問題や、周りのママ友の関係等でしぶしぶ仕事を始めました。ほとんどのママさんが、保育園に入れて仕事をしています。仕事をしていない事にひけめを感じました。「男女平等だから出産育児も男女協力してやる、仕事も女性はやるべき」という流れにならないで欲しい。仕事をしないで子供のそばにいたいという女性もいる事を周りも理解してほしい。	女性	30歳代
町田市がこのような活動をしていることを多くの市民や市内企業に広めてほしい。私自身市内の企業に勤めており、不満・不安に感じることが多くありますので。	女性	30歳代
男女平等推進センターを初めて知りました。仕事で町田と行き来している様な生活なので、先進的な活動や、試験的な事業はどんどん広報してほしい。	女性	30歳代
何事も、一人で抱えこまず複数人で、互いに苦手を補い合いながら取り組むことが、様々な問題解決の糸口だと本気で思っています。まずは、町田市役所の皆様が、そのような職場環境を作り上げて下さい。	女性	40歳代
“男女平等参画社会”…カタいですよね。申し訳ないですが、何か別の優しい言葉はないのですかね。男女平等を強く訴えてしまうと、圧倒されて中身が入ってこない自分もいます。	女性	40歳代
町田は住みやすいと思いますが、まだまだ男女平等である意識はあまり感じられない。受け身な施策ではなく、もっと1人ひとりを把握できる体制が整えば良いと思う。	女性	50歳代
どんな活動をされているのか、あまり広報でもみることがなく（これは個人的に見ていないのかもしれませんが）ありません。気軽に考えていけるようなイベントや啓発などして下さいと嬉しいです。	女性	50歳代
時代が動き、常識が変わっていくのには、時間がかかると思う。まず、大きな支柱を建てて、変化が見えるようにしてから、細い事柄を整えていく方法しかないのでは…。いつの時代でも、同じだと思う。	女性	60歳代
町田市が男女平等参画都市宣言をし、そのために講座（上野千鶴子さんのお話はよかったです！）を開催している事、またこのようなアンケートも実施していることを誇りに思っております。	女性	70歳以上
町田市の男女平等問題や介護、子育て支援等、どこよりも早く住みやすい町にして頂く事を願い、モデルケースとなる様な市を望みます。	女性	70歳以上
他の市区町村がやっていないからやらないのではなく、町田市から新たな社会を作るようになってほしいです。	男性	20歳代

▼市の施策・事業・活動について（つづき）

市の行う政策や活動は退職者などの高齢者にしか情報が届かず、本当に必要な世代に届いていない気がします。SNSの利用方法や、情報の拡散のことについても考えたうえで政策も考えなければ意味がないと思います。10代～20代ぐらいの若い世代の人が男女平等の意識をもって生活を送れるような事業をしてほしいです。	男性	30歳代
町田市が男女平等における取り組みを行っていることは全く知りませんでした。もっと市民にアピールした方が良いかも知れませんね。	男性	40歳代
女性やLGBT（←外国人）など特定のグループを意図的に対象とする政策は好ましくないと思います。あくまで性別・年齢などにこだわらない体制を整えてほしいと思います。特定のグループを対象とすることによって新たな利益や差別が生まれます。	男性	40歳代
最近の世の中の流れで男女平等についての話はよく聞きますが、どうしても肉体的に異なるので「区別」は必要だと思います。行きすぎた「平等」にこだわりすぎないように、バランスをとった政策を行って下さい。	男性	40歳代
まず、男女平等とは何か、しっかりとした考えを共有すべき。市役所内で、この言葉を同じ意味で使い、同じ社会への目標ヴィジョンを共有すべきである。現状あまりにも曖昧で腹が立つ。	男性	50歳代
町田市がリーダー的存在として推進していったほしいと思います。	男性	60歳代
男性、女性にかかわらず、平等な市政運営をお願いいたします。	男性	60歳代
諸問題の最初となる窓口は市役所だと思う。体制、取り組みを簡潔に定期的に広報されることを希望します。	男性	70歳以上
男女平等の実質化を求めるならば、様々な分野で具体的な数値目標を示すなどの政策を期待したい。	男性	70歳以上

アンケート調査について（41件）	性別	年代
自分の住んでいる地域でどのような事が行われているのか、私も含めた今の若者は知ろうとすることが無い人が多いと思う。今回はこのアンケートで知ることができて良かったです。	女性	20歳代
このような手間のかかるアンケートを作り、配布し、返送用の用意もあり、おそらくこのあと集計もあると思うと、真剣に回答しなければと思われました。私の知らない所でこのようにあらゆる工夫をし対策をし、活動なさっている方々がいて、巡り巡って様々な恩恵に授かっているように思えました。	女性	30歳代
このようなアンケートの取り組みはとても良いと思います。回答記入中に小学生の子供に何を書いているかたずねられ、男女平等について話し合う機会になりました。	女性	40歳代
アンケートに正確に答えるために、どういう状況下におけるシチュエーション（場面）なのかを明確にしてもらいたかったです。	女性	40歳代
設問の選択肢の妥当性に感心しました。男女平等推進センターの存在をもっと知りたいと思いました。	女性	40歳代
このようなアンケートも含め、とてもすばらしい取り組みみだと思います。応援しています。	女性	50歳代
アンケートの内容が多すぎる。もう少しシェイプした質問にした方がよい。行政に協力したかったので答えましたが、しんどかったです。問題の中身が男性の言葉です。	女性	50歳代
このようなアンケートを企画して下さる事は、真剣に男女平等を考えて下さっていると見えるので、ありがたい事と思います。女性の地位が少しでも向上する事を念じております。	女性	60歳代

▼アンケート調査について（つづき）

紙ではなくWeb、ネットでのアンケートにしてほしかった。用語の解説ページは切り離して手元に残しておけるようになっていてよかった。	女性	60歳代
市役所、保健所他公の市民の為の仕事をしている方々の男女比率を公にされていないのでこのアンケートの意味が中途半端だと思います。各役職の男女比率の現在が解らない。	女性	70歳以上
（このアンケートによって）男女平等について、考える時間をいただき良かったです。	女性	70歳以上
ネット上でこのようなアンケートができると楽になります。	男性	20歳代
アンケートはスマホでもできるようにしてほしい。	男性	50歳代
アンケートをする前に町田市は、こんなに男女平等が進んでいることを示していることを示して欲しい。センターを作っても役職者が男性ばかりでは、回答してもムダのように思ってしまう。	男性	50歳代
用語解説（→手もとに取って置くため（写メ取りましたが…））とアンケート用紙は別だと良いと思います。	男性	50歳代
女性＝弱者が前提の質問に少し違和感がありました。	男性	60歳代
結果が見えるようなアンケートが、はたして本当に必要なのかと考えさせられました。	男性	60歳代

男女がともにいきいきと働ける場や機会の提供（22件）	性別	年代
男性も女性も同じように働くことができる環境を整備していくべきだと思う。そのためにはまず女性の管理職を増やす、女性の昇進を積極的に行うなどして、女性も男性と同じように働けることを示していくと良いと思う。	女性	20歳代
町田市に限定したものではありませんが、男女が平等にならないのは、派遣労働の形態で就労している人において女性が多く、そのため賃金も低く、会社の中での立場も安定しないことによる点が大きいです。町田市としても、女性の就労支援をして正社員として男性同様の立場が守られる就労を促すよう、企業側への働きかけをすすめて頂きたい。	女性	50歳代
男女平等とは、型だけで実際、社会、職場、家庭内、常に女性が弱い立場は全く変わらない。特に会社、職場では、仕事内容、賃金が女性では低い立場のままで、能力があっても、賃金待遇は男性より低いままです。	女性	50歳代
女性が非正規ではなく、正規職員として就労でき、経済的に自立できることが既婚、未婚を問わず必要だと感じます。	女性	60歳代
女性活躍推進法など女性の社会進出を応援しているように見える法律や制度はありますが、ジェンダーギャップ指数は、世界で日本は120位です。コロナ禍、雇用における差別があり、特に女性が派遣で突然契約の打ち切り解雇が多々。	女性	70歳以上
男女平等については非常にむずかしいです。町田市だけ取り組んでいても他県が男女平等に対しての差が大きいです。もっと国民全体で考えて行かねばならないと思います。企業は特に考えて欲しいですね。その人が嫌いだから能力はあってもパワハラ的に雇い止めをする、仕向ける（会社をやめる様な）様な企業は沢山あります。	女性	70歳以上
女性専用のハローワークの設置（子育て世代、共働き世代に特化している機能）。働いている女性の比率に合わせて、企業に支援金を出す。	男性	30歳代
育児後、女性が仕事を見付けづらい。特に、今の時代は、失業している人もいるので、再就職は難有り。	男性	40歳代
在宅を含めた働き方改革が必須だと思います。女性を意識して優遇すると文句をいう男性がいると思いますのでwin-winの視点で女性の地位向上に努めてはどうでしょうか。	男性	50歳代

▼男女がともにいきいきと働ける場や機会の提供（つづき）

町田を男女平等で働きやすい町にお願いします。	男性	50歳代
もっともっと女性の働きやすい町田になればと心からおもいます。女性の位置が低いと感じます。	男性	70歳以上

男女平等教育・学習の充実（22件）	性別	年代
今回のアンケートを答えて、知っている用語より、知らない用語の方が多く感じました。私と同じように年齢を問わず知らない人の方が多いのではないかと思います。中には知った方がいいこともあるので、働く前の学校等で知る機会があれば良いのかなって思いました。	女性	30歳代
各種講座の開催や情報紙の発行は興味のある人しか見聞きしないのではないかと懸念があります。学校などの教育現場で子ども達に伝えていくことで、理解ある世代が育っていくことを期待します。	女性	30歳代
教育に力を入れてほしい。排他的ではなく（男女を分けて）、生理や出産など女子の身体のこともしっかり前に知ってほしい。その理解があれば女性の出産・育児についても大きくなってから無知ではなく自然と理解できると思う。あまりに知らない世代が多く、恥ずかしいことのような意識を改めていくようにしてほしい。育児に積極的な世代が増えているのはいいことだと思います。	女性	40歳代
学校教育での意識付けが基本になると思う。ジェンダーやDV等についても学ぶ機会はあるのですか。用語の解説に出ている内容について学校で（小学校から）学び合う事が大事だと思います。	女性	50歳代
教育が一番大事だと思います。男尊女卑の教育で、セクハラ、DV、虐待の中で育ってきて、それしか知らない人は嫌だったと思っていても、切迫した時に同じ事をくり返してしまうのだと思う。一番大切なのは幼少の時から教育だと考えます。多様性を認めあえる人材を育てることこそが町田市の役割では、と要望します。	女性	60歳代
性差別はこれまでの長い歴史の中で培われてきてしまっていて、それによる慣習をなくし、新しい意識を持てるようになる事はやはりそれなりの時間がかかる事でしょう。これからの地道な活動と、特に子供達への正しい教育が必要だと思います。	女性	60歳代
市の事業については詳しくありませんが、一番大切なことは教育ではないかと考えます。	女性	60歳代
男女平等は賛成です。でもそれは小さな時から平等を教えていかないと今の日本の様に男性が上に立つような事があたり前になっていると思います。	女性	70歳以上
「男女不平等」が生まれてしまう根本の要因は、あらゆる社会的立場の確立が能力や役割だけでなく性別を通じても行われてしまうことにあると思います。また、この背景には、「男はこうあるべき」「女は普通こうだよ」といった同調圧力があると考えます。この問題を真に解決するためには、個人一人一人がもっと「自分」を強く持ち、「人がこうだからこう」「普通こうだから自分もこう」といった主体性の無い考え方を捨て、柔軟で自由な発想を持てるようになる必要があります。男女関係なく、子供の頃から、大人の責任において教育される必要があると強く思います。	男性	20歳代
大人になってからの教育では浸透しない。小学校から、しかも「教える」ではなく、環境として、自然に取り入れるように出来る事が最良。	男性	70歳以上

男女平等について（19 件）	性別	年代
ニュース等で男女平等についての話題をよく目にしますが、女性は生理や出産などによる体調の変化や、男性との体格の差などがあり、身体づくりが違うので、男女平等でなくてもしょうがない部分があると思います。なんでもかんでも男女差別に結びつける風潮に違和感があります。	女性	30歳代
男女平等という言葉があること自体、差別されているように思う。	女性	50歳代
「男女」のくくりのない社会となりますように。	女性	60歳代
町田市に限らず「男女平等」を押し過ぎて適性や能力の評価よりも男女比率や達成率等の数値目標を優先しすぎるあまりに他者の不利益や男女不平等・女性優先（優遇）の発生を危惧します。実際に女性同士でも不公平感が生じている様です。	男性	50歳代

男女がともに担う子育て・介護の支援の充実（17 件）	性別	年代
ただ女性の管理職を増やせばよいとは思いません。男性女性関係なくその仕事において優秀な人、適性のある人、働きつづけたい人などが選択肢を持てるようになるべきです。それらの選択肢を持つためには行政と企業からの子育て、介護支援の充実が必須かと思えます。	女性	20歳代
町田市は子育て支援がとても充実していると思います。今年から年収とわず小学生もマル都医療券が使用できるようになり、とてもありがたいです。出産前後の際は家事サービスも使用させて頂きとても助かりました。もっとファミサポなどの周知があがり、使用できるようになってほしいと思います。	女性	30歳代
保育園に入りやすくなるまちにしてほしいです。	女性	30歳代
男女平等社会には行政の「子育て」「介護」のサポートが必要だと実感しています。スピード感を持っての取り組みを要望致します。	女性	50歳代
町田市に限りませんが、女性が家庭で育児、介護を担わされるので、社会での活躍の機会を奪われているのが現状で、育児、介護の施設のより一層の充実は必須。又、問題なのはそれに従事されている方々の待遇（保育・介護職の多くは女性で、その方々の賃金も低くおさえられている）も一般企業と同等まで引き上げ、男性でも就職しやすいレベルに引き上げることが、女性が社会で活躍し続ける為の受け皿側として絶対必要。よろしくお願いします。	女性	50歳代
保育所の拡充	男性	30歳代
男女平等や子育て、介護といった社会福祉に関するモデル都市となるように多様な政策を実施して欲しい。	男性	40歳代
夜遅くまで預けられる保育施設の増加や、そこで働く保育士への手厚い待遇を設けることが女性の社会進出には不可欠。	男性	40歳代
男女平等や子育て、介護といった社会福祉に関するモデル都市となるように多様な政策を実施して欲しい。	男性	40歳代
児童手当の20歳未満までの延長。医療手当の支給（子供に対する）を希望致します。	男性	50歳代

人権の尊重について（17 件）	性別	年代
男女だけでなく、LGBTQ+コミュニティへの理解を広められたら良いです。	女性	20 歳代
性別にかかわらず全ての人が平等で平和に暮らしていける市になればいいなと思っています。	女性	20 歳代

▼人権の尊重について（つづき）

最近、子供の悲しい報道を見るたびに男×女の夫婦より、本当に子供を愛して育ててくれる人達に育ててもらえないのかと考えます。自分も、長く子供に恵まれませんでした。今は運よく自分の子を育てていますが、女×女でも、男×男の家庭でも、本当に子供を愛して育ててくれる人達に委ねる事も考えて下さい。	女性	30歳代
LGBTのことも視野に入れているのであれば“男女”という言葉も正しいのでしょうか。まずは、そこから考えてほしい。	女性	40歳代
男女という性差を意識するのは当然だが、いずれもっと個々人を意識し、多様なセクシャリティを認識していくべきだと思う。	女性	50歳代
おそらく、私の知識、認識不足ですが、どれほどの男女格差が今なお存在しているのであろうかと思えます。しかし、大事なのは女性側の底上げではなく、全ての人が尊重されなくてはならないという事だと思います。家庭であれ職場であれ、そこにいる人全てが男性女性関係なく、尊重というベースの元に話し合われた結果に基づいて行動していく事が結果的には平等につながるのではないのでしょうか。	女性	50歳代
このアンケートの記入で災害者に性的マイノリティの方々への配慮も必要だと気付かされました。災害時になってから対応を考えるのではなく、市としての対応のアウトラインだけでも作っておくことが望ましいと思いました。	女性	60歳代
平等、不平等は、性別の問題ではないと思う。	男性	50歳代
種としての範疇は、男女は同じ。個として見れば、雌雄も含めそれぞれの違いがある。すべてを、いっしょに判断するのには、無理があると思う。	男性	60歳代

男女平等参画のための意識づくり（15件）	性別	年代
駅や商店などにメッセージ（家事を時給にすると〇〇円や家事、育児、介護は男女平等、親せきづき合い・だんなの実家でも男女平等など）を書いたものをのぼりや掲示したり、放送でくり返し流したりしてはいかがでしょうか。	女性	30歳代
町田市に男女平等推進の取り組みがあること自体を初めて知りました。わたしはLGBTQA当事者（L）ですが、パートナーシップ制度ができれば、もう少し暮らしやすくなると思います。社会全体で男性が圧倒的に優遇されているのは日本全体の問題ですが、今現在ある程度以上の社会的立場にある男性こそ意識を変えていく必要があると感じています。	女性	30歳代
「町田市」ではありませんが、特に高齢の方は男尊女卑の考えが男女ともに根底にあり、その考えを子供、孫に伝える（日常生活などで）ために、若い人でも（古い世代と）意識がそう変わらない事が多いのではないかと思います。高齢の方は、意識を変えるのは難しいので難しい問題だと思います。ただの意見ですが。	女性	40歳代
男性も女性も既成概念にとらわれない、自由で自分らしい生き方ができ、よりよい人生が送れるようになるとよい。男女共にまずは意識改革が重要であると思う。	女性	50歳代
性差・個性等あったとしても、人格は平等であるということが、いちいち取り上げなくても当たり前であるような状態になってほしいです。町田市でもどこでも世の中の大きな意識改革が進むことを望みます。	女性	70歳以上
町田市が「男女平等参画都市」の宣言をしていることをまったく知りませんでした。メディアやSNSからの情報で、男女平等の意識は大切だということは重々承知していますが、実際の日々の会社での仕事や自治会（団地）で行なわれているのは、それとは掛けはなれたことばかり…という実感です。正直申して、私より上の世代がまだ現役でいる限りは、世のなかそんなに変わっていかないのでは、と思います。	男性	40歳代
若い世代の方が男女平等の意識が高く、年代が高くなるにつれて意識が低いように思います。	男性	50歳代

あらゆる分野への女性の参画推進と男女平等参画の実現（12件）	性別	年代
今の若い人達をみていると、学校でも社会でも、スポーツの世界でも、女性の方が、ノビノビと活躍しているように思います。むしろ、男性の方がウジウジと委縮している感があります。政治や経済の世界では、まだ今の所女性が少ないと感じますが、今後は、女性がもっともっと活躍していくと思います。女性の方が発想力が豊かだと思います。	女性	70歳以上
市役所と関連のある組織全てに女性を参画させることを確実に実行していく。クォーター制が全て良ではないが、現在の市議員市職員に女性を積極的に増やすしくみを作る。	男性	70歳以上

性別にかかわらず個人の能力尊重の促進（12件）	性別	年代
男女の差はあって当たり前、男女と注目する事なく、個人の能力を伸ばす教育を。	女性	60歳代
適材適所、性別ではなく能力で判断すれば男女比などは関係ない。	男性	30歳代
男女関係なく、優秀な方が人の上に立って良くなる様、制度やサービス充実に取り組んでいただけると良いと思います。	男性	30歳代
女性の登用を意識するのではなく、女性一個人としての能力を見た時に登用できるか決める事だと思う。（そこは実力で）数を意識するあまり、能力のない人を登用しても意味がない。あとは、その女性の家族がどう協力していくかだと思う。	男性	50歳代
男性、女性という区別をすべきではなく、その人個人を尊重すべきであろうと思っています。	男性	50歳代
性別は関係なく、能力で選ばれる社会を実現して欲しい。	男性	60歳代

男女平等社会の進展の実感（8件）	性別	年代
今は共働きがあたり前の時代となりご主人が子育てをされている姿を見てはうらやましい限りです。確実に男女平等の時代が来ていると思っています。	女性	60歳代
自分（60代）世代ではあたり前の男女差（夫・婦）（父・母親）がありましたが、子供（30代）世代では少なくとも家庭内（子育て）での役割はほぼ平等となっています。	女性	60歳代
私達が結婚した頃に比べると、女性の職場進出、子育て、進学とずいぶん変わりました。今すぐには男女平等と云う訳にはならないと思いますが、少しずつ近づいているような気がします。	女性	70歳以上
昔より少しは男女平等にはなっているように思いますが、まだ全体的な男女平等には時間も長くかかると思う。皆様頑張って下さい。	女性	70歳以上

DVや性差別への対策（5件）	性別	年代
アンケートの平等参画社会実現のための施策要望の選択肢で、「女性に対するあらゆる暴力を根絶するように啓発を進める」とあるが、男女平等の視点から見ると、違和感がある。男性に対する暴力などもあるのではないかな。	女性	40歳代
DVを相談したとしたらどんな支援を受けられるのですか。 ①共有資産（家）の売却、②その後の自立した経済力を身につけ③、子供の居場所と精神的安定確保まで支援してくれるシステムがあるのなら利用したいです。それが無いと思われるので、どこにも相談できません。	女性	50歳代

性の相互理解と尊重（5件）	性別	年代
男女平等で一番違うのはお金ではないでしょうか。働く内容が違うとはいえ離婚した場合一番困るのは生活費です。男性にしか出来ない事、女性にしか出来ない事もあります。お互いに思いやりをもって生きていけば男女平等も余り議論されなくなるのではないのでしょうか。	女性	70歳以上
男と女では、できることが限られるものもある。ただしお互い理解し、協力して、行うことが大切です。	男性	40歳代
男性、女性がお互いに思いやる必要がある。	男性	60歳代

母子家庭へ支援（4件）	性別	年代
離婚されて、シングルマザーになる人も増えてきていると思うので、シングルマザーの仕事のあっせんなどにも力を入れて欲しいと思います。片親の子ども、最低限の教育は受けて、社会人になってもらいたいと思います。そのためには社会の受皿も多い方がいいと思うので、町田市も協力してもらいたいと思います。	男性	40歳代
女性、特に一人親の貧困は大きな問題だと思います。本当に困っている世帯への支援を拡充し、貧困を“子”に連鎖させないことが重要だと思います。全体の底上げ（男女平等参画の啓蒙）と、個別問題の対応（女性ひとり親世帯の支援拡充）の両面の実施を望みます。	男性	40歳代

その他（33件）	性別	年代
自分の日常生活では特に不平等を感じることはないのでお役に立てずすみません。	女性	40歳代
町田市が男女平等であると思ってなかったです。どの辺りが、男女平等なのでしょう。	女性	50歳代
町田市は福祉に力を入れておられるとの事、それは今でもそうなのか。私の望む事は男女平等よりも高齢者介護に関する施策、サービスをもっと充実させてもらいたいと思っている。宜しくお願い致します。	女性	60歳代
男女平等について日ごろかんがえない	女性	70歳以上
現在はコロナの中、人々が、不安な毎日を送っている状況ですね。さまざまな心配事のある時代、少しでも心おだやかに日々を過せる事が皆様の思いでしょう。無事にコロナ脱出を願う毎日です。お役所のお仕事も、どうぞお身体に気をつけられましてお勤め下さいませ。	女性	70歳以上
男女平等むずかしい	男性	30歳代
男女豊かに暮らせれば良いと思います。	男性	30歳代
障がい者の雇用を増やして欲しい。	男性	50歳代
現役時代は、「男は仕事、家は女」と思っていたが、定年後は家事もそこそこ手伝うようにはしている。男女平等の趣旨は理解しようとしているがピンとこない。	男性	70歳以上